PENTAX®

デジタル一眼レフカメラ

K10D

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に
必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタル一眼レフカメラ K10D をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

使用できるレンズについて

このカメラで使用できるレンズは、基本的にDA・D FA・FA Jまたは絞り**A**（オート）のポジションのあるレンズです。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、本書のp.58およびp.210をご覧ください。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXおよびペンタックス、smc PENTAXはペンタックス株式会社の登録商標です。
SD SDHC SDロゴおよびSDHCロゴは商標です。
DNG DNGロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本機を使用するにあたって

- 強い電波や磁気を発生する施設などの周囲では、カメラが誤動作を起こす場合があります。
- 液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。
PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

PictBridgeについて

PictBridgeは、プリンターとデジタルカメラを直接接続して、画像をプリントアウトするダイレクトプリントの統一規格で、カメラ側から簡単な操作で画像をプリントできます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび液晶モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- SDメモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- バッテリーは幼児の手の届かない所に保管してください。万一、バッテリーを飲みこんだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプターをご使用になったり、専用のACアダプターを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、バッテリーまたはACアダプターを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損・火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

- バッテリーをショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こしたときは、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分ご注意ください。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ちつづけると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- ストロボ発光部に手を密着させたり、衣服をかぶせたまま発光させないでください。火傷を負ったり、衣服が焦げる恐れがあります。

バッテリーの取り扱いについてのご注意

- このカメラでは、決められたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの破裂、発火の原因となります。
- バッテリーの「+」と「−」の接点に、針金やヘアピンなどの金属類が触れないようにご注意ください。またバッテリーをカメラから取り外して保管するときは、ショートしないように必ず付属の保護キャップを取り付けておいてください。
- バッテリーは分解しないでください。無理に分解をすると、破裂や液漏れの原因となります。
- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こした時は、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分ご注意ください。

バッテリー充電器の取り扱いについてのご注意

- バッテリー充電器は、必ず付属品のD-BC50をご使用ください。また指定された電源以外の電圧で使用しないでください。指定以外の電源・電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。AC 指定電圧は、100-240Vです。
- 充電式リチウムイオンバッテリーD-LI 50 以外は充電しないでください。破裂・発火の恐れがあります。また、充電器の故障の原因となります。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 万一、内部に水などが入った場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。

取り扱い上の注意

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像の記録内容の保証についてはご容赦ください。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0℃～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。

- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.49）をご覧ください。
- レンズ、ファインダー窓のホコリは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロワーは、レンズを破損させる恐れがありますので、使用しないでください。
- CCDの清掃につきましては、できるだけ当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にご用命ください。（有料）
- 破損や故障の原因になりますので、液晶モニターの表面を強く押さないでください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属していますCD-ROMと弊社ホームページから登録が可能です。
同梱の「PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3 使用説明書」（Windowsをお使いの方：p.9、Mac OSをお使いの方：p.10）をご参照ください。

目次

準備編 41

使ってみよう 61

機能リファレンス 117

付録 203

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1　お使いになる前に

カメラの特長や付属品、各部の名称や機能について説明しています。

2　準備編

お買い上げ後、画像を撮るまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影をはじめる前に、操作を行なってください。

3　使ってみよう

基本の撮影方法と再生方法、印刷の方法を説明しています。この章を読めば、撮影、再生、印刷のすべての基本操作がわかります。

4　機能リファレンス

K10Dをより深く使いこなすための機能をご紹介します。

5　付録

困ったときの対処のしかたや別売品の案内、各種資料を記載しています。

操作説明中で使用されている表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

1 お使いになる前に

お使いになる前に、同梱品とカメラ各部の名称や機能を確認してください。

メニュー画面やFnメニュー画面の操作時は、カメラの設定状況により設定変更できない項目は、グレー表示になり、選択できません。

K10D カメラの特長

- 23.5×15.7mm、有効画素数1020万画素のCCDを採用し、高精細、高ダイナミックレンジの撮影ができます。
- CCDシフト方式の手ぶれ補正機構SR（Shake Reduction）を搭載。レンズの種類を問わずに手ぶれを防いで美しく撮影できます。
- 11点測距AFセンサー（中央部9点はワイドクロスエリアAF）を搭載しています。
- 倍率0.95倍で視野率95％の従来の35ミリ判カメラと違和感のないファインダーで、マニュアルによるピント合わせが簡単に行えます。また、ファインダーには測距点が赤く光るスーパーインポーズ機能を搭載しています。
- 液晶モニターには、2.5型の大型液晶を採用。約21万画素の高精細・広視野角タイプ、明るさ調整機能付きで見やすさを向上させています。
- デジタルプレビューによる画像の確認機能を搭載し、よりイメージに近い撮影ができます。
- ユニバーサルデザインの考え方を随所に導入し、大きな文字とハイコントラストで見やすい大型液晶モニター、わかりやすいメニューにより、さらに操作しやすくなりました。
- カメラ本体の各ダイヤルやボタン部、ボディの接合部、開閉部などには防滴・防塵処理が施されています。
- CCDにはゴミがつきにくいSPコーティングが施されています。さらにダストリムーバル機能で付着したゴミを落とすことができます。
- 縦位置レリーズボタンを備えたバッテリーグリップ D-BG2（別売）が装着可能。また本体側、グリップ側の両方にバッテリー（D-LI50）を装填すれば、容量の多い方を優先的に使うので、電源を効率よく使用できます。メニュー操作で、どちらか片方を優先使用するように設定し、無くなり次第容量の残っている方に切り替わるように設定することも可能です。
- 画像の記録形式は汎用性の高いJPEG形式と、高品質で撮影後の画質調整が自在なRAW形式が選べるほか、JPEG+RAWの同時記録が可能。またRAWで撮影した画像は、カメラ内部でも簡易的な現像ができます。
- 意図する露出にフレキシブルに対応する、ハイパープログラム・ハイパーマニュアルを採用。デジタルカメラならではの露出コントロールの手段として、任意に設定した感度に応じて絞り値・シャッター速度が自動調整される感度優先モード**Sv**や、設定した絞り値・シャッター速度に合わせて感度が自動で変更される、シャッター＆絞り優先モード**TAv**が搭載されています。

35ミリ判一眼レフカメラとK10Dでは、35ミリ判フィルムとCCDのフォーマットサイズが異なるために、同じレンズを使用しても写る範囲（画角）は同じにはなりません。

35ミリ判フィルムとCCDの大きさ

35ミリ判フィルム	：36×24mm
K10DのCCD	：23.5×15.7mm

K10Dと35ミリ判カメラでほぼ同じ範囲（画角）を撮影するには、35ミリ判カメラのレンズの焦点距離を約1.5で割った焦点距離のレンズを使用してください。

例）35ミリ判カメラで150mmのレンズを使う場合と同じ画角にするには、

150÷1.5＝100

K10Dでは、100mmのレンズを使用すれば良いことになります。

逆に、K10Dで使用しているレンズの焦点距離を35ミリ判カメラの焦点距離に換算するには、約1.5倍してください。

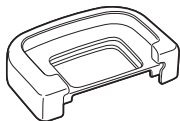
例）K10Dに300mmレンズを使用した場合、

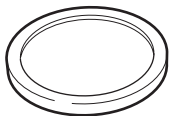
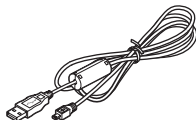
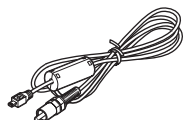
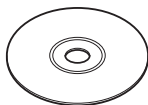
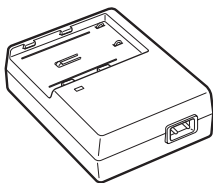
300×1.5＝450

35ミリ判カメラで450mmレンズ相当を使用したのと同じになります。

主な同梱品の確認

このカメラには以下の付属品が同梱されています。
カメラをお使いになる前に、付属品に不足がないかお確かめください。

ホットシューカバー FK
（カメラ装着）

アイカップFP
（カメラ装着）

MEファインダーキャップ

ボディーマウントカバー
（カメラ装着）

USBケーブル
I-USB17

ビデオケーブル
I-VC28

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW55

ストラップ
O-ST53

充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI 50

バッテリー充電器
D-BC50

ACコード
D-CO2J

使用説明書（本書）

PENTAX PHOTO Browser 3／
PENTAX PHOTO Laboratory 3
使用説明書

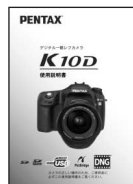
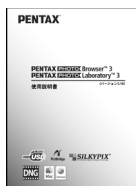
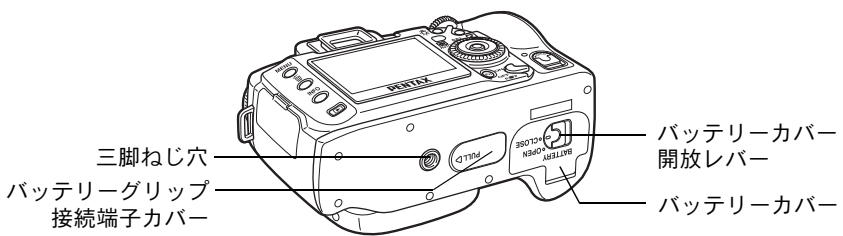
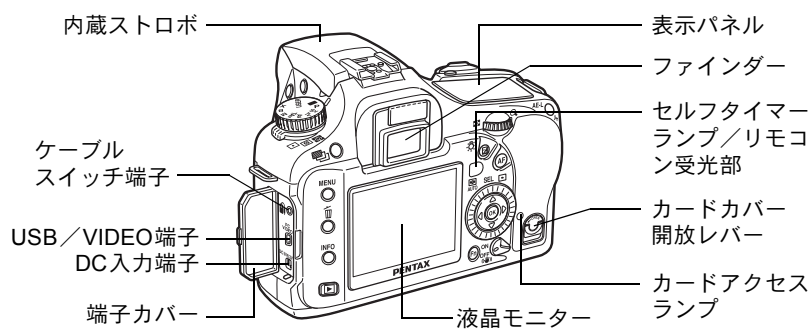
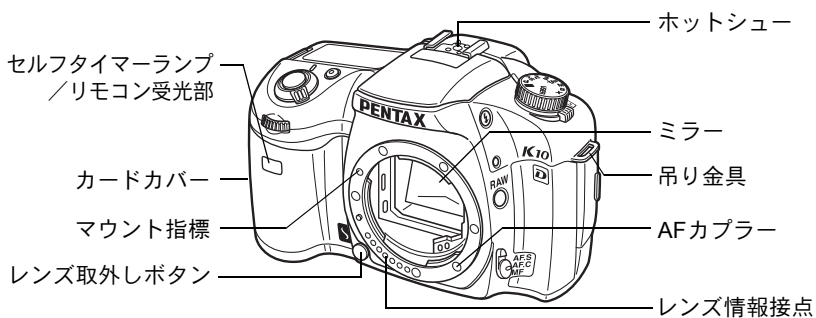
保証書

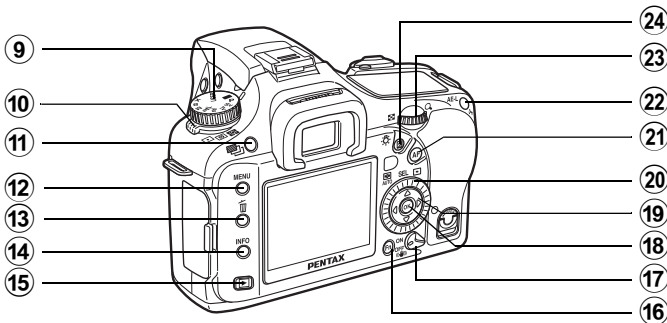
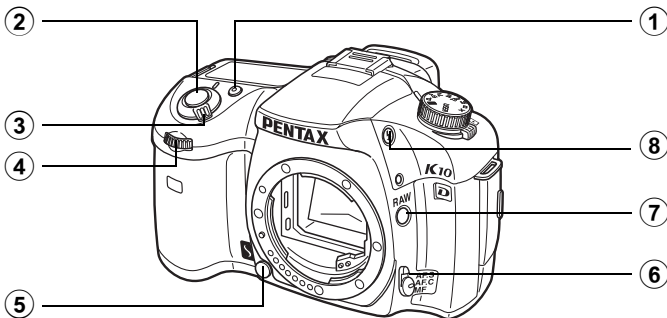
各部の名称と機能

本体

セルフタイマーランプ／リモコン受光部
カードカバー
マウント指標
レンズ取外しボタン
ホットシュー
ミラー
吊り金具
AFカプラー
レンズ情報接点
PENTAX
K10D
RAW
AF.S
AF.C
MF

内蔵ストロボ
ケーブルスイッチ端子
USB／VIDEO端子
DC入力端子
端子カバー
表示パネル
ファインダー
セルフタイマーランプ／リモコン受光部
カードカバー開放レバー
カードアクセスランプ
液晶モニター
MENU
INFO
PENTAX
AE-L
SEL
AUTO
OK
Fn
ON
OFF

三脚ねじ穴
バッテリーグリップ接続端子カバー
バッテリーカバー開放レバー
バッテリーカバー
MENU
INFO
PENTAX
PULL
CLOSE
OPEN
BATTERY

撮影時

撮影時に使用するボタンの機能を示します。

① **グリーンボタン**
露出設定値をリセットしたり(p.148)、**M**（ハイパーマニュアル）モードで適正露出値になるように自動調整します。(p.158)

② **シャッターボタン**
画像を撮影します。（p.65）

③ **電源レバー**
電源のオン／オフ（p.52）とプレビュー(p.170)をします。

④ **前電子ダイヤル**
シャッター速度や露出補正値を設定します。

⑤ **レンズ取り外しボタン**
レンズを取り外すときに押します。（p.59）

⑥ **フォーカスモード切替レバー**
オートフォーカスモード（**AF.C**／**AF.S**）(p.130）とマニュアルフォーカスモード（p.136）を切り替えます。

⑦ **RAWボタン**
JPEGと同時にRAWファイルを保存します。（p.122）

⑧ **⚡UPボタン**
内蔵ストロボをポップアップします。（p.71）

⑨ **モードダイヤル**
露出モードを切り替えます。（p.38）

⑩ **測光モードレバー**
測光モードを切り替えます。（p.142）

⑪ **ボタン**
露出ブラケット撮影を設定します。（p.163）

⑫ **MENUボタン**
「撮影」メニュー（p.31）を表示します。続いて、十字キー（▶）を押すと、「再生」メニュー（p.31）、「詳細設定」メニュー（p.32）、「**C**カスタム」メニュー（p.33）に切り替わります。

⑬ **ボタン**
画像を消去します。（p.100）

⑭ **INFOボタン**
液晶モニターに撮影情報を表示します。（p.23）

⑮ **ボタン**
再生モードに切り替えます。（p.85）

⑯ **Fnボタン**
Fnメニュー画面を表示させます。続いて押す十字キー（▲▼◀▶）によって作動が決まります。（p.36）

⑰ **手ぶれ補正スイッチ**
手ぶれ補正機能をオン／オフします。（p.67）

⑱ **OKボタン**
メニュー画面で選択した設定を決定します。

メニュー画面が表示されていないときに押すと、表示パネルとファインダー内に、ISO感度が表示されます。

⑲ **十字キー（▲▼◀▶）**
メニュー画面やFnメニュー画面でカーソルの位置変更、項目の変更をします。

⑳ **測距点切替ダイヤル**
ピントを合わせる位置を設定します。（p.133）

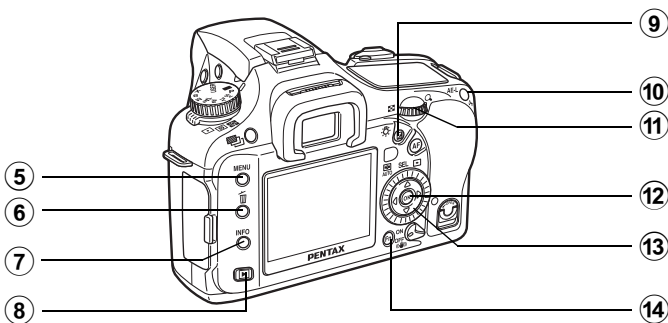
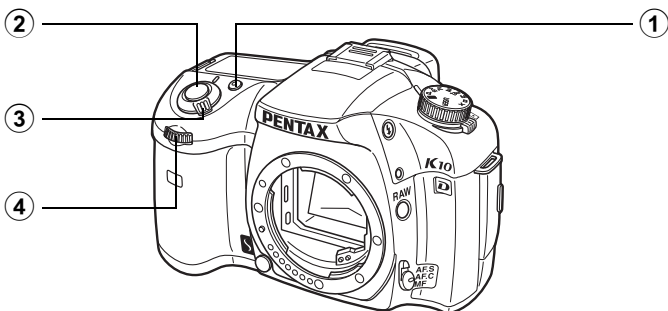
㉑ **AFボタン**
被写体に焦点を合わせて測光します。（p.130）

㉒ **AE-Lボタン**
撮影前の露出を記憶させます。（p.162）

㉓ **後電子ダイヤル**
絞り値やISO感度を設定します。

㉔ **ボタン**
このボタンを押しながら、前電子ダイヤルを回すことで、露出補正値を設定できます。（p.161）

再生時

再生時に使用するボタンの機能を示します。

① **グリーンボタン**
拡大表示時に表示倍率を上げます。（p.88）

② **シャッターボタン**
半押しすることで撮影モードに切り替わります。

③ **電源レバー**
電源のオン／オフをします。（p.52）の位置に合わせると、撮影モードに切り替わり、プレビューが行われます。

④ **前電子ダイヤル**
拡大再生時に前後の画像を表示（p.88）させたり、デジタルフィルタの調整（p.95）に使います。

⑤ **MENUボタン**
「再生」メニュー（p.31）を表示します。続いて、十字キー（◀▶）を押すと、「詳細設定」メニュー（p.32）、「Cカスタム」メニュー（p.33）、「撮影」メニュー（p.31）に切り替わります。

⑥ **ボタン**
画像を消去します。（p.100）

⑦ **INFOボタン**
液晶モニターに撮影情報を表示します。（p.24）

⑧ **ボタン**
撮影モードに切り替えます。

⑨ **ボタン**
拡大表示時に表示倍率を下げます。（p.88）

⑩ **ボタン**
画像を誤って消去しないようにプロテクトします。（p.104）

⑪ **後電子ダイヤル**
再生した画像を拡大表示（p.88）、または、マルチ画面表示（p.89）します。

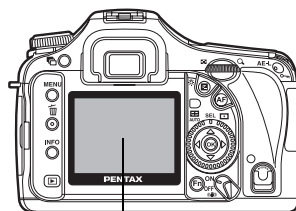
⑫ **OKボタン**
メニュー画面や再生画面で選択した設定を決定します。

⑬ **十字キー（▲▼◀▶）**
メニュー画面やFnメニュー画面、再生画面でカーソルの位置変更、項目の変更をします。

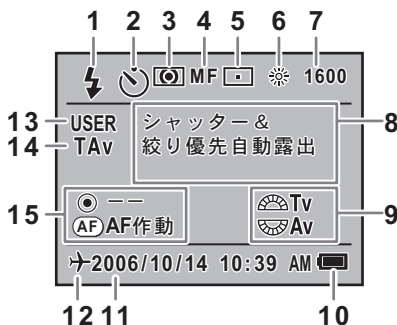
⑭ **Fnボタン**
Fnメニュー画面を表示させます。続いて押す十字キー（▲▼◀▶）によって作動が決まります。（p.36）

撮影情報の表示ガイド

液晶モニター

液晶モニターに表示される内容は、カメラの状態ごとに次のようになります。

電源オン時またはモードダイヤル操作時

電源オン時、またはモードダイヤルを回したときに、液晶モニターに3秒間ガイド表示されます。

「詳細設定」メニューの「ガイド表示」をオフにすると、表示されません。(p.32)

1	ストロボモード（有効なモードを表示）(p.72)	**8**	露出モード名称（p.38）
2	ドライブモード／オートブラケット／多重露出（p.36）	**9**	電子ダイヤルガイド
3	測光方式（p.142）	**10**	バッテリー残量
4	フォーカスモード（p.130）	**11**	現在の日時（p.190）
5	測距点位置（p.132）	**12**	ワールドタイム（p.191）
6	ホワイトバランス（p.123）	**13**	USERモード
7	ISO感度（p.140）	**14**	露出モード
		15	ボタンガイド

※ 3、5、6、7 は標準設定以外にセットしたときだけ、12 はワールドタイム設定をオンにしているときだけアイコンが表示されます。

撮影時

撮影時に**INFO**ボタンを押すと、液晶モニターに撮影機能の設定内容が15秒間表示されます。

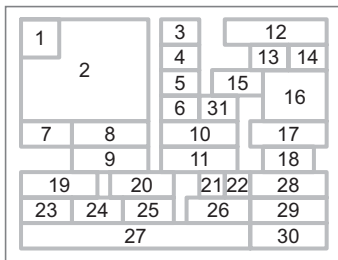
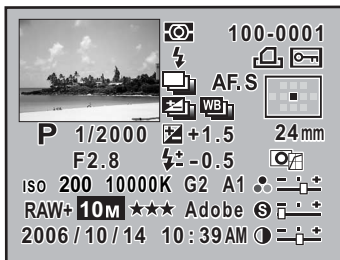
● 詳細情報表示

1 露出モード（p.38）
2 USERモード（p.167）
3 測光方式（p.142）
4 ストロボモード（p.72）
5 ドライブモード（p.36）
6 シャッター速度（p.138）
7 絞り値（p.139）
8 露出補正値（p.161）
9 ストロボ光量補正値（p.172）
10 露出ブラケット（p.163）／多重露出（p.166）
11 拡張ブラケット（p.165）
12 画像仕上（p.120）
13 ISO感度（p.140）
14 ISO AUTO時の調整範囲（p.140）
15 ホワイトバランス（p.123）
16 GM補正値（p.124）
17 BA補正値（p.124）
18 色空間
19 記録形式（p.122）
20 JPEG記録サイズ（p.118）
21 JPEG画質（p.119）
22 手ぶれ補正（p.67）
23 フォーカスモード（p.130）
24 測距点位置（p.132）
25 レンズ焦点距離（p.67）
26 彩度（p.121）
27 シャープネス（p.121)
28 コントラスト（p.121)
29 ワールドタイム（p.191）
30 現在の日時（p.190）
31 バッテリー残量（p.46）

再生時

画像再生時に**INFO**ボタンを押すごとに、通常表示、ヒストグラム表示、詳細情報表示、情報表示なし（画面のみ）の順で画面表示が切り替わります。

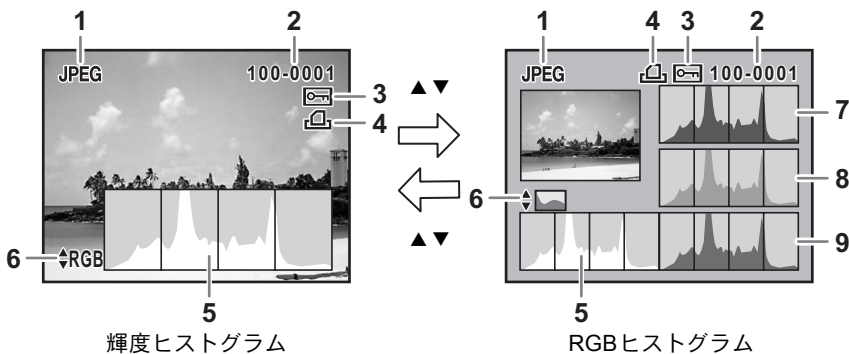
▶ボタンを押したとき、はじめに表示する情報は前回表示した画面表示です。

● 詳細情報表示

1	回転情報	**17**	レンズ焦点距離
2	撮影画像	**18**	画像仕上げ
3	測光モード	**19**	ISO感度
4	ストロボモード	**20**	ホワイトバランス／色温度
5	ドライブモード	**21**	WB補正（GM）
6	露出ブラケット／多重露出	**22**	WB補正（BA）
7	露出モード	**23**	記録形式
8	シャッタースピード	**24**	JPEG記録サイズ
9	絞り値	**25**	JPEG画質
10	露出補正値	**26**	色空間
11	ストロボ光量補正値	**27**	撮影日時
12	フォルダ番号、ファイル番号	**28**	彩度
13	DPOF設定	**29**	シャープネス
14	プロテクト	**30**	コントラスト
15	フォーカスモード	**31**	拡張ブラケット
16	測距点位置		

※　4（ストロボモード）と11（ストロボ光量補正値）はストロボが発光した画像でのみ表示されます。

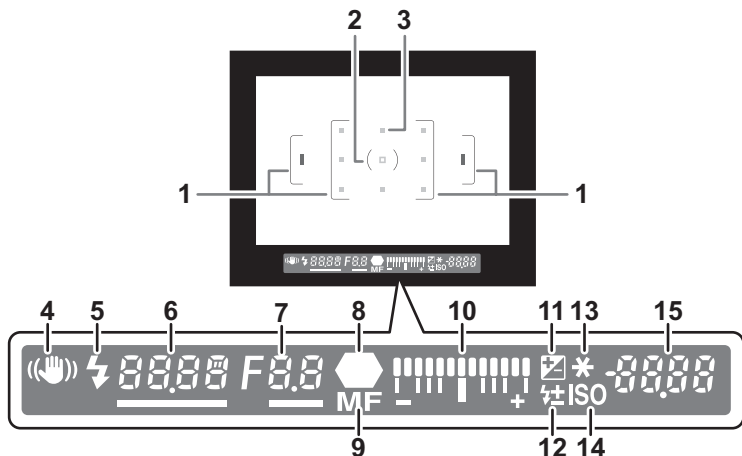
● **ヒストグラム表示**

K10Dでは、画像の明るさの分布を表した「輝度ヒストグラム」と、色の強度の分布を表した「RGBヒストグラム」の2種類のヒストグラムを表示させることができます。「輝度ヒストグラム」と「RGBヒストグラム」の表示は十字キー（▲▼）で切り替えます。

輝度ヒストグラム　　RGBヒストグラム

1	記録方式	**6**	輝度ヒストグラム/RGBヒストグラム切り替え
2	画像のフォルダ番号とファイルNo.（p.196、p.199）	**7**	ヒストグラム（R）
3	画像プロテクト表示（p.104）	**8**	ヒストグラム（G）
4	DPOF設定	**9**	ヒストグラム（B）
5	ヒストグラム（輝度）（p.186）		

※　4（DPOF設定）はDPOFの設定がされている画像でのみ表示されます。

メモ　「▶再生」メニューの「再生時の表示方法」で「白とび黒つぶれ警告」をオンにすると、白とび黒つぶれ部分が点滅表示されます。（p.186）

ファインダー

1 AFフレーム（p.60）

2 スポット測光フレーム（p.142）

3 測距点（p.132）

4 手ぶれ補正表示（p.67)
手ぶれ補正中に点灯

5 ストロボ発光表示（p.71）
ストロボ発光可能なときは点灯、ストロボがお勧めなのに発光する設定になっていないとき、またはストロボ充電中に点滅する

6 シャッター速度（p.150）
撮影時および調整時のシャッター速度（前電子ダイヤルによるシャッター速度調整が可能なときはアンダーラインが点灯）

7 絞り値（p.152）
撮影時および調整時の絞り値（後電子ダイヤルによる絞り調整が可能なときはアンダーラインが点灯）

8 合焦マーク（p.64）
合焦したとき（ピントが合ったとき）に点灯

9 マニュアルフォーカス表示（p.136）
フォーカスモードが**MF**の場合に点灯

10 露出バー（p.157）
露出モードが**M**時の適正露出値との差／露出補正値を表示

11 露出補正表示（p.161）
露出補正有効時、露出補正調整時に点灯

12 ストロボ光量補正表示
ストロボ光量補正時に点灯

13 AEロック表示（p.162）
AEロック中に点灯

14 ISO感度警告表示（p.141）
警告設定値以上のISO感度の場合に点灯

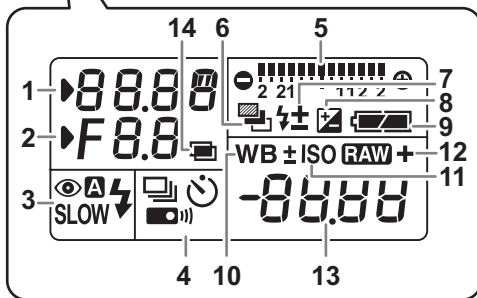
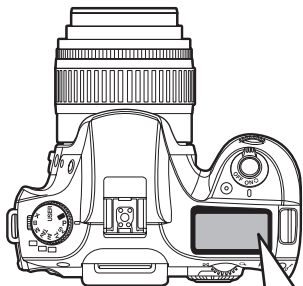
15 撮影可能枚数／露出補正値／ISO感度確認
現在の記録形式（p.122）、JPEG記録サイズ（p.118）、JPEG画質（p.119）であと何枚撮影できるかを表示
連続撮影可能枚数を表示（p.34）
露出補正調整時には露出補正値を表示（p.147）
感度優先モード／シャッター＆絞り優先モードのときは、ISO感度を表示

- シャッターボタンを半押しにすると、オートフォーカスに使われた測距点が赤くスーパーインポーズされます。（p.132）
- 「**C**カスタム」メニューの「AFボタンの機能」が「AFキャンセル」に設定されている場合、**AF**ボタンを押している間、ファインダー内に**MF**が表示されます。
- 感度優先モード／シャッター＆絞り優先モード以外では、**OK**ボタンを押している間、14にISO感度が表示されます。

表示パネル

カメラ上部の表示パネルには次のような情報が表示されます。

1 シャッター速度（p.150）
2 絞り値（p.152）
3 ストロボモード表示（p.71）
- ϟ ：内蔵ストロボ充電完了（点滅はストロボお勧めまたは不適合レンズ警告）
- ◉ ：赤目軽減機能有効
- A ：自動発光
- SLOW ：スローシンクロ

4 ドライブモード（p.36）
- □ ：1コマ撮影
- ⧉ ：連続撮影
- ⏲ ：セルフタイマー撮影
- ▭)) ：リモコンモード撮影

5 露出バー（p.157）
6 オートブラケット（p.163）
（露出ブラケットと拡張ブラケット併用時は点滅）
7 ストロボ光量補正表示
8 露出補正表示（p.161）
9 電池残量表示
10 ホワイトバランス（p.123）
（オート設定時は非表示）
- ± ：ホワイトバランス補正

11 ISO感度警告表示
12 RAW ：RAW
- RAW + ：RAW+JPEG

13 撮影可能枚数／露出補正値／PC（Pb）
（PC：マスストレージ、
Pb：PictBridge）
14 多重露出（p.166）

⊠ボタンを押すと表示パネルのバックライトが点灯します。「**C**カスタム」メニューの「表示パネルの照明」で点灯しない設定にできます。

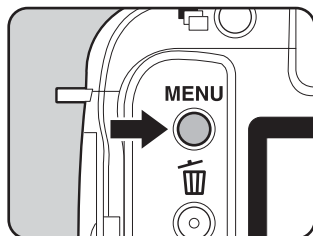
メニューを使う

メニューの操作方法

「撮影」メニュー、「再生」メニュー、「詳細設定」メニュー、「C カスタム」メニューの操作方法を説明します。

メニュー画面を表示する

1 **撮影モードで MENU ボタンを押す**

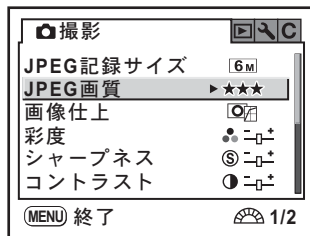
液晶モニターに「撮影」メニューが表示されます。

2 **十字キー（▶）を押す**

1回押すごとに「再生」メニュー、「詳細設定」メニュー、「C カスタム」メニューが表示されます（右図は詳細設定）。

メニュー項目を選択し、設定する

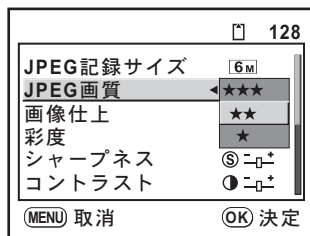
ここでは「撮影」メニューの「JPEG画質」を設定する場合を例に説明します。

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

前電子ダイヤルで、メニューをページ単位で移動できます。

4 十字キー（▶）を押す

JPEGで記録する場合に設定できる画質が表示されます。

ポップアップがあるときは、十字キー（▶）でポップアップに移行します。

画質を変更すると、その画質での撮影可能枚数が画面右上に表示されます。

5 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

6 OKボタンを押す

メニュー画面に戻ります。続いて他の項目を設定できます。

MENUボタンを押すと、撮影または再生できる状態になります。

MENUボタンを押してメニュー画面を閉じても、電源をオンにしたままバッテリーを取り出したりするなど誤った操作で電源をオフすると設定は保存されません。

メモ

- ポップアップが表示されていないときは、前電子ダイヤルを使って、前後のページに移動することができます。また、後電子ダイヤルを使って、「撮影」メニューと「再生」メニュー、「詳細設定」メニュー、「Cカスタム」メニューを切り替えることができます。
- 撮影モードで**MENU**ボタンを押すと「撮影」メニューが、再生モードで**MENU**ボタンを押すと「再生」メニューが開きます。

「撮影」メニューの設定項目

「撮影」メニューでは、撮影に関する設定を行います。

項目	機能	参照
露出モード	露出モードを設定します。 ※ モードダイヤルがUSERの時のみ表示されます。	p.167
JPEG記録サイズ	JPEGで記録した場合の記録サイズを設定します。	p.118
JPEG画質	JPEGで記録した場合の画質を設定します。	p.119
画像仕上	画像の基本的な色調などを設定します。	p.120
彩度	色の鮮やかさを設定します。	p.121
シャープネス	画像の輪郭をくっきりまたはソフトにします。	p.121
コントラスト	画像の明暗差を設定します。	p.121
記録形式	ファイルフォーマットを設定します。	p.122
RAWファイル形式	RAWで記録した場合のファイルフォーマットを設定します。	p.122
拡張ブラケット	拡張ブラケット撮影の設定をします。	p.165
多重露出	多重露出の設定をします。	p.166
モードメモリ	電源をオフにしたとき、どの項目の設定を保存しておくかを設定します。	p.199
手ぶれ補正	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合に「レンズ焦点距離」を設定します。	p.69

「再生」メニューの設定項目

「再生」メニューでは、画像の再生や編集に関する設定を行います。

項目	機能	参照
再生時の表示方法	再生時に表示する撮影情報、白とび黒つぶれ警告を表示するか否かを設定します。	p.186
クイックビュー	クイックビューの表示時間の長さや白とび黒つぶれ警告、ヒストグラムを表示するか否かを設定します。	p.197
デジタルプレビュー	デジタルプレビュー時に白とび黒つぶれ警告、ヒストグラムを表示するか否かを設定します。	p.198

項目	機能	参照
デジタルフィルタ	撮影した画像の色調を変えたり、またソフトやスリムに加工したり、明るさを調整したりします。	p.95
スライドショウ	保存された画像を連続して再生します。	p.187

「🔧詳細設定」メニューの設定項目

「🔧詳細設定」メニューでは、カメラに関するいろいろな項目を設定します。

項目	機能	参照
USER	現在のカメラの設定をUSERに登録します。	p.167
フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.188
電子音	電子音のオン／オフを切り替えます。	p.189
日時設定	年月日の表示形式と日時を設定します。	p.190
ワールドタイム	海外で使用する際、現在地とは別に、指定した都市の日時を液晶モニターに表示できるようにします。	p.191
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます。	p.194
ガイド表示	液晶モニターに操作ガイドを表示するか否かを設定します。	p.194
LCDの明るさ	液晶モニターの明るさを設定します。	p.195
ビデオ出力	テレビモニタへの出力方式を設定します。	p.195
転送モード※	USBケーブルの接続先（パソコンまたはプリンター）を設定します。	p.110
オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.196
フォルダ名	画像の保存されるフォルダ名の付け方を設定します。	p.196
バッテリー選択	バッテリーグリップ装着時の設定をします。	p.198
ダストリムーバル	CCDを振動させてクリーニングします。	p.211
CCDクリーニング	CCDをブロアーでクリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。	p.212
リセット	日時設定、言語、ビデオ出力、ワールドタイム以外の設定内容をリセットします。	p.201

※ パソコンとの接続については、別冊の「PENTAX PHOTO Browser 3/PENTAX PHOTO Laboratory 3使用説明書」のp.11をご覧ください。

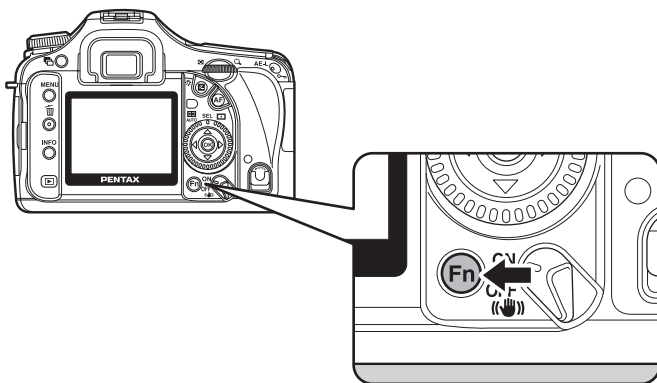
「Cカスタム」メニューの設定項目

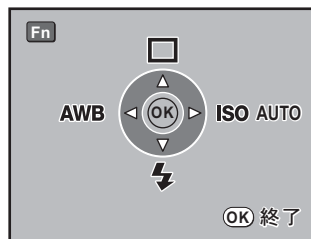
カスタムファンクションでは、一眼レフカメラの機能をフルに生かして撮影するための機能を設定します。初期設定では、カスタムファンクションを使用しない設定となっています。
1番目の項目である「設定」を☑（オン）にすると、「Cカスタム」メニューの設定内容が変更できるようになります。

項目	機能	参照
設定	カスタムファンクションを使用するか否かを設定します。	—
プログラムライン	プログラムラインの種類を設定します。	—
露出設定ステップ	露出設定の調整ステップを設定します。	p.162
ISO感度ステップ	ISO感度の調整ステップを設定します。	p.140
ISO感度警告表示	どのISO感度以上でファインダー内にISO感度警告表示をするかを設定します。	p.141
測光作動時間	測光タイマーの作動時間を設定します。	p.143
AFロック時のAE-L	フォーカスロック時に露出値も固定するか否かを設定します。	p.135
測距点と露出の関連付	分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点（ピント合わせ位置）を関連付けるか否かを設定します。	p.143
ブラケット撮影順	ブラケット撮影時の順序を設定します。	p.163
連動外の自動補正	適正露出が得られないときに自動補正をするか否かを設定します。	—
ストロボ発光時のWB	ストロボ発光時にホワイトバランスを変更するか否かを設定します。	—
AWB時の微調整	ホワイトバランス設定がオートのときに微調整可能か否かを設定します。	p.124
AFボタンの機能	**AF**ボタンを押したときにAFが作動するか、**AF**ボタンを押している間はシャッターボタン半押しでのAFを行わないようにするかを設定します。	—
シャッター半押しのAF	シャッターボタン半押しでのAFをするか否かを設定します。	—
スーパーインポーズ	選択された測距点（ピント合わせ位置）をファインダーに表示するか否かを設定します。	p.132

項目	機能	参照
リモコン時のAF	リモコン撮影するときにオートフォーカスするか否かを設定します。 「オン」にすると、リモコンでのレリーズ時に、AFを行った後シャッターがきれます。合焦しないとシャッターがきれません。 「オフ」にすると、リモコンでのレリーズ時はAF動作を行いません。	—
ノイズリダクション	低速シャッター時にノイズリダクションをするか否かを設定します。	p.159
色空間	使用する色空間を設定します。	p.129
色温度ステップ	色温度の調整ステップを設定します。	p.127
P 時の電子ダイヤル	**P**（ハイパープログラム）モード時の電子ダイヤルの割り当てを設定します。	—
Sv 時の電子ダイヤル	**Sv**（感度優先）モード時の電子ダイヤルの割り当てを設定します。	—
Tv 時の電子ダイヤル	**Tv**（シャッター優先）モード時の電子ダイヤルの割り当てを設定します。	—
Av 時の電子ダイヤル	**Av**（絞り優先）モード時の電子ダイヤルの割り当てを設定します。	—
M 時のグリーンボタン	**M**（ハイパーマニュアル）モードでグリーンボタンを押したときの露出の調整方法を選択します。	p.158
ワンタッチRAW+	**RAW**ボタンを押したときにRAW+JPEG撮影を1回で終わらすか継続するかを設定します。	p.122
表示パネルの照明	表示パネルの照明を点灯させるか否かを設定します。	p.28
充電中のレリーズ	内蔵ストロボの充電中に撮影可能にするか否かを設定します。	p.173
プレビュー方式	電源レバーをプレビュー位置（◎）に合わせたときに、デジタルプレビューを行うか光学プレビューを行うかを設定します。デジタルプレビューでは、撮影前に構図、露出、ピントなどを液晶モニターで確認します。光学プレビューでは被写界深度をファインダーで確認します。	p.169
撮影可能枚数表示	表示パネルとファインダー内の撮影可能枚数表示を、シャッターボタン半押し時に連続撮影可能枚数表示に切り替えるかどうかを設定します。	—
拡大再生の開始倍率	拡大再生の開始倍率を設定します。 「1.2倍」、「2倍」、「4倍」、「8倍」、「16倍」から選択します。初期設定は「1.2倍」です。	—

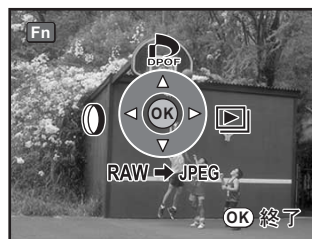
項目	機能	参照
画像の自動回転	再生時に画像を自動的に回転させるかどうかを設定します。	—
回転情報の記録	撮影時に回転情報を記録するかどうかを設定します。	—
絞りリングの使用	レンズの絞りリングの位置が **A** 以外のときに撮影可能にするか否かを設定します。	p.210
カスタムのリセット	カスタムファンクションメニューの各項目の設定内容を初期状態に戻します。	p.202

Fnメニューを使う

撮影時

撮影モードで**Fn**ボタンを押すと、撮影モードのFnメニュー画面が表示されます。

続いて押す十字キー（▲▼◀▶）によって動作が決まります。

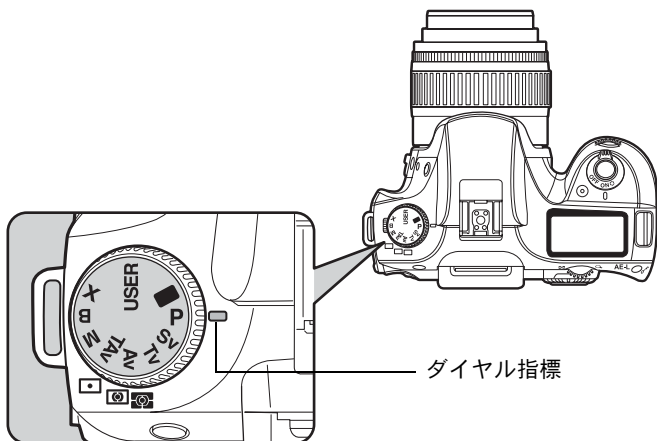
十字キー	項目	機能	参照
▲	ドライブモード	連続撮影、セルフタイマー、リモコンを選択します。	p.75、p.77、p.81
▼	ストロボモード	ストロボの発光方式を設定します。	p.72
◀	ホワイトバランス	被写体の色を光源に合った適正な色に補正します。	p.123
▶	ISO感度	ISO感度を設定します。	p.140

再生時

再生モードで**Fn**ボタンを押すと、再生モードのFnメニュー画面が表示されます。

続いて押す十字キー（▲▼◀▶）によって動作が決まります。

十字キー	項目	機能	参照
▲	DPOF設定	プリント予約をします。	p.106
◀	デジタルフィルタ	撮影した画像の色調を変えたり、またソフトやスリムに加工します。明るさの調整もできます。	p.95
▶	スライドショウ	保存された画像を連続して再生します。	p.92
▼	RAW展開	RAW画像をJPEGに変換します。	p.98

注意
- JPEGの画像を表示しているときは、RAW展開（▼）は選べません。
- RAWの画像を表示しているときは、DPOF設定（▲）、デジタルフィルタ（◀）は選べません。

モードダイヤルを使う

モードダイヤルのアイコンをダイヤル指標に合わせて、露出モードを切り替えることができます。

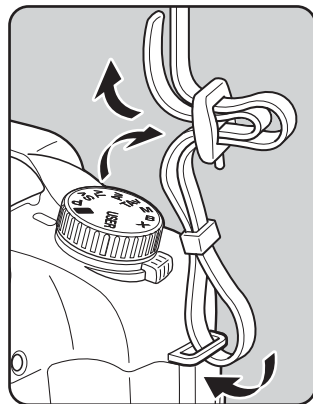
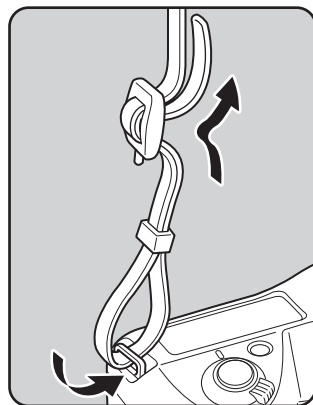
項目	機能	参照
USER（USER）	任意に設定した撮影モードで撮影します。	p.167
■（グリーン）	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	p.146
P（ハイパープログラム）	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影することができます。前電子ダイヤルと後電子ダイヤルを使用して、適正露出のままシャッター速度と絞りの変更をすることもできます。	p.147
Sv（感度優先）	任意に設定したISO感度に合わせてシャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。	p.148
Tv（シャッター優先）	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。動きの速い被写体を止まっているように、あるいは躍動感を出して撮影できます。	p.150
Av（絞り優先）	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。被写体の背景をぼかしたり、くっきりさせたりできます。	p.152

項目	機能	参照
TAv（シャッター＆絞り優先）	被写体の明るさに応じて、任意に設定したシャッター速度と絞り値で適正露出になるように、ISO感度が自動的に設定されます。	p.154
M（ハイパーマニュアル）	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った絵作りをしたいときに使います。	p.156
B（バルブ）	花火や夜景などを長時間シャッターを開いたままで撮影したいときに使います。	p.159
X（ストロボ同調速度）	シャッター速度を1/180秒に固定します。シャッター速度が自動的に切り替わらない外付けストロボと組み合わせる場合に使います。	p.160

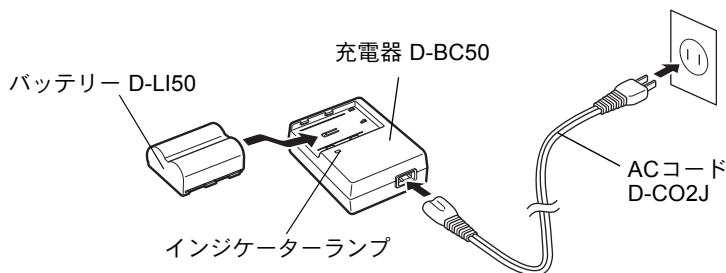
2 準備編

お買い上げ後、画像を撮るまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影をはじめる前に、操作を行なってください。

ストラップを取り付ける

1 **ストラップの先端をカメラの吊り金具に通し、留め具の内側になるように固定する**

2 **もう一方のストラップの先端をカメラのもう一方の吊り金具に通し、留め具の内側になるように固定する**

バッテリーをセットする

カメラにバッテリーをセットします。バッテリーは専用のD-LI50を使用します。

バッテリーを充電する

はじめてご使用になるときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1　バッテリー充電器にACコードを接続する

2　ACコードをコンセントに差し込む

3　専用バッテリーを▲マークがある面を上にしてセットする

充電中はインジケーターランプが赤色に点灯します。
充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4　充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り外す

- 付属のバッテリー充電器では、専用の充電式リチウムイオンバッテリー D-LI50以外は充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケーターランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。

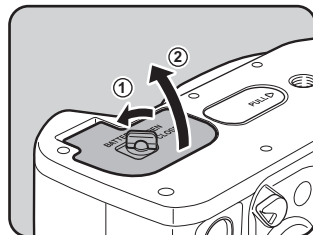
- 充電時間は、最大で約180分です。周囲の温度が0℃～40℃の範囲で充電してください（周囲の温度や充電状態によって異なります）。
- 正しく充電しても使用できる時間が短くなったらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーを入れる／取り外す

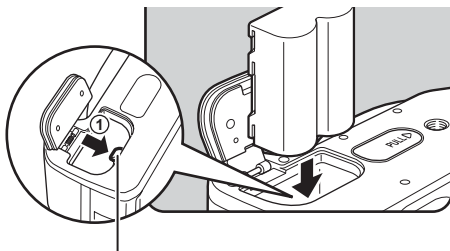
はじめてご使用になるときは、バッテリーを充電してから入れてください。

- 電源がオンのときは、バッテリーカバーを開けたり、バッテリーを取り出したりしないでください。
- 長い間使わないときは、バッテリーを取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、バッテリーが液もれをすることがあります。
- 長時間バッテリーを取り外して、新しくバッテリーを入れたときに日時がリセットされていたら、「日時を設定する」の手順に従って、設定しなおしてください。（p.56）
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると、故障の原因になります。また、バッテリーの電極は、乾いた柔らかい布でよく拭いてから入れてください。

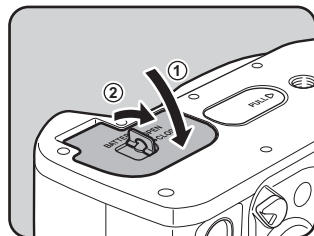
1 バッテリーカバーを開ける

バッテリーカバー開放レバーをつまみ上げ、OPENの方向に回して（①）ロックをはずし、バッテリーカバーを引き上げます（②）。

2 バッテリーの▲マークをカメラの液晶モニター側に向け、バッテリーの側面でバッテリーロックレバーを矢印①の方向に押しながら挿入する

ロックされるまでバッテリーを挿入してください。

バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックレバーを矢印①の方向に手で押します。バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いてください。

バッテリーロックレバー

3 バッテリーカバーを閉じ（①）、バッテリーカバー開放レバーをCLOSEの方向に回してロックする（②）

閉じ終わったら、バッテリーカバー開放レバーを収納してください。

長時間ご使用になるときは、ACアダプター D-AC50（別売）をご使用ください。（p.47）

電池容量の確認

表示パネルに表示された[電池アイコン]で、バッテリーの残量を確認することができます。

[電池アイコン：満]	点灯	：	バッテリーがまだ十分に残っています。
↓			
[電池アイコン：半分]	点灯	：	容量が少なくなりました。
↓			
[電池アイコン：空]	点灯	：	残量がほとんどありません。
↓			
[電池アイコン：空]	点滅	：	メッセージの表示後、電源オフとなります。

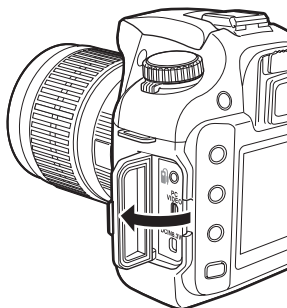
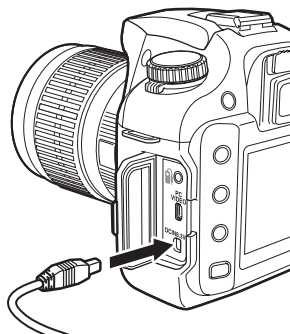
撮影可能枚数と再生時間（専用バッテリーフル充電時）

バッテリー	（使用温度）	一般撮影	ストロボ撮影		再生時間
			使用率50％	使用率100％	
D-LI50	（23°C）	約500枚	約480枚	約350枚	約330分
	（ 0°C）	約470枚	約420枚	約320枚	約300分

撮影枚数（ストロボ使用率50％）はCIPA規格に準じた測定条件、その他については当社の測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

- 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備のバッテリーを用意して、衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下したバッテリーの性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 海外旅行、寒冷地で撮影する場合や大量に撮影する場合は、予備電池をご用意ください。

ACアダプターを使用する（別売品）

1

2

液晶モニターを長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、ACアダプター D-AC50（別売）のご使用をお勧めします。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認してから、端子カバーを開ける

2 ACアダプターのDC端子を、カメラのDC入力端子に接続する

3 ACコードをACアダプターに接続する

4 コンセントに電源プラグを差し込む

注意

- ACアダプターを接続または外すときは、必ずカメラの電源をオフにした状態で行なってください。
- カメラやACアダプター、ACコード端子、コンセントはしっかり差し込んでください。カメラがSDメモリーカードにデータを記録、または読み出している間に接続部が外れると、SDメモリーカードやデータが破損する恐れがあります。

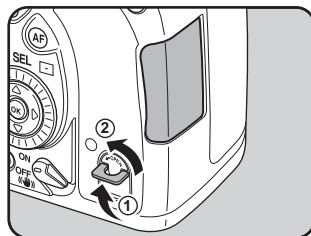
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプター D-AC50の使用説明書をあわせてご覧ください。
- ACアダプターを接続しても、カメラ内のバッテリーを充電することはできません。

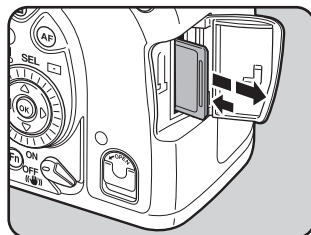
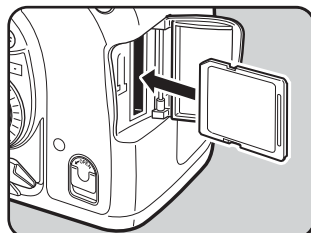
SDメモリーカードを入れる／取り出す

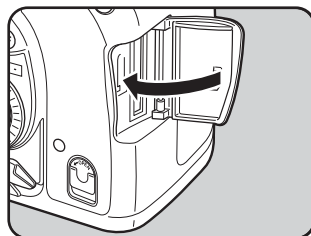
撮影した画像は、SDメモリーカードに記録されます。SDメモリーカード（市販品）を入れるときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。

注意
- カードアクセスランプ点灯中は、絶対にSDメモリーカードを取り出さないでください。
- 未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットの方法については「SDメモリーカードをフォーマットする」（p.188）をご覧ください。

1 カードカバー開放レバーをつまみ上げ（①）OPENの矢印の方向に回す（②）

カードカバーが開きます。

2 SDメモリーカードのラベル面を液晶モニター側に向け、奥まで押し込む

SDメモリーカードを取り出すときは、カードをいったん押し込みます。

3 カードカバーを閉じる

カードカバーは完全に閉じてください。カードカバーが開いていると電源がオンになりません。

SDメモリーカード使用上の注意

- SD メモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録、消去またはカードのフォーマットをすることが禁止され、それまでに保存したデータが保護されます。
- カメラ使用直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへのデータ記録中や、画像の再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SD メモリーカードのフォーマット中には絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で失われる場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間カードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータ記録中、またはデータ読み出し中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき
- SDメモリーカードには寿命があります。長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。
- 未使用品や他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。☞SDメモリーカードをフォーマットする （p.188）
- フォーマットしたカードでも、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。廃棄にはメモリーカード本体を物理的に破壊する、譲渡の際は市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
  メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

画像の記録サイズと画質

記録形式が「JPEG」の場合

撮影する画像の記録サイズ（縦横の大きさ）と画質（JPEG画像記録時のデータ圧縮率）は、撮影後の画像の用途に応じて設定します。
記録サイズの数値や画質の★の数は、多くなるほどプリントしたときに鮮明な画像を得ることができます。しかし、画像の容量が増えるので、撮影できる枚数（カメラのSDメモリーカードに記録できる枚数）は少なくなります。
また、撮影した写真や印刷した写真の美しさ、鮮明さには、画質設定や露出制御などの撮影時設定や使用するプリンターの解像度なども関係してきますので、記録サイズをむやみに大きくする必要はありません。例えば、はがきサイズにプリントする場合は、2M（1824×1216）程度が目安となります。用途に応じて適切な記録サイズと画質を設定してください。

JPEG画像の記録サイズと画質の設定は、「撮影」メニューで行います。
☞JPEG記録サイズを設定する（p.118）
☞JPEG画質を設定する（p.119）

● JPEG記録サイズ／JPEG画質と撮影可能枚数の目安

JPEG画質 / JPEG記録サイズ	★★★ S.ファイン	★★ ファイン	★ エコノミー
10M （3872×2592）	101枚	172枚	296枚
6M （3008×2000）	168枚	287枚	495枚
2M （1824×1216）	457枚	774枚	1313枚

- この表の数値は、512MBのSDメモリーカードを使用した場合の枚数です。
- この表の数値は、被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

撮影可能枚数が500枚を超える場合、撮影画像は500枚毎にフォルダが分かれて保存されます。ただし、オートブラケットは、500枚を超えても撮影が終了するまで同じフォルダに保存されます。

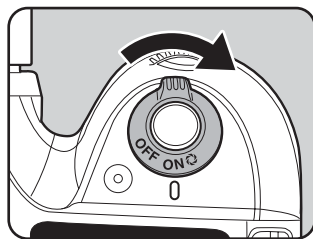
記録形式が「RAW」の場合

K10Dでは、汎用性の高いJPEG形式のほかに、高品質で撮影後の画質調整が自在なRAW形式を選ぶことができます。また、RAWのファイル形式として、ペンタックス独自のファイルフォーマットのPEFと、Adobe Systems社が提唱する汎用の公開フォーマットのDNG（Digital Negative）のいずれかが選択できます。撮影可能枚数は、512MBのSDメモリーカードの場合、PEF／DNG共に29枚が目安です。
☞記録形式を設定する（p.122）

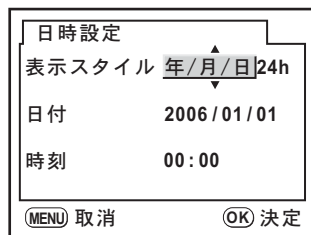
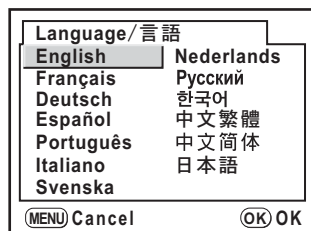
電源を入れる

1 電源レバーを「ON」の位置に合わせる

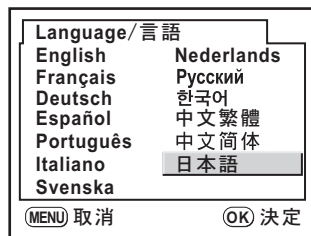
電源がオンになります。

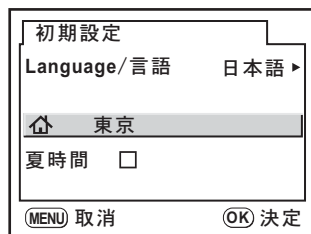
電源レバーを「OFF」の位置に合わせると電源がオフになります。

- カメラを使用しないときは、必ず電源をオフにしてください。
- 一定時間操作をしないで放置すると、自動的に電源がオフになります。電源をオンにするには、電源を入れ直すか、次のいずれかの操作をしてください。
  - シャッターボタンを半押しする
  - ▶ボタンを押す
  - **INFO** ボタンを押す
- 自動的に電源がオフになるまでの時間は、初期設定では1分間です。「🔧詳細設定」メニューの「オートパワーオフ」で変更できます。（p.196）

初期設定をする

工場出荷後カメラの電源を初めてオンにすると、液晶モニターに「Language/言語」の画面が表示されます。下記の手順に従って、液晶モニターに表示される言語と現在の日付や時刻を設定してください。一度設定すれば、次回電源を入れたときには、これらの設定をする必要はありません。
日本語で「日時設定」画面が表示されたときは、「日時を設定する」(p.56)の手順に従って日時を設定してください。

言語を設定する

使用する言語を日本語に設定します。

1 **十字キー(▲▼◀▶)で、「日本語」を選ぶ**

2 **OKボタンを押す**

日本語の「初期設定」画面が表示されます。
右図のように⌂が東京、夏時間が□(オフ)に設定されていれば、手順6に進んでください。

3 十字キー（◀▶）で、「東京」を表示させる

4 十字キー（▼）を押す

カーソルが夏時間の□に移動します。

5 十字キー（◀▶）で、□（オフ）に設定する

6 OK ボタンを押す

日時を設定する画面が表示されます。

言語設定を間違えてしまったら

●まだ日時を設定する画面に進んでいない場合
「Language/言語」画面で間違って日本語以外の言語を選んでしまっても、日時を設定する画面に進んでいなければ、以下の手順で日本語の「初期設定」画面を表示させることができます。

1 カメラの電源を入れ直す

2 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選んで、OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。「言語を設定する」（p.53）の手順2に戻って、再度設定を進めてください。

●日時を設定する画面に進んでしまった場合
日時を設定する画面に進んでしまうと、再び初期設定を行うことはできませんので、以下の手順にしたがって、メニュー画面で言語を設定し直してください。

1 カメラの電源を入れ直す

2 MENUボタンを押す

3 十字キー（▶）を2回押す

4 十字キー（▼）を6回押す

5 十字キー（▶）を1回押す

「Language/言語」画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選んで、OKボタンを押す

日本語の「🔧詳細設定」メニューが表示されます。
「現在地」と「日時」を設定し直す必要がある場合は、下記のページを参照して、「現在地」を東京に、「日時」を現在の日時に設定し直してください。
- 現在地を変更したい場合は：「ワールドタイムを設定する」（p.191）
- 日時を変更したい場合は：「日時とその表示スタイルを変更する」（p.190）

初期設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされ、「日時設定」画面（p.56）が表示されます。この場合は、次回電源を入れたときに再度、「Language/言語」画面が表示されます。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2 十字キー（▲▼）で、日付の表示スタイルを設定する

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4 十字キー（▲▼）で、24h（24時間表示）または12h（12時間表示）を設定する

5 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が西暦年に移動します。

8 十字キー（▲▼）で、西暦年を設定する

同様に「月」「日」を設定します。
続いて時刻欄を設定します。
手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

9 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。メニュー操作で設定した場合は「🔧詳細設定」メニューに戻りますので、もう一度**OK**ボタンを押してください。

日時設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされ、撮影できる状態になります。日時を設定しないまま、次回電源を入れると、初期設定が設定されていれば、最初に日時設定画面が表示されます。あとから日時をメニュー操作で設定することもできます。（p.190）。

- 日時の設定終了後**OK**ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定が行えます。
- 設定した言語や日時はメニュー操作で変更することができます。（p.190、p.194）

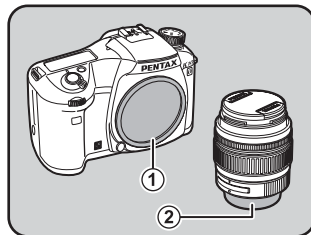
レンズを取り付ける

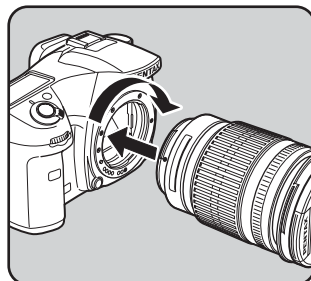
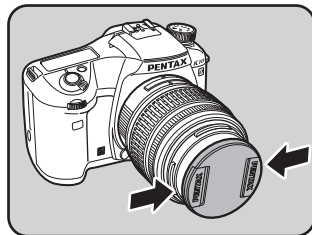
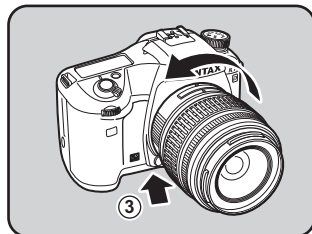
DA・D FA・FA Jレンズ、または絞り**A**（オート）のポジションのあるレンズを使用すると、カメラの露出モードをすべて利用できます。絞り**A**（オート）以外での使用には機能制限があります。「絞りリングの使用」設定時の注意（p.210）もご覧ください。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、工場出荷時の設定では、カメラが作動しなくなります。カスタムファンクションの「絞りリングの使用」でレリーズ許可を設定してください。（p.35）

注意　不用意なレンズの動きを防ぐため、レンズの着脱は電源オフで行なってください。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 ボディマウントカバー（①）とレンズカバー（②）を取り外す

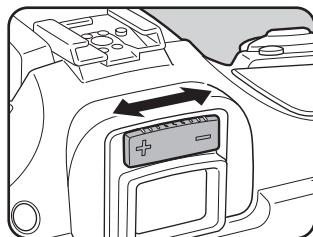
レンズカバーを外したレンズは、マウント周辺を傷付けないため、カメラに取り付く面を上にして置いてください。

3 カメラとレンズの赤点を合わせ、「カチッ」と音がするまでレンズを右に回してレンズを取り付ける

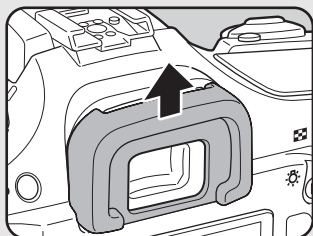
レンズ取り付け後、レンズを左に回して確実にロックされていることを確認してください。

4 図のように矢印部分を内側に押してレンズキャップを取り外す

レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタン（③）を押しながらレンズを左へ回してください。

- ボディマウントカバー（①）は工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。別売アクセサリーとしてロック機構付きのボディーマウントキャップKをご用意しています。
- 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障、不具合などにつきましては保証いたしかねます。
- カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系統のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

ファインダーの視度を調整する

撮影者の視力に合わせて、ファインダーの視度を調整することができます。ファインダー内の表示が見えにくいときは、視度調整レバーを左右に動かして、見やすい位置に調整してください。
視度は、–2.5m^{-1}～+1.5m^{-1}の範囲で調整できます。

1 カメラを白い壁など、明るく、色のムラのない方へ向けて、ファインダーをのぞきながら視度調整レバーを左右に動かす

ファインダー内のAFフレームがはっきり見える位置に調整します。

AFフレーム

- 工場出荷時には、ファインダー部にアイカップFPを装着しています。アイカップFPを付けたままでも、視度調整は可能ですが、アイカップを外すと調整がしやすくなります。アイカップFPを外す場合は、矢印の方向に引っ張って外します。
  付けるときは、アイカップFPをファインダーアイピースの溝に確実にはめてください。

- 視度調整レバーを使っても、ご自分の視力に合わせることができない方のために、視度調整レンズアダプター Mをご用意しています。ただし、アイカップは取り外してお使いください。(p.216)

3 使ってみよう

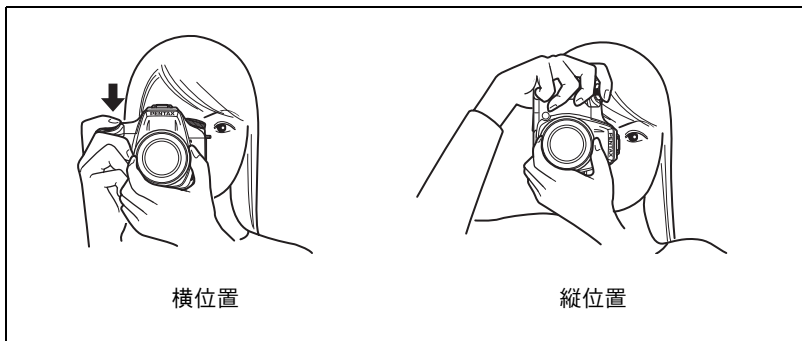
この章では、簡単な操作で失敗のない写真が撮影できる方法として、モードダイヤルをグリーンモード（ノーマルプログラムラインによる自動露出）に設定した場合の基本操作について説明しています。

高度な機能、個性的な撮影をするための設定については、4章以降をご覧ください。

撮影の基本操作

カメラの構え方

撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

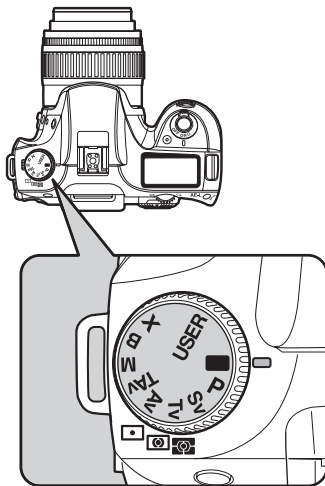
- カメラを両手でしっかりと持ってください。
- シャッターボタンは指の腹で静かに押します。

横位置　　縦位置

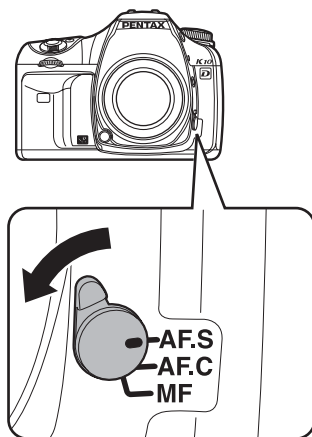
- 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると効果があります。
- 個人差はありますが、一般的には1/（焦点距離×1.5）が手持ちの限界シャッター速度とされています。例えば、焦点距離が50mmでは1/75秒、100mmでは1/150秒程度です。これ以下のシャッター速度になる場合には、三脚または手ぶれ補正機能（p.67）を使用してください。
- 望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。
- 三脚を使用する場合は、手ぶれ補正機能は使用しないでください。

カメラまかせで撮影する

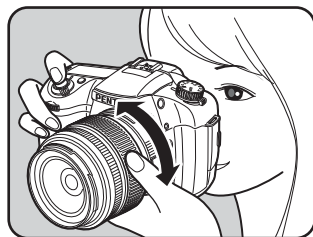
K10Dには、撮影者の意図に的確に応じる様々な撮影モードやフォーカスモード、ドライブモードが備わっていますが、ここでは、基本的にはシャッターを押すだけの、もっとも簡単な撮影方法を説明します。

1 モードダイヤルを■に合わせる

露出モードが■（グリーン）モードになります。■では適正露出をカメラが判断し、シャッター速度と絞りが自動的に設定されます。(p.146)

2 フォーカスモードレバーを AF.S に合わせる

フォーカスモードが **AF.S**（オートフォーカス・シングル）モードになります。**AF.S**では、シャッターボタンを半押ししたときにレンズが自動的に作動し、ピントが合うとシャッターがきれるようになります。(p.130)

3 ファインダーをのぞいて、被写体を確認する

ズームレンズを使うと被写体の大きさを変えることができます。

☞ズームレンズを使う （p.70）

4 AF フレームの中に被写体を入れてシャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯します。

ストロボは自動的にはポップアップしません。ストロボ発光が必要な場合には、ストロボ発光表示ϟが点滅するので、**ϟUP** ボタン（p.73）を押して、手動でポップアップしてください。

☞シャッターボタンの操作 （p.65）
☞オートフォーカスが苦手なもの（p.66）
☞内蔵ストロボを使う （p.71）
☞ピント合わせ位置（測距点）を選択する （p.132）

撮影前に液晶モニターにプレビューを表示して、構図、露出、ピントを確認できます。（p.169）

5 シャッターボタンを全押しする

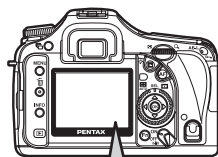
撮影されます。

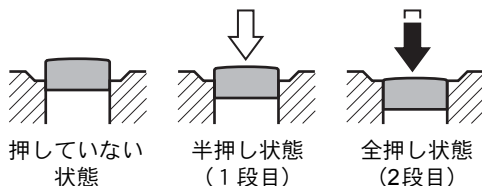
6 液晶モニターで撮影画像を確認する

撮影直後には1秒間液晶モニターに画像が表示されます（クイックビュー）。

クイックビュー表示中に、後電子ダイヤルで拡大表示できます。（p.89）

クイックビュー表示中に🗑ボタンを押すと、画像を消去できます。

☞クイックビューの表示時間 （p.197）
☞画像を消去する （p.100）
☞白とび黒つぶれ警告表示 （p.197）
☞ヒストグラム表示 （p.197）

シャッターボタンの操作

シャッターボタンは2段階になっています。

シャッターボタンを半押しすると（1段目まで押し込む）、ファインダー内や表示パネルに情報が表示され、オートフォーカスが働きます。さらにシャッターボタンを押し込む（2段目まで押し込む）（全押しする）と撮影することができます。

- カメラぶれを防ぐため、シャッターボタンはゆっくり押し込んでください。
- 実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押し込むと半押しになるのか、感覚をつかんでおいてください。
- ファインダー内の表示は、シャッターボタンを半押ししている間は、ずっと表示されています。指を離しても約10秒間（初期設定）表示されたままになります。（p.26）

オートフォーカスが苦手なもの

オートフォーカス機構は、万能ではありません。撮影するものが下記の（a）～（f）のような状態のときには、ピント合わせができないことがあります。ファインダー内の合焦マーク ⬣ を利用した手動ピント合わせでも同様です。
ピントが合わないときは、フォーカスモードレバーを **MF** に合わせて、ファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。（p.137）

（a）AFエリアの内側が白い壁などの極端にコントラスト（明暗差）の低いものだけの場合
（b）AFエリアの内側に光を反射しにくいものがある場合
（c）非常に速い速度で移動しているもの
（d）反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るいもの）
（e）AFエリアの内側に繰り返しの縦線や横線が存在する場合
（f）遠近のものがAFエリアの内側に同時に存在する場合

上記の条件（f）のときはファインダーに ⬣（合焦マーク）が表示されていても、写したいものにピントが合わないことがありますのでご注意ください。

手ぶれ補正機能を使って撮影する

手ぶれ補正スイッチをオンにするだけで、手ぶれ補正機能を使って簡単に撮影することができます。

手ぶれ補正について

手ぶれ補正機能とは、シャッターを押す瞬間に起こりやすい手ぶれを補正しながら撮影できる機能です。手ぶれしやすいシーンでの撮影に効果的です。手ぶれ補正機能をオンにした場合、シャッター速度で約2段階～4段階程度の効果があります。
手ぶれ補正機能は、次のようなシーンでの撮影に適しています。

- 室内、夕方、曇り、日陰など薄暗い環境で撮影するとき
- 望遠で撮影するとき

手ぶれした写真

手ぶれ補正された写真

注意

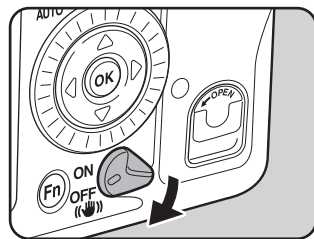
- 手ぶれ補正機能は、被写体が動くことによる写真のぶれには効果がありません。動いている被写体を撮影するときには、シャッター速度を速くして撮影してください。
- 近距離での撮影では、手ぶれ補正しきれないことがありますので、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用することをお勧めします。
- 流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件では、手ぶれ補正の効果が十分に現れないことがあります。その際は、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用して撮影することをお勧めします。

手ぶれ補正機能とレンズ焦点距離について

手ぶれ補正機能は、レンズの焦点距離などの情報を取得して動作します。ご使用のレンズがDA・D FA・FA J・FA・Fレンズの場合は、手ぶれ補正機能を使用するときにレンズ焦点距離などの情報が自動的に取得されます。「撮影」メニューの「手ぶれ補正」で「レンズ焦点距離」は設定できません（メニューの項目が選択できません）。
それ以外のレンズで手ぶれ補正機能を使用する場合は、レンズ焦点距離などの情報が自動的に取得されません。
この場合は、「手ぶれ補正」画面が表示されます。「手ぶれ補正」画面で「レンズ焦点距離」を設定してください。☞手ぶれ補正機能を設定する（p.69）

手ぶれ補正機能を有効にする

1 手ぶれ補正スイッチをオンにする

シャッターボタンを半押しにすると、ファインダーにが表示され、手ぶれ補正機能が有効になります。

- 三脚を使用する場合は、必ず手ぶれ補正スイッチをオフにしてください。
- 次の条件では、手ぶれ補正機能は自動的にオフになります。
  セルフタイマー撮影、2秒セルフタイマー撮影、リモコン撮影、3秒後レリーズ撮影、バルブ撮影、外付けストロボをワイヤレスモードで使用するとき

メモ

- レンズ焦点距離などの情報が取得できないレンズ（p.67）を使用している場合は、「手ぶれ補正」画面が表示されます。「手ぶれ補正」画面で「レンズ焦点距離」を設定してください。☞手ぶれ補正機能を設定する（p.69）
- 手ぶれ補正機能を使わない場合は、手ぶれ補正スイッチをオフにします。
- カメラの電源をオンにした直後およびオートパワーオフからの復帰直後（それぞれ約2秒間）は、手ぶれ補正機能が安定していません。手ぶれ補正の効果を十分に得るには、手ぶれ補正機能の安定を待って、ゆっくりシャッターボタンを押して撮影してください（シャッターボタンを半押しして、ファインダー内にが点灯すれば撮影可能です）。
- K10Dに装着できるペンタックス製レンズであれば、種類を問わず、手ぶれ補正機能が使用できます。ただし、絞り**A**（オート）ポジションのあるレンズを絞り**A**（オート）以外で使用したり、**A**（オート）ポジションのないレンズを装着した場合、「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」（p.35、操作方法はp.29～30を参照）で「許可」を設定しない限り、カメラは作動しませんので、あらかじめ設定してください。なお、「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」で「許可」を設定した場合は機能制限がありますので、「絞りリングの使用」設定時の注意（p.210）もあわせてご覧ください。

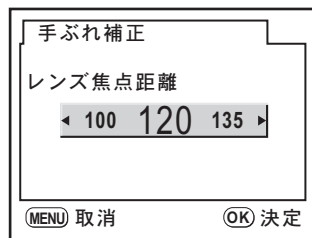
手ぶれ補正機能を設定する

レンズ焦点距離などの情報が取得できないレンズ（p.67）を使用している場合は、手ぶれ補正スイッチがオンの状態でカメラの電源をオンにすると、「手ぶれ補正」画面が表示されます。
「手ぶれ補正」画面で、「レンズ焦点距離」を設定します。

注意
- レンズ焦点距離などの情報が取得できるレンズを使用している場合は、「レンズ焦点距離」が自動的に設定されますので、「手ぶれ補正」画面は表示されません。
- 絞り **A** 位置がないレンズの場合および絞りを **A** 位置から外して使用する場合は、「**C** カスタム」メニューの「絞りリングの使用」を「許可」に設定してください。

1 十字キー（◀▶）でレンズ焦点距離を設定する

レンズ焦点距離は次の34種類から選択できます。（初期設定は35です。）

8	10	12	15	18	20	24	28	30	35
40	43	50	55	65	70	77	85	100	120
135	150	180	200	250	300	350	400	450	500
550	600	700	800						

注意
- ご使用のレンズの焦点距離が上記にない場合は、最も近い値（例：17mmの場合は「18」、105mmの場合は「100」）を設定してください。
- ズームレンズを使用している場合も同様に、ズーム撮影時の実際の焦点距離を設定してください。
- 手ぶれ補正の効果は、焦点距離の情報だけでなく撮影距離にも影響されます。近距離での撮影には十分な効果が現れない場合があります。

2 OK ボタンを押す

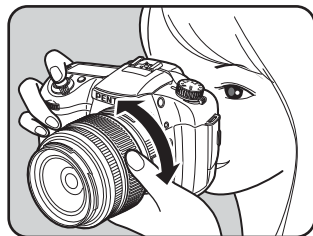
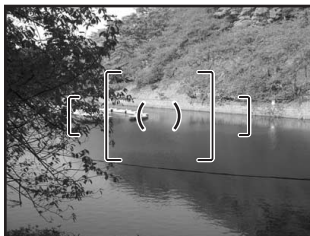
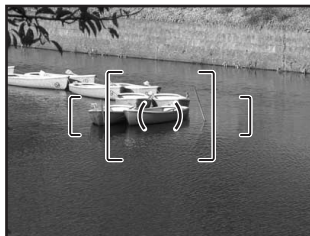
撮影できる状態になります。

「レンズ焦点距離」の設定を変更する場合は、「📷 撮影」メニューの「手ぶれ補正」で設定します。（p.31）

ズームレンズを使う

ズームレンズを使えば写したいものを大きくしたり（望遠)、広い範囲で撮影したり（広角）自由に変えることができます。好みの大きさに合わせて撮影してください。

1 ズームリングを左右に回す

ズームリングを右に回すと望遠に、左に回すと広角になります。

- レンズの焦点距離表示の数字を小さくすると、撮影する範囲が広い広角側に、大きくすると、遠いものを大きく撮影する望遠側になります。
- FA レンズで、パワーズームに対応しているレンズを使うと、パワーズーム（電動ズーム）が使用できます。

広角

望遠

内蔵ストロボを使う

暗い場所や逆光などのストロボが必要な条件で、内蔵ストロボを発光させたい場合は、⚡UP ボタンを押して、ストロボをポップアップさせます。
また、Fnメニューのストロボモード選択画面で目的に応じたストロボモードを選択します。露出モードがグリーンモード以外の場合は、後電子ダイヤルで光量を調節することもできます。
内蔵ストロボが有効なのは、被写体との距離がおおよそ0.7m～4mの範囲です。0.7mより近いと、露出が正しく制御されず、ケラレなどが発生します。（この距離は使用するレンズや、設定ISO感度によって多少異なります。(p.176)）

内蔵ストロボとレンズの適合

内蔵ストロボは、ご使用のレンズや撮影条件によってケラレ（撮影した写真の周辺部が配光不足で黒くなる現象）を生じることがあります。事前にテスト撮影をして確認されることをお勧めします。
☞DA・D FA・FA J・FA・Fレンズの内蔵ストロボ適合表 （p.177）

- 内蔵ストロボを使用する場合、レンズフードは必ず外して撮影してください。
- 絞り **A** 位置の機能がないレンズでは、内蔵ストロボは常にフル発光になります。

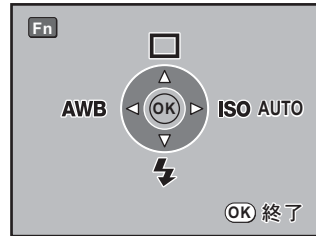
⚡A	自動発光	暗い場所や、逆光などの条件で自動的に発光します。
⚡A👁	自動発光＋ 赤目軽減	自動発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
⚡	強制発光	ストロボが常に発光します。
⚡👁	強制発光＋ 赤目軽減	強制発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW⚡	スローシンクロ	明るさによって、遅いシャッター速度に設定されますので、たとえば夕景などを背景に人物撮影をするときに利用すると、人物も背景もきれいに写すことができます。
SLOW 👁⚡	スローシンクロ＋ 赤目軽減	スローシンクロで発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW ▶▶⚡	後幕シンクロ	シャッターの後幕が閉じる直前に発光しますので、乗り物など動く被写体の光跡を、後ろに流れるように写し込むことができます。

スローシンクロ、スローシンクロ+赤目軽減では、明るさによってシャッター速度が遅くなります。手ぶれ補正機能（p.67）を使うか、またはカメラを三脚などに固定して、手ぶれを防いでください。

3 使ってみよう

ストロボモードの選択方法

1 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

ストロボモード選択画面が表示されます。

メモ

- モードダイヤルが■のときは⚡Aと⚡A◎、Tv／TAv／M／Bのときは⚡、⚡◎とSLOW▶⚡、Xのときは⚡と⚡◎、その他のときは⚡、⚡◎、SLOW⚡、SLOW◎⚡とSLOW▶⚡が選択できます。
- モードダイヤルがUSERのときは保存されている設定によって選択できる項目が変わります。

3 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ

■（グリーン）モード以外では、後電子ダイヤルを回してストロボ光量補正ができます。補正範囲は－2.0～＋1.0です。

4 OKボタンを押す

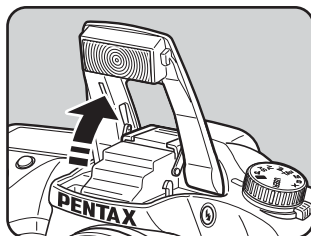
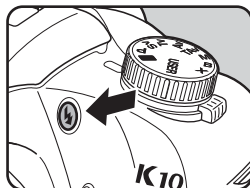
Fnメニュー画面に戻ります。

5 Fnボタンを押す

撮影できる状態になります。

内蔵ストロボを使用する

1　⚡UPボタンを押す

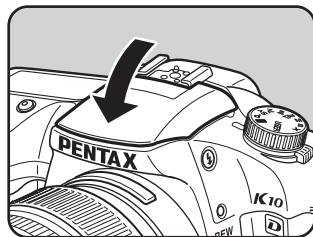
内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。充電が終わると、表示パネルとファインダー内に⚡が表示されます。
（p.23、p.26、p.28）

2　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

3　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- モードダイヤルが■の場合は、ストロボをポップアップしていても適正露出であれば発光しません。
- モードダイヤルが■以外の場合は、ストロボをポップアップすると強制発光します。

4　図の矢印の部分を押し下げ、ストロボを収納する

内蔵ストロボの赤目軽減機能

「赤目現象」とは、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。赤目現象は、ストロボの光が、目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。周りが暗いときには、瞳孔が開いているため、赤目現象が目立ちます。
赤目現象は完全に防ぐことはできませんが、軽減するには次のような対策が有効です。

- できるだけ周りを明るくして撮影する
- ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影する
- 赤目軽減発光機能のあるストロボを使う
- 外付けのストロボをご使用のときは、できるだけカメラから離す

このカメラには、内蔵ストロボの2度発光による赤目軽減機能が付いています。赤目軽減機能では、シャッターがきれる直前に小光量のストロボ発光が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくすることができます。赤目軽減機能を使うには、ストロボ発光方法として、グリーンモードで⚡A◎（自動発光＋赤目軽減）を、その他のモードでは、⚡◎（強制発光＋赤目軽減）または SLOW◎⚡（スローシンクロ＋赤目軽減）を選んでください。

日中シンクロについて

昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が陰になってしまうような場合に、内蔵ストロボを使って撮影すると顔が陰にならないきれいな写真が撮れます。このようなストロボの使い方を日中シンクロといいます。日中シンクロでは、ストロボを強制発光にして撮影します。

● 撮影の方法（ハイパープログラムの場合）

1 ストロボをポップアップし、ストロボモードが ⚡（強制発光）になっていることを確認する。（p.73）
2 ストロボの充電完了を確認する。
3 撮影する。

背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。

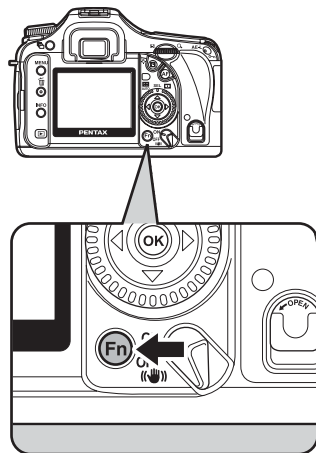
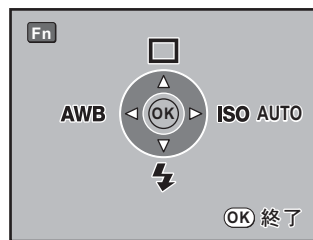
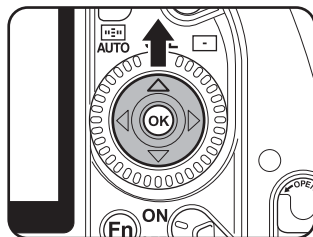
ストロボなし

ストロボ使用 日中シンクロ

いろいろな方法で撮影する

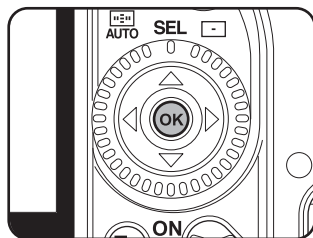
連続撮影

連続撮影では、シャッターボタンを全押ししている間、連続的にシャッターがきれます。

1 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

ドライブモード選択画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で⧉を選ぶ

4 OKボタンを押す

Fnメニュー画面に戻ります。

5 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

「**C** カスタム」メニューの「撮影可能枚数表示」を「連続撮影可能枚数」にすると、シャッターボタンを半押ししたときに、連続撮影が可能な枚数（バッファの空き）を表示します。（p.34）

7 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。指をシャッターボタンから離すと、連続撮影を終了します。

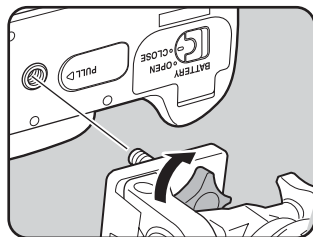
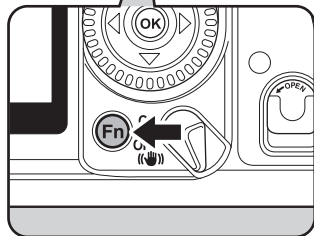
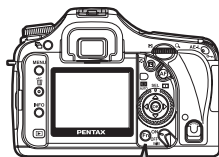
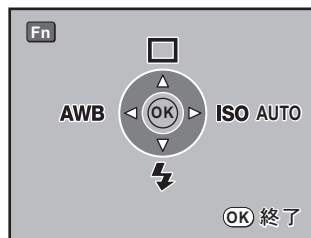
カメラの電源をオフにしても、連続撮影設定は維持されます。連続撮影を止めるには、Fnメニュー画面をもう一度表示させ、□（1コマ撮影）に設定し直します。

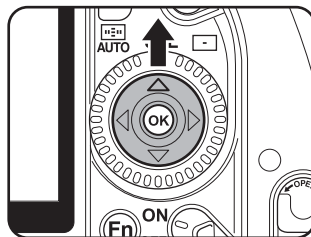
- フォーカスモードが **AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、測光タイマーがオンになっている（シャッターボタンが半押しされている状態）間、シャッターが1回きれるごとに毎回ピント合わせが行なわれます。（p.130）
- フォーカスモードが **AF.C**（コンティニュアスモード）に設定されている場合は、常にピント合わせが行われます。**AF.C** では、ピントが合っていない状態でも、シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。ただし、カスタムファンクションで、充電中でもシャッターがきれるように設定することもできます。（p.173）

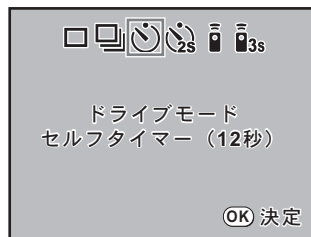
セルフタイマー撮影

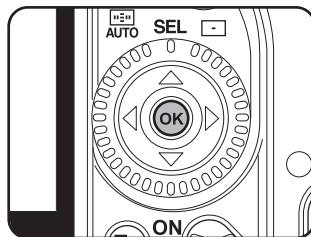
セルフタイマー撮影には、(12秒セルフタイマー)と(2秒セルフタイマー)の 2 種類があります。

(12秒セルフタイマー)	約12秒後にシャッターがきれます。撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
(2秒セルフタイマー)	シャッターボタンを押すとすぐにミラーがアップし、約2秒後にシャッターがきれます。シャッターボタンを押すことで生じるカメラぶれを避けて撮影するときに使います。

1 カメラを三脚などで固定する

2 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

3 十字キー（▲）を押す

ドライブモード選択画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）で⏱または⏱2sを選ぶ

5 OKボタンを押す

Fnメニュー画面に戻ります。

6 OKボタンを押す

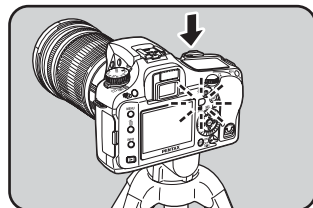
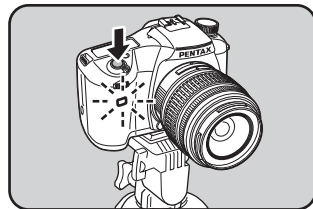
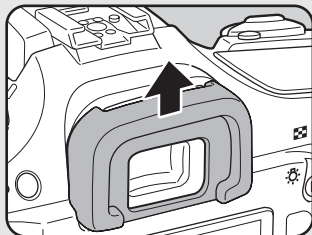
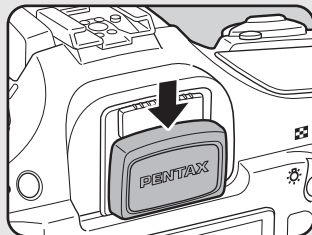
撮影できる状態になります。

7 撮りたいものが画面に入っているかファインダーで確認し、シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、合焦マーク●が点灯します。

8 シャッターボタンを全押しする

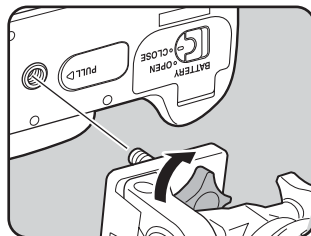
⏲の場合、カメラ正面および背面のセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを全押ししてから、約12秒後にシャッターがきれます。

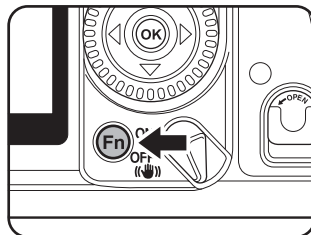
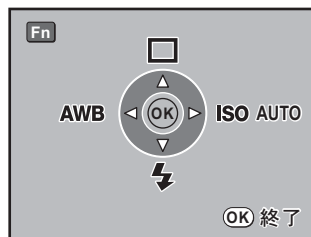
⏲2sの場合は、約2秒後にシャッターがきれます。

- セルフタイマーの電子音は、消すことができます。(p.189)
- セルフタイマー撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能(p.162)や付属のMEファインダーキャップをご利用ください。(露出モードを**M**(ハイパーマニュアル)に設定している場合(p.156)はファインダーから入る光は無視できます。)

アイカップFPを取り外す

MEファインダーキャップを取り付ける

- セルフタイマー撮影を解除したいときは、ドライブモード選択画面で、⏲⏲2s以外のモードに切り替えてください。なお「📷撮影」メニューの「モードメモリ」(p.199)で、「ドライブモード」を□(オフ)にしておけば、カメラの電源をオフにしたときに、設定が解除されます。

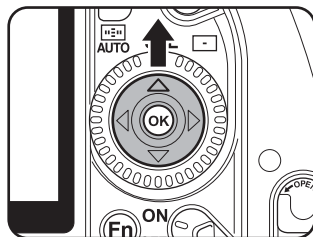
リモコン撮影（リモコンF：別売品）

別売のリモコンFを使うとカメラから離れた所から撮影することができます。リモコン撮影には ![remote] （リモコン）と ![remote 3s] （3秒後レリーズ）の2種類があります。

![remote]	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
![remote 3s]	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターがきれます。

1 カメラを三脚などで固定する

2 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

3 十字キー（▲）を押す

ドライブモード選択画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）で 🛆 または 🛆3s を選ぶ

セルフタイマーランプが点滅し、リモコン待機状態であることをお知らせします。

5 OK ボタンを押す

Fnメニュー画面に戻ります。

6 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

7 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク ● が点灯します。

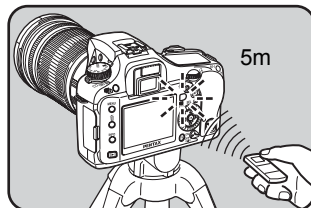
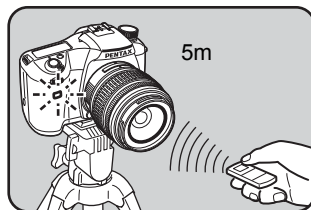
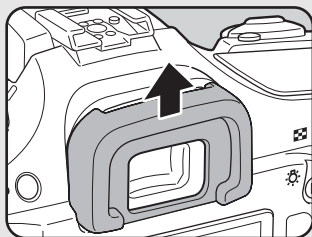
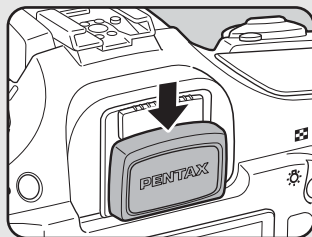
メモ：初期設定ではリモコンの操作でピント合わせはできません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてからリモコン操作をしてください。ただし、カスタムファンクションでリモコン時のAFを可能に設定することができます。（p.34）

8 リモコンをカメラの正面または背面のリモコン受光部に向けて、リモコンのシャッターボタンを押す

リモコン撮影できる距離はカメラ正面または背面から約5mです。

の場合、シャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。

3sの場合、シャッターボタンを押してから3秒後にシャッターがきれます。

撮影が終了すると、セルフタイマーランプが2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。

- リモコン撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能（p.162）や付属のMEファインダーキャップをご利用ください。（露出モードを**M**（ハイパーマニュアル）に設定している場合（p.156）はファインダーから入る光は無視できます。）

アイカップFPを取り外す

MEファインダーキャップを取り付ける

- リモコン撮影を設定後に中止したいときは、ドライブモード選択画面で、 3s以外のモードに切り替えてください。なお「撮影」メニューの「モードメモリ」（p.199）で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源をオフにしたときに、設定が解除されます。
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- ストロボ充電中はリモコン操作はできません。
- 内蔵ストロボを使用する場合は、あらかじめストロボを上げておいてください。
- リモコン撮影モードのまま約5分間放置すると、自動的に1コマ撮影に戻ります。
- リモコン用電池では、約30,000回リモコン送信することができます。電池の交換（有料）については当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にお問い合わせください。

ミラーアップ機能を使ってカメラぶれを防ぐ

ケーブルスイッチ（別売品）や、リモコン（別売品）などを使ってもまだカメラぶれが気になる場合、ミラーアップ機能を使う方法があります。2秒セルフタイマーを使って撮影すると、シャッターボタンを押すことによりミラーがアップし、2秒後にシャッターがきれますので、ミラーアップ時の振動を避けることができます。
ミラーアップ機能を使って撮影するときは、以下の手順で操作してください。

1 カメラを三脚などで固定する

2 Fnボタンと十字キー（▲）で2S（2秒セルフタイマー）を選ぶ

☞セルフタイマー撮影 （p.77）

3 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

4 シャッターボタンを全押しする

ミラーがアップした後、2秒後にシャッターがきれます。露出値はミラーアップ直前の値でAEロックされます。

再生する

撮影した画像を再生する

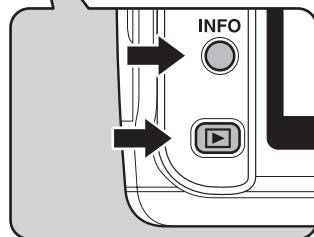
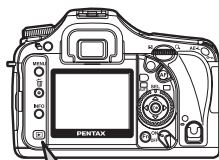
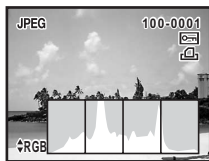
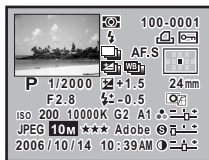
撮影した画像をカメラで再生する方法を説明します。

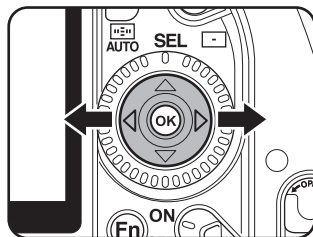
パソコンを使って再生するには、付属のソフトウェア「PENTAX PHOTO Browser 3」をご使用ください。ソフトの使用方法は、「PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3使用説明書」をご覧ください。

1 撮影後に、▶ボタンを押す

最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）が液晶モニターに表示されます。

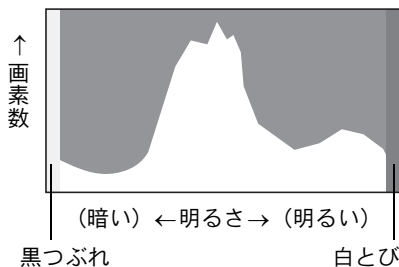
画像再生時に**INFO**ボタンを押すと、表示中の画像に関する撮影情報などの表示が切り替わります。

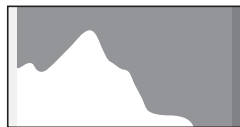
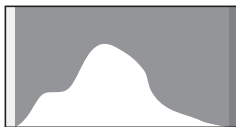
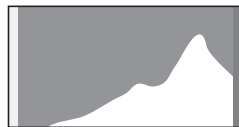
表示内容の詳細は、p.24～25をご覧ください。

通常表示　ヒストグラム表示　情報表示なし　詳細情報表示

2 十字キー（◀▶）を押す

◀：前の画像が表示される
▶：次の画像が表示される

ヒストグラムを使う

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を示します。
K10Dでは、画像の明るさの分布を表した「輝度ヒストグラム」と、色の強度の分布を表した「RGBヒストグラム」の2種類のヒストグラムを表示させることができます。

☞ヒストグラム表示（p.25）

撮影前や撮影後にヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断にご利用いただけます。
☞露出を補正する（p.161）

画像の明るさを見る

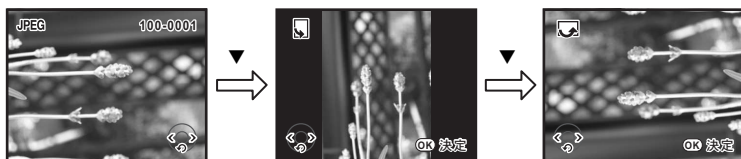
画像の明るさが適正な画像では、グラフの山は中央にあります。しかし、暗い画像ではグラフの山は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

暗い画像

適正な明るさの画像

明るい画像

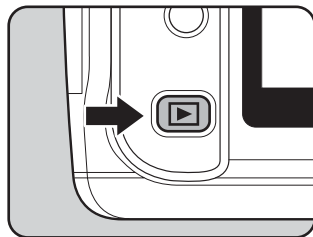
また、画像の中で、暗過ぎてヒストグラムの左端よりも左に来てしまう部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明る過ぎてヒストグラムの右端よりも右に来てしまう部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
K10Dには、黒つぶれ部分を黄色く、白とび部分を赤く点滅表示させる機能があります。
☞撮影した画像を再生する（p.85）
☞再生時の条件を設定する（p.186）
☞クイックビューとデジタルプレビューの表示を設定する（p.197）

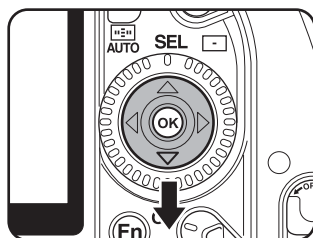
明暗差のバランスを見る
明暗差のバランスが取れた画像では、グラフの中央部になだらかな山のピークが来ます。しかし、明暗差が激しく、中間的な明るさの部分が少ない画像では、左右に山のピークが来て、中央部分がくぼんだグラフになります。

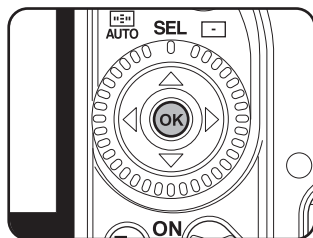
色のバランスを見る
「RGBヒストグラム」では各色ごとの強度分布を表示します。ホワイトバランスがうまく調整されている画像は、各色のグラフ右部分が似た形になります。1色のみ左に偏っている場合などは、色がかぶっているといえます。
☞ホワイトバランスを調整する（p.123）

画像を回転する

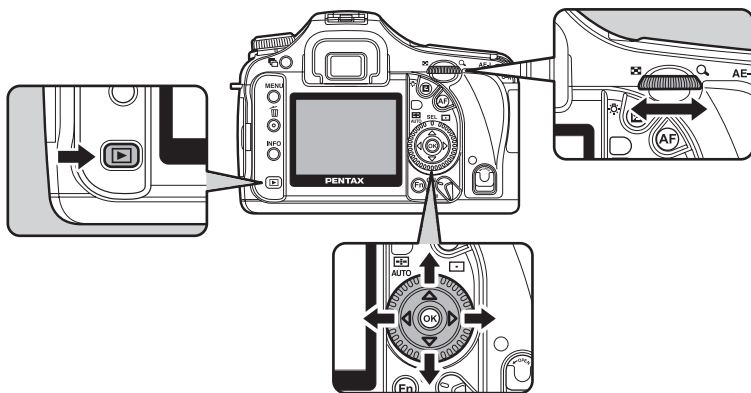
K10Dには、縦位置センサーのはたらきにより、縦位置で撮影したときに、シャッターボタンのある側を上、モードダイヤルのある側を下と判断し、画像を再生時に正しい向きに自動回転させる機能が備わっています。また以下の手順で、表示されている画像を左回りに90°ずつ回転させることもできます。

1 撮影後に、▶ボタンを押す

最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）が液晶モニターに表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

1回押すごとに画像が左回りに90°ずつ回転して表示されます。

3 OK ボタンを押す

画像の回転表示情報を保存します。

「Cカスタム」メニューの「画像の自動回転」がオフに設定されているときは、画像の回転ができません。

再生した画像を拡大表示する

再生した画像を約20倍まで拡大して表示できます。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で画像を選ぶ

最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）がはじめに液晶モニターに表示されます。

2 後電子ダイヤルを右（🔍の方向）に回す

１クリック回すごとに画面が拡大（1.2倍*～20倍）します。

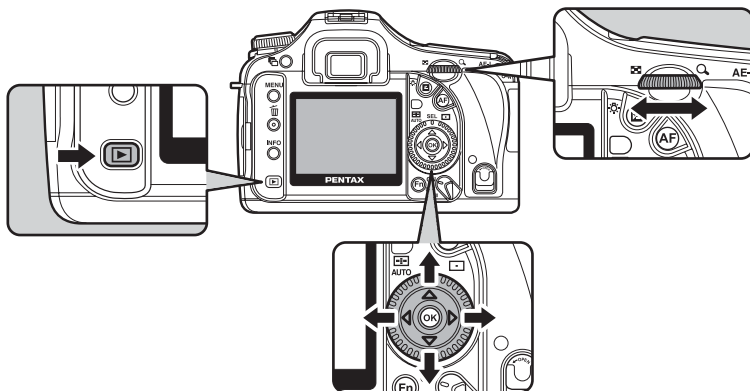
拡大表示中にできる操作

十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動する
後電子ダイヤル（右方向）／グリーンボタン	画像表示を拡大する（最大20倍まで）
後電子ダイヤル（左方向）／☒ボタン	画像表示を縮小する（最小1.2倍*まで）
OKボタン	1倍表示に戻る
INFOボタン	情報表示あり/なしを切り替える
前電子ダイヤル	拡大倍率と画面上の拡大位置を保ったまま、前後の画像を表示させる

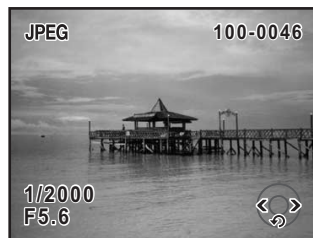
* 後電子ダイヤル（右方向）の1クリック目の倍率（拡大倍率の最小値）は、初期設定では1.2倍です。「**C**カスタム」メニューの「拡大再生の開始倍率」で変更できます。（p.34）

クイックビュー（p.65）、デジタルプレビュー（p.171）中も、同じ操作で画像を拡大表示できます。

複数の画像を表示する

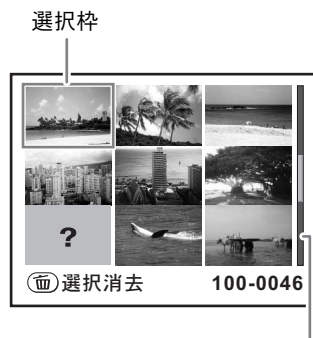
撮影した画像を、液晶モニターに複数枚（4枚、9枚、16枚）ずつ表示します。

初期設定は「9画像」表示になっています。表示枚数は任意に選択できますが、ここでは9画像表示の場合で説明します。

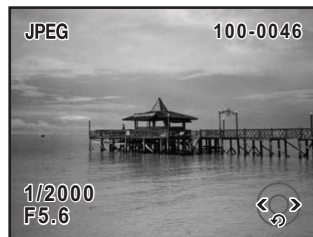
1 ▶ボタンを押す

最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）が液晶モニターに表示されます。

2 後電子ダイヤルを左（⊞の方向）に回す

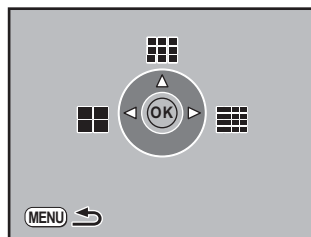
マルチ画面表示になります。

画像が小さなコマで一度に9コマずつ表示されます。十字キー（▲▼◀▶）で画像が選べます。画面右端にスクロールバーが表示されます。最下行の画像を選択しているときに十字キー（▼）を押すと、次の9画像が表示されます。

表示できない画像には「?」が表示されます。

3 後電子ダイヤルを右（🔍の方向）に回すか、OK ボタンを押す

選択した画像が全画面表示されます。

表示する画像数を選択する

1 **マルチ画面表示で Fn ボタンを押す**

マルチ画像数選択画面が表示されます。

2 **十字キー（◀▲▶）で一度に表示する画像数を選ぶ**

◀	4画像
▲	9画像
▶	16画像

マルチ画面表示に戻ります。

フォルダを表示する

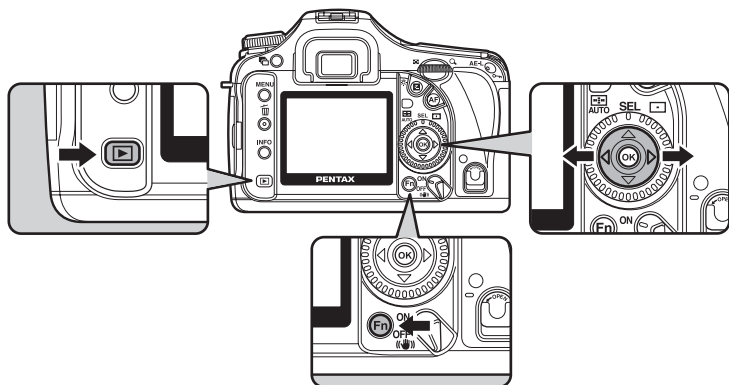
マルチ画像表示画面でフォルダを表示できます。

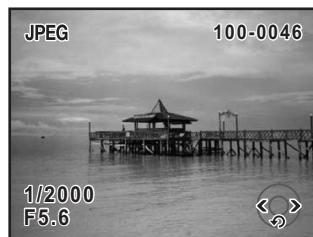
1 **マルチ画像表示画面（前項手順3）で後電子ダイヤルを左に回す**

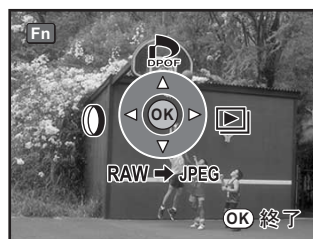
2 **十字キー（▲▼◀▶）で表示したいフォルダを選んでOKボタンを押す**

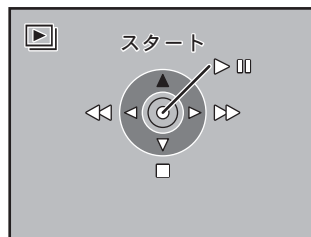
前回選択した画像数でフォルダ内の画像が表示されます。

スライドショウで連続再生する

SDメモリーカードに保存された全画像を連続して再生します。連続再生を開始するには、液晶モニターに表示されるメニュー画面を使用します。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で最初に表示させる画像を選ぶ

最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）がはじめに液晶モニターに表示されます。

2 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

スタート画面が表示され、スライドショウが始まります。

スライドショウ実行中にできる操作

OK ボタン	一時停止
十字キー（◀）	前の画像を表示
十字キー（▶）	次の画像を表示
十字キー（▼）	停止

一時停止中にできる操作

OK ボタン	一時停止を解除（再実行）
十字キー（◀）	前の画像を表示
十字キー（▶）	次の画像を表示
十字キー（▼）	停止

4 スライドショウを終了させる

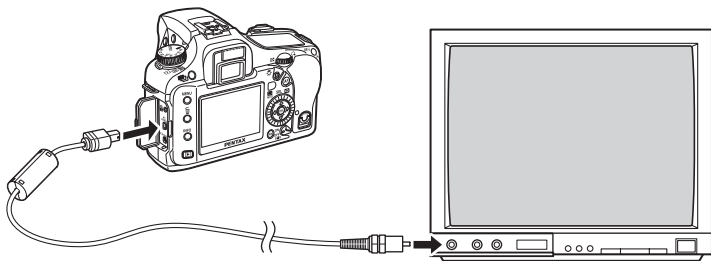
スライドショウの実行中または一時停止中に、次のいずれかの操作をすると終了します。

- 十字キー（▼）を押す*1
- シャッターボタンを半押し、または全押しする*2
- **AF** ボタンを押す*2
- ▶ボタンを押す*2
- 電源レバーを位置にする*2
- モードダイヤルを回す*2
- **MENU** ボタンを押す*3

*1 スライドショウ終了後、通常の再生モードになります。
*2 スライドショウ終了後、撮影モードになります。
*3 スライドショウ終了後、「再生」メニュー画面が表示されます。

スライドショウの表示時間は「▶ 再生」メニューで設定します。「▶ 再生」メニューからもスライドショウをスタートできます。（p.187）

AV機器と接続する

ビデオケーブルを使用すると、テレビなど、ビデオ入力端子を備えた機器をモニターにして画像を再生することができます。ケーブルを接続するときは、テレビとカメラの電源を必ずオフにしてください。
☞ビデオ出力方式を選択する（p.195）

1 **カメラの端子カバーを開きUSB／VIDEO端子にビデオケーブルを接続する**

2 **ビデオケーブルのもう一方の端子を、AV機器の映像入力端子に接続する**

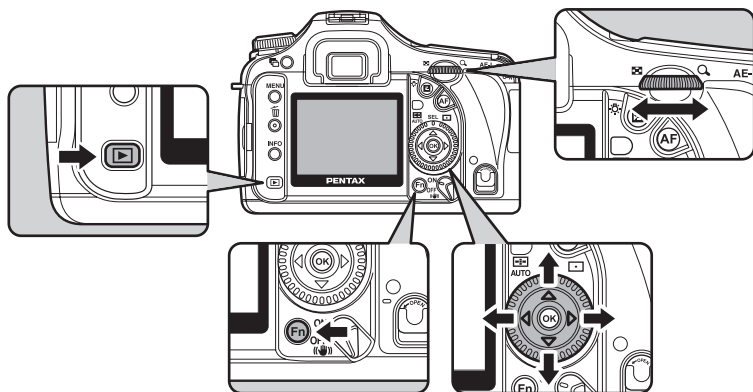
3 **AV機器とカメラの電源をオンにする**

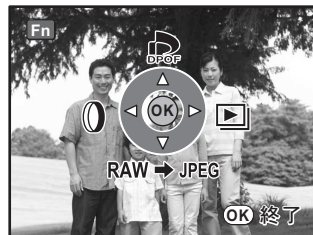
- 長時間使用するときは、AC アダプター D-AC50（別売）のご使用をお勧めします。（p.47）
- 複数の映像入力端子があるAV機器（テレビなど）で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続している映像入力端子を選択してください。
- 国や地域によっては、カメラのビデオ出力方式が初期設定（NTSC）になっていると、画面がうまく映らない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください。（p.195）
- AV機器に接続している間は、カメラの液晶モニターはオフになります。

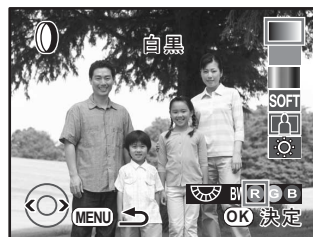
画像をフィルタで加工する

デジタルフィルタで加工する

撮影した画像を、デジタルフィルタを使って加工できます。加工した画像は、元の画像と別の名前で保存されます。

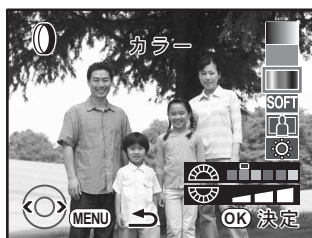
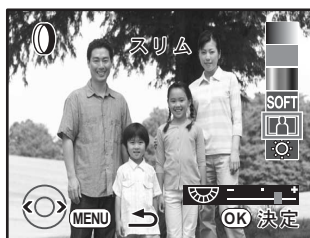
- RAW画像はデジタルフィルタ加工できません。
- デジタルフィルタは、「▶再生」メニューからも設定できます。

1 再生モードでFnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（◀）を押す

フィルタ選択画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で画像を選ぶ

4 十字キー（▲▼）でフィルタを選ぶ

フィルタを選択すると、効果が画像で確認できます。

5 前または後電子ダイヤルで調整する

カラーフィルタ

スリムフィルタ

フィルタ名	内容	前電子ダイヤル	後電子ダイヤル
白黒	白黒の画像にします。モノクロ用の色フィルターを使用したような、コントラストの変化をつけることもできます。	―	BW／R／G／B
セピア	古い写真のようなセピア色に加工します。3段階の濃淡を選択できます。	―	濃度（3段階）
カラー	選択したカラーフィルタをかけた画像にします。18種類（基本6色×各3段階）の調整が可能です。	赤／緑／青／黄／マゼンタ／シアン	各色の濃度（3段階）
ソフト	全体にぼかしたような、ソフトな画像に加工します。3段階の調整が可能です。	―	ソフト度（3段階）
スリム	画像の縦横比を変更します。縦方向に最大2倍、横方向に最大2倍まで調整できます。	―	左：幅広く 右：細く
明るさ	画像の明るさを変更します。±8段階の調整が可能です。	―	左：暗く 右：明るく

十字キー（◀▶）で他の画像を選択すると、設定されたフィルタの状態で表示されます。

6 OKボタンを押す

保存確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲）で「新規保存」を選ぶ

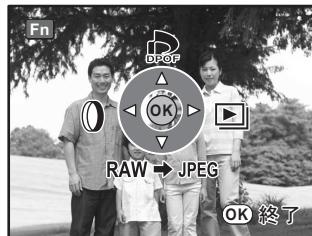
8 OKボタンを押す

フィルタ処理された画像が、撮影画像とは別の名前で保存されます。

RAW展開する

撮影したRAWファイルをJPEGに変換します。

1 再生モードでFnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

3 OK ボタンを押す

画像に記録されているパラメータが表示されます。
そのまま変換する場合は手順7へ進みます。

4 Fnボタンを押す

5 十字キー（▲▼）で変更したいパラメータを選ぶ

変更できるパラメータは以下の通りです。

記録サイズ	10M（3872×2592）／6M（3008×2000）／2M（1824×1216）
画質	★★★（S.ファイン）／★★（ファイン）／★（エコノミー）
ホワイトバランス	AWB（オート）／☼（太陽光）／（日陰）／（曇天）／N（昼白色蛍光灯）／W（白色蛍光灯）／D（昼光色蛍光灯）／（白熱灯）／（ストロボ）／（マニュアル）／色温度（3種類*）
増減感	−2.0～＋2.0
画像仕上	（ナチュラル）／（鮮やか）
彩度	−3.0～＋3.0
シャープネス	−3.0～＋3.0
コントラスト	−3.0～＋3.0

* ホワイトバランスを「色温度」に設定して撮影された画像は、4種類になります。

ホワイトバランスの微調整、マニュアルホワイトバランスの測定、色温度入力はできません。

6 十字キー（◀▶）でパラメータを変更する

7 OKボタンを押す

保存確認画面が表示されます。

8 十字キー（▲）で「新規保存」を選ぶ

9 OKボタンを押す

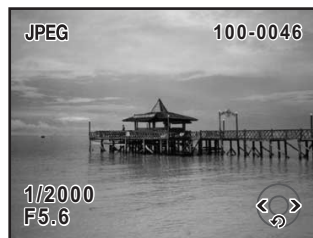
RAW展開処理された画像が、撮影画像とは別の名前で保存されます。

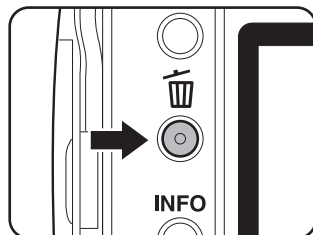
画像を消去する

1画像ずつ消去する

画像を1画像ずつ消去します。

- 消去した画像は復元ができません。
- プロテクトされている画像は消去できません。

1 **▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で消去したい画像を選ぶ**

2 **🗑ボタンを押す**

消去画面が表示されます。

3 **十字キー（▲）で「消去」を選ぶ**

RAW+で保存されている画像は、どの記録形式の画像を消去するか選択します。

JPEG消去	JPEG画像のみを消去します。
RAW消去	RAW画像のみを消去します。
RAW+JPEG消去	両形式とも消去します。

4 OK ボタンを押す

画像が消去されます。

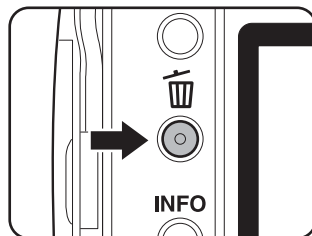
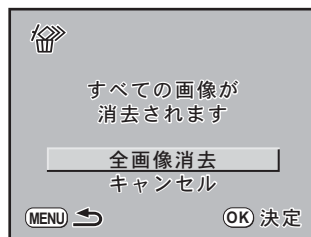
まとめて消去する

保存されているすべての画像を消去します。

注意
- 消去した画像は復元ができません。
- プロテクトされている画像は消去できません。

1 ▶ボタンを押す

2 🗑ボタンを2回押す

全消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「全画像消去」を選ぶ

4 OK ボタンを押す

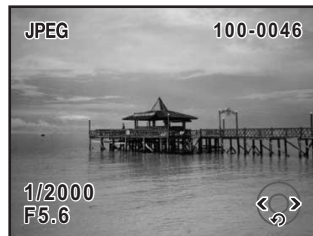
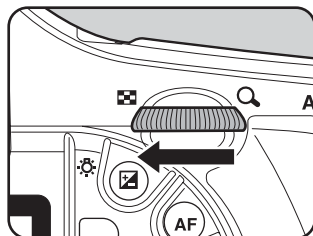
全画像が消去されます。

選択して消去する（マルチ画像表示で消去）

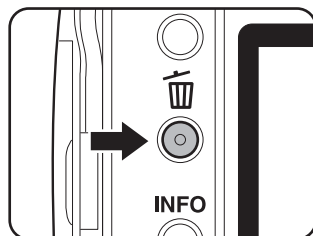
マルチ画像表示で複数の画像を選択し、一括して削除します。

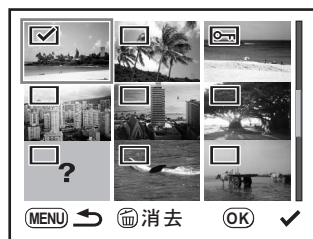
注意
- 消去した画像は復元ができません。
- プロテクトされている画像は消去できません。
- 一度に選択できるのは、同一フォルダ内にあるファイルだけです。

1 ▶ボタンを押す

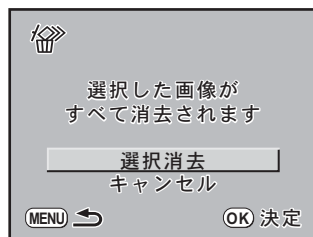
最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）がはじめに液晶モニターに表示されます。

2 後電子ダイヤルを左（▦の方向）に回す

マルチ画面表示になります。

3 🗑ボタンを押す

画像の上に□が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で削除する画像に移動し、OKボタンを押す

画像が選択され、☑が表示されます。
Fnボタンを押すと全画像を選択できます。（選択する画像の数によっては、選択完了まで時間がかかることがあります。）

5 🗑ボタンを押す

消去確認画面が表示されます。

6 十字キー（▲）で「選択消去」を選ぶ

7 OKボタンを押す

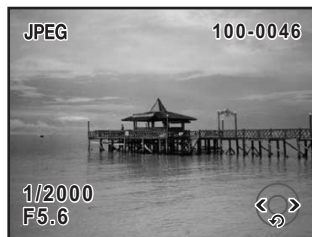
選択した画像が消去されます。

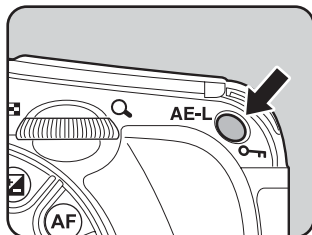
消去できないようにする（プロテクト）

画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

注意 プロテクトされた画像もSDメモリーカードをフォーマットすると消去されます。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で画像を選ぶ

最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）がはじめに液晶モニターに表示されます。

2 O-nボタンを押す

プロテクト画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「プロテクト」を選ぶ

4 OKボタンを押す

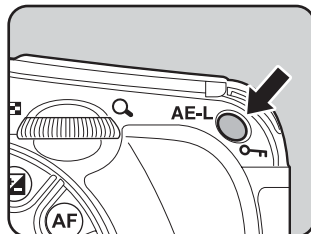
選択した画像がプロテクト（保護）されます。

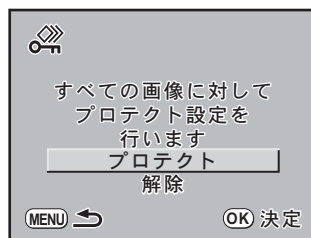
- プロテクトを解除するには、手順3で「解除」を選びます。
- プロテクトされた画像には、再生時にO-nが表示されます。（p.24、25）

全画像をプロテクトするには

1　▶ボタンを押す

2　O-ₙボタンを2回押す

全画像プロテクト画面が表示されます。

3　十字キー（▲）で「プロテクト」を選び、OKボタンを押す

SDメモリーカード内のすべての画像がプロテクト（保護）されます。

手順3で「解除」を選択すると、全画像のプロテクト設定が解除されます。

プリントサービスの設定をする（DPOF）

画像を記録したSDメモリーカードをプリント取扱店に持っていくと、従来の写真と同様にプリント注文をすることができます。
あらかじめDPOF（Digital Print Order Format）の設定をすることで、プリント枚数の指定や、画像に日付を入れることができます。

RAW画像はDPOF設定できません。

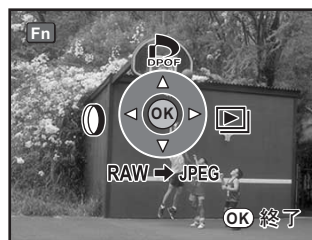
1画像ずつ設定する

各画像ごとに、次の項目の設定をします。

枚数	プリントする枚数を設定します。99枚までの設定ができます。
日付	プリントする画像に日付を入れるか入れないかを設定します。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で画像を選ぶ

2 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

3 十字キー（▲）を押す

DPOF設定画面が表示されます。
すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付の☑／□が表示されます。

4 十字キー（◀▶）でプリント枚数を設定し、十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

5 十字キー（◀▶）で日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑：プリントに日付を入れる
□：プリントに日付を入れない

6 OKボタンを押す

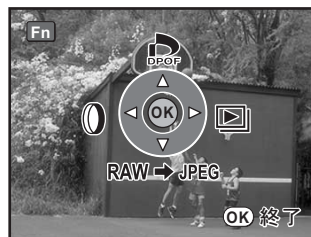
DPOF設定が保存され、再生できる状態になります。

注意 プリンターやプリント取扱い店のプリント機器によっては、DPOFの設定で日付をオンにしても日付がプリントされないことがあります。

メモ DPOF設定を解除するには、手順4で枚数を「00」に設定して、**OK**ボタンを押します。

全画像を設定する

1 再生モードでFnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

DPOF設定画面が表示されます。

3 Fnボタンを押す

全画像設定画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）でプリント枚数、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

設定のしかたは「1画像ずつ設定する」の手順4、5（p.107）をご覧ください。

5 OKボタンを押す

設定した値で全画像のDPOF設定が保存され、再生できる状態になります。

全画像設定では、全てのコマに同じプリント枚数が設定されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいかを確認してください。

全画像設定を行うと、1画像ずつの設定は解除されます。

カメラとプリンターをつないでプリントする（PictBridge）

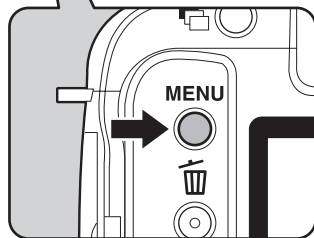
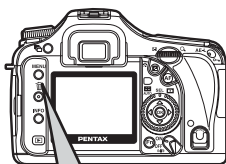
パソコンを介さなくてもカメラとプリンターを直接つないで写真をプリント（ダイレクトプリント）できます。
ダイレクトプリントする場合、カメラとPictBridge対応プリンターを、付属のUSBケーブル（I-USB17）で接続します。
どの画像をプリントするのか、何枚プリントするのか、日付を入れるのか、などは、カメラとプリンターを接続した状態で、カメラ側で設定します。
ダイレクトプリントは次の手順で行います。

カメラの「転送モード」を「PictBridge」に設定する（p.110）
↓
カメラをプリンターに接続する（p.111）
↓
プリントの設定をする（p.106）
　1画像ずつプリントする（p.112）
　全画像をプリントする（p.114）
　DPOF設定でプリントする（p.116）

注意
- カメラをプリンターに接続するときは、AC アダプター D-AC50（別売）のご使用をお勧めします。プリンターと通信中にバッテリーが消耗すると、プリンターが誤動作したり、画像データが壊れることがあります。
- データ転送中は、USBケーブルを抜かないでください。
- プリンターの種類によっては、カメラ側の設定（印刷設定、DPOF設定など）が一部反映されないことがあります。
- 設定されたプリント枚数が500枚以上になる場合、正しくプリントされないことがあります。
- 1枚の用紙に複数画像をプリントする設定はカメラ側ではできません。プリンター側で設定するか、パソコンを使って印刷してください。
- RAW画像は、カメラから直接印刷できません。RAW画像の印刷は、「RAW展開」（p.98）で JPEG に変換するか、パソコンに転送して、PENTAX PhotoBrowser3を用いて行ってください。
- パソコンと接続する場合は、別冊の「PENTAX PHOTO Browser 3/ PENTAX PHOTO Laboratory 3使用説明書」をご覧ください。

「転送モード」を設定する

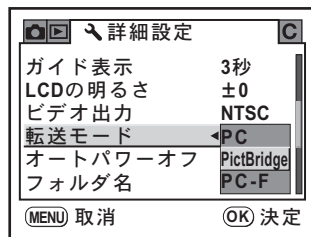
1 MENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（◀▶）で「🔧詳細設定」メニューを選ぶ

3 十字キー（▲▼）で「転送モード」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「PictBridge」を選ぶ

6 OKボタンを押す

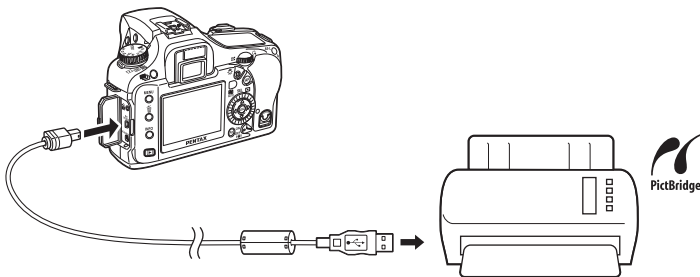
設定が変更されます。

7 MENUボタンを押す

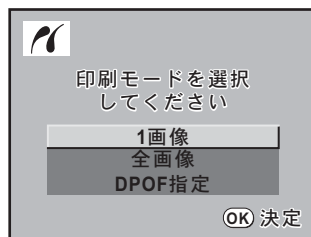
カメラをプリンターに接続する

1 カメラの電源をオフにする

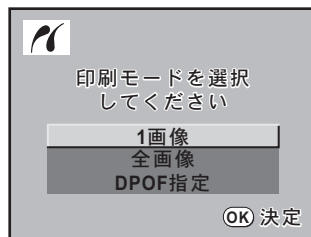
2 付属のUSBケーブルで、カメラとPictBridge対応プリンターを接続する

PictBridge対応プリンターには、PictBridgeのロゴが表示されています。

3 プリンターの電源をオンにする

4 プリンターの起動が完了したら、カメラの電源をオンにする

PictBridgeメニュー画面が表示されます。

「転送モード」が「PC」または「PC-F」の場合、PictBridgeメニュー画面は表示されません。

1画像ずつプリントする

1 PictBridge メニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「1画像」を選ぶ

2 OKボタンを押す

1画像印刷画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でプリントする画像を選ぶ

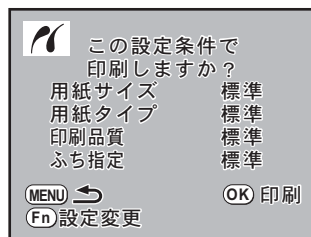
4 十字キー（▲▼）でプリントする枚数を選ぶ

99枚まで設定できます。

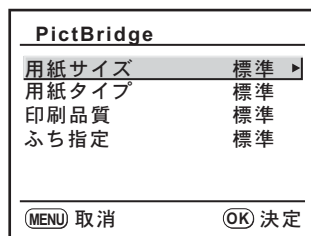
5 Fnボタンで、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑：プリントに日付を入れる
□：プリントに日付を入れない

6 OKボタンを押す

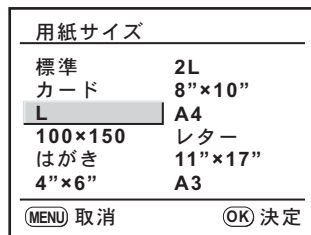
印刷設定の確認画面が表示されます。
初期設定のまま印刷するときは、手順12へ進みます。
印刷設定を変更するときは、手順7へ進みます。

7 Fnボタンを押す

印刷設定の変更画面が表示されます。

PictBridge
用紙サイズ 標準
用紙タイプ 標準
印刷品質 標準
ふち指定 標準
MENU 取消　OK 決定

8 「用紙サイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

用紙サイズ選択画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼◀▶）で用紙サイズを選ぶ

お使いのプリンターで印刷可能な用紙だけが選択できます。
「標準」を選択するとプリンターの設定にしたがいます。

10 OKボタンを押す

11 手順8〜10の操作を繰り返して、「用紙タイプ」「印刷品質」「ふち指定」を設定する

各項目の設定が終了するごとに、印刷設定の変更画面が表示されます。
「標準」を選択するとプリンターの設定にしたがいます。
「用紙タイプ」は、★の数が多いほど高品質な用紙に対応します。
「印刷品質」は、★の数が多いほど高品質な印刷を行います。

12 OKボタンを2回押す

設定した値で印刷が開始されます。
MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

全画像をプリントする

1 PictBridge メニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「全画像」を選ぶ

2 OKボタンを押す

全画像印刷画面が表示されます。

3 プリント枚数、日付プリントの有無を設定する

全画像を何枚ずつプリントするか、日付をプリントするかどうかを選びます。

設定のしかたは「1画像ずつプリントする」の手順4～5（p.113）をご覧ください。

4 OKボタンを押す

印刷設定の確認画面が表示されます。

印刷設定を変更するときは、「1画像ずつプリントする」の手順7～11（p.113～p.114）をご覧ください。

5 印刷設定の確認画面でOKボタンを押す

設定した条件で全画像のプリントが開始されます。

MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

プリントサービスの設定（DPOF）内容でプリントする

1 PictBridgeメニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「DPOF指定」を選ぶ

2 OKボタンを押す

DPOF指定印刷画面が表示されます。

十字キー（◀▶）で、画像ごとの印刷枚数、日付の有無、プリント合計枚数を確認できます。印刷枚数と日付の有無はプリントサービスで設定します。（p.106）

3 OKボタンを押す

印刷設定の確認画面が表示されます。

印刷設定を変更するときは、「1画像ずつプリントする」の手順7〜11（p.113〜p.114）をご覧ください。

4 印刷設定の確認画面でOKボタンを押す

設定した内容でプリントされます。

MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

USBケーブルを取り外す

プリントが終了したら、USBケーブルをカメラとプリンターから取り外します。

1 カメラの電源をオフにする

2 カメラとプリンターからUSBケーブルを取り外す

4 機能リファレンス

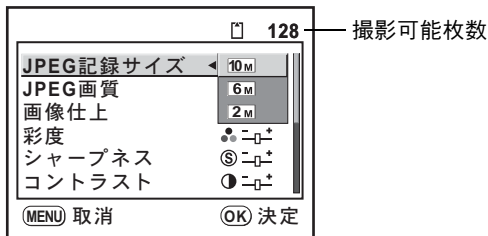
K10D をより深く使いこなすための機能をご紹介します。

画像の保存形式を設定する

JPEG記録サイズを設定する

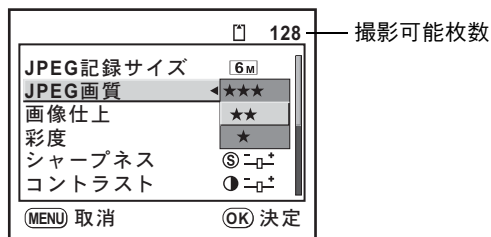
JPEG画像の記録画素数を10M、6M、2Mから選択することができます。画素数が多くなるほど、画像が大きくなり容量も増えます。また、画像の容量は、設定している「JPEG画質」によっても異なります。初期設定は、10M 3872×2592です。

10M	3872×2592	4切／A3サイズ
6M	3008×2000	6切／A4サイズ
2M	1824×1216	2L／A5サイズ

上記の用紙サイズは、記録サイズごとに印刷に適したサイズのおおよその目安です。撮影した写真や印刷した写真の美しさ、鮮明さは、画質設定や露出制御などの撮影時設定、または使用するプリンターの解像度によっても変わってきます。
JPEG画像の記録画素数は、「撮影」メニューの「JPEG記録サイズ」で設定します。（p.29）
記録画素数を変更すると、その記録画素数での撮影可能枚数が画面右上に表示されます。

JPEG画質を設定する

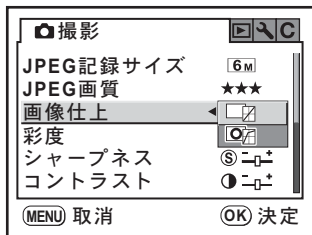
JPEG画像の画質を設定します。画像の容量は、設定している「JPEG記録サイズ」によっても異なります。初期設定は、★★★（S.ファイン）です。

★★★	S.ファイン	↑ 画質は鮮明になりますが、画像の容量が大きくなります。
★★	ファイン	
★	エコノミー	↓ 画質は粗くなりますが、画像の容量が小さくなります。

JPEG画像の画質は、「撮影」メニューの「JPEG画質」で設定します。（p.29）
画質を変更すると、その画質での撮影可能枚数が画面右上に表示されます。

画像仕上を設定する

画像の基本的な色調を設定します。初期設定は、（ナチュラル）です。

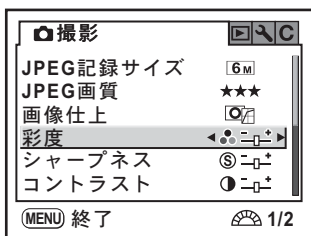
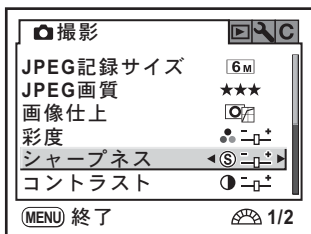
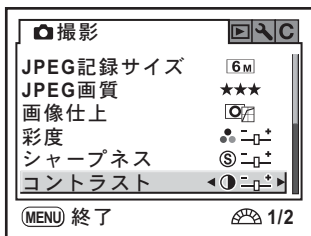
	ナチュラル	レタッチ素材として最適な、自然な画像に仕上げます。
	鮮やか	鮮やかでコントラストが強く、シャープな画像に仕上げます。

「撮影」メニューの「画像仕上」で設定します。（p.29）

（鮮やか）、（ナチュラル）それぞれに、彩度、シャープネス、コントラストの値を保持することができます。

彩度／シャープネス／コントラストを設定する

画像の彩度、シャープネス、コントラストを5段階から選択します。初期設定は、すべて「0（標準)」です。

彩度	色の鮮やかさを設定します。
シャープネス	画像の輪郭をくっきりまたはソフトにします。
コントラスト	画像の明暗差を設定します。

「撮影」メニューの「彩度」「シャープネス」「コントラスト」で設定します。（p.29）

＋側：彩度が高くなります。
－側：彩度が低くなります。

＋側：シャープネスが強くなります。
－側：シャープネスが弱くなります。

＋側：コントラストが高くなります。
－側：コントラストが低くなります。

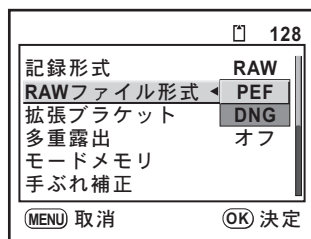
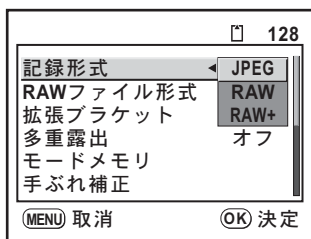
記録形式を設定する

画像のファイルフォーマットを設定します。初期設定はJPEGです。

JPEG	JPEG形式で記録します。画像の記録サイズは「A撮影」メニューの「JPEG記録サイズ」、画質は「A撮影」メニューの「JPEG画質」設定によって変えることができます。画像の容量は設定によって異なります。
RAW	RAWデータはCCDの出力を加工せずに記録するデータのことです。ホワイトバランス、コントラスト、彩度、シャープネスなどの設定は画像に反映されませんが、情報として記録されます。RAW展開（p.98）やパソコンに転送し、付属ソフトウェアのPENTAX PHOTO Laboratory 3を使用して展開処理を行う場合には、これらの設定を使いJPEGやTIFFなどの画像データを作成します。
RAW+	RAW形式とJPEG形式両方で記録されます。**RAW** ボタンを押しても同様に両形式で記録することが出来ます。

「A撮影」メニューの「記録形式」で設定します。(p.29)
記録形式を変更すると、その記録形式での撮影可能枚数が画面右上に表示されます。
RAW形式で記録する場合は、「A撮影」メニューの「RAWファイル形式」でPEF形式とDNG形式のどちらかを選択することができます。初期設定はPEF形式です。

PEF：ペンタックス独自のRAWファイルフォーマット
DNG：Adobe Systems社が提唱する汎用の公開RAWファイルフォーマット

記録形式がRAWまたはRAW+に設定されていると、その形式での撮影可能枚数が画面右上に表示されます。JPEGに設定されているときに「RAWファイル形式」を変更する場合は、撮影可能枚数は表示されません。

RAW ボタンを押すと1回の撮影でRAW+保存状態が終了します。もう一度 **RAW** ボタンを押すまで継続したい場合は、「**C** カスタム」メニューの「ワンタッチRAW+」で設定できます。

ホワイトバランスを調整する

ホワイトバランスとは、基本的に、白いものが白く写るように撮影時の光の状態に応じて画像の色合いを調整する機能です。ホワイトバランスの**AWB**（オート）で撮影した色合いに納得がいかないときや、意図的に効果を出したいときなどに、ホワイトバランスを設定してください。初期設定は、**AWB**（オート）です。

AWB	オート	調整をカメラにまかせます。（約4000～8000K）
☼	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。（約5200K）
	日陰	日陰で撮影するときに設定します。青みを抑えます。（約8000K）
	曇天	曇りの日に撮影するときに設定します。（約6000K）
	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯の種類によって、W（白色（約4200K）の蛍光灯）、N（昼白色（約5000K）の蛍光灯）、D（昼光色（約6500K）の蛍光灯）から選択することができます。
	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。赤みを抑えます。（約2850K）
	ストロボ	内蔵ストロボを使用して撮影するときに設定します。（約5400K）
	マニュアル	撮影時の光の状態で白いものが白く写るように、手動でホワイトバランスを調整します。
K	色温度	色温度を数値で設定します。設定は3種類保存できます。

* 色温度（K）は目安です。正確な色を示すものではありません。

1 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（◀）を押す

ホワイトバランス選択画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）を押し、任意の設定にする

電源レバーを◎に合わせると、設定したホワイトバランスでのデジタルプレビューが表示されます。

デジタルプレビューを表示させることで、ホワイトバランスの微調整がしやすくなります。

4 OKボタンを2回押す

設定したホワイトバランスで撮影できる状態になります。

- マニュアルで調整する方法については、p.125をご覧ください。
- プレビュー動作は「C カスタム」メニューの「プレビュー方式」に関わらず、デジタルプレビューになります。

ホワイトバランスの微調整をする

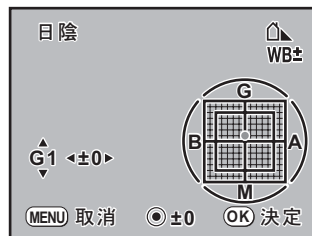
K10Dでは、設定したホワイトバランスを細かく微調整できます。

1 「ホワイトバランスを調整する」の1〜3の手順で、任意の設定をする

2 十字キー（▶）を押す

ホワイトバランス微調整画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で、ホワイトバランスの微調整をする

G-M、B-Aの座標軸から、最大で7段階、225通りの調整が可能です。

GM補正	グリーン－マゼンタ間の色味を調整します。	▲▼
BA補正	ブルー－アンバー間の色味を調整します。	◀▶

グリーンボタンを押すと、GM補正値・BA補正値が共にリセットされます。

4 OKボタンを押す

ホワイトバランス選択画面に戻ります。

5 OKボタンを2回押す

設定したホワイトバランスで撮影できる状態になります。

AWB（オート）で微調整をする場合は、「C カスタム」メニューの「AWB時の微調整」で「許可」に設定します。

マニュアルでホワイトバランスを調整する

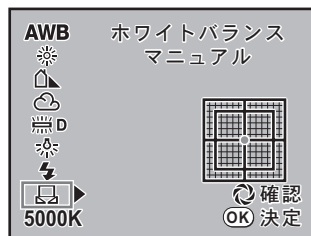
撮影時の光源に合わせて任意にホワイトバランスを調整します。マニュアルホワイトバランスを使うと、あらかじめカメラに用意されたホワイトバランス（p.123）では調整しきれない微妙な色合いをカメラに記憶させて、撮影状況に最適なホワイトバランスで撮影できます。

1 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（◀）を押す

ホワイトバランス選択画面が表示されます。

3 十字キー（▼）を押し、⊒（マニュアル）を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

ホワイトバランス微調整画面が表示されます。

5 ホワイトバランスを調整する照明の下で、ファインダーいっぱいに白い紙等を入れるか、白くしたい場所を被写体に選ぶ

6 シャッターボタンを全押しする

シャッターがきれないときは、フォーカスモードレバーを**MF**の位置に合わせてください。

測定範囲を選択する画面が表示されます。

7 後電子ダイヤルで測定範囲を画面全体とスポットのどちらかに選ぶ

画面全体を選んだときは手順9に進みます。

8 十字キー（▲▼◀▶）で測定枠を測定したい場所に移動する

9 OK ボタンを押す

測定が完了するとホワイトバランス微調整画面が表示されます。

微調整が必要なときは「ホワイトバランスの微調整をする」の手順で調整します。（p.123）

10 OK ボタンを押す

ホワイトバランス選択画面に戻ります。

11 OK ボタンを2回押す

設定したホワイトバランスで撮影できる状態になります。

- ホワイトバランスを調整するためにシャッターボタンを押しても、画像は記録されません。
- 測定がうまくいかなかったときは、「NG」の表示がされます。表示中に**OK**ボタンを押すと、ホワイトバランス微調整画面に戻り、再測定できます。
- 極端な露出オーバーや露出アンダーの状態では、ホワイトバランス調整ができない場合があります。その場合は、適正露出に調整した上で、ホワイトバランス調整を行ってください。

色温度でホワイトバランスを調整する

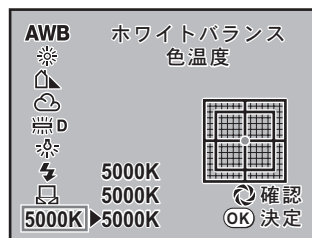
色温度を数値で設定します。

1 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（◀）を押す

ホワイトバランス選択画面が表示されます。

3 十字キー（▼）を押し、色温度（初期値は5000K）を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

5 十字キー（▲▼）で任意の場所を選ぶ

設定は3種類保存でき、保存された設定値はここで選択した場所に保存されます。また、一度設定した色温度を変更する場合も、同様の操作で選択します。

6 十字キー（▶）を押す

色温度入力画面が表示されます。

7 前または後電子ダイヤルで色温度を調整する

電子ダイヤルによって色温度のステップが異なります。

	ケルビン	ミレッド*
前電子ダイヤル	1ステップ（100K）	1ステップ（20ミレッド）
後電子ダイヤル	10ステップ（1000K）	5ステップ（100ミレッド）

* 色温度のステップ単位の初期設定はケルビンです。「**C** カスタム」メニューの「色温度ステップ」でステップ単位をミレッドに設定できます。ただし、数値はケルビン換算で表示されます。

「ホワイトバランスの微調整をする」（p.123）の手順で微調整することもできます。

8 OK ボタンを押す

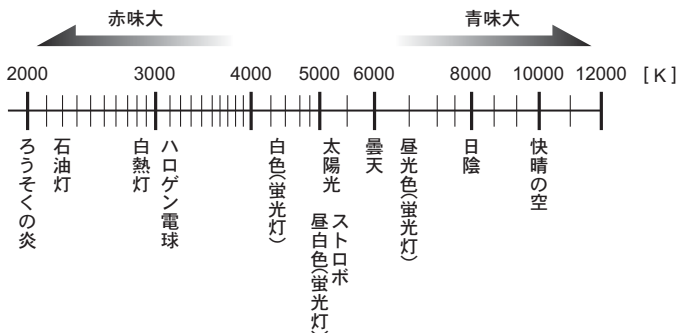
設定が保存され、ホワイトバランス選択画面に戻ります。

電源レバーを の位置に合わせると､設定した色温度でのデジタルプレビューが表示されます。

9 OK ボタンを2回押す

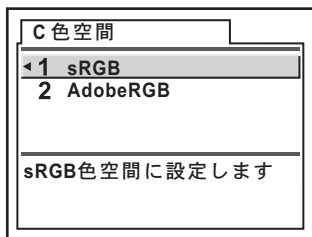
設定したホワイトバランスで撮影できる状態になります。

色温度について

光の色は、温度が高くなるにつれて青味を帯びた光色に、温度が低くなるにつれて赤味を帯びた光色に変化します。このような光の色の変化を絶対温度（K：ケルビン）で表したものを色温度といいます。このカメラでは、さまざまな光の下で自然な色で撮影できるようホワイトバランスを設定できます。

色空間を設定する

使用する色空間を設定できます。初期設定は、「sRGB」です。

1	sRGB	sRGB色空間に設定します。
2	AdobeRGB	AdobeRGB色空間に設定します。

「**C**カスタム」メニューの「色空間」で設定します。（p.34）

色空間の設定によって、ファイル名の付け方が次のように変わります。
sRGBのとき　　　：IMGPxxxx.JPG
AdobeRGBのとき：_IGPxxxx.JPG
「xxxx」はファイルNo.です。4桁の連番で表されます。

色空間とは

デジタルカメラやモニター、プリンターなどの画像入出力機器は、それぞれ色を再現できる範囲が異なります。
この色再現可能範囲を色空間といいます。
異なる色空間を持つ機器同士の色再現を合わせるために、いくつかの基準となる色空間が提案されていますが、このカメラではsRGB色空間とAdobeRGB色空間に対応しています。
sRGB色空間はパソコンを中心とした機器で広く使われています。
AdobeRGB色空間はsRGB色空間よりも広い色再現範囲をもっており、主に商業印刷などの業務用途で使われています。
なお、AdobeRGB色空間で作られた画像をsRGB対応の機器でそのまま出力すると、sRGB色空間で作られた画像を出力したときに比べ色が薄く見えます。

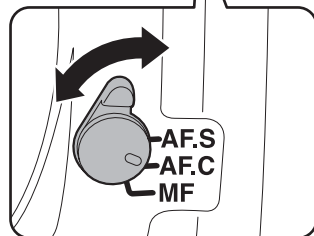
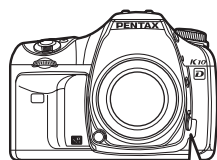
ピントを合わせる

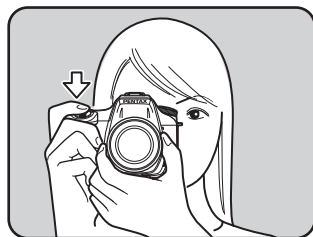
ピント合わせの方法には、以下の２通りがあります。

AF	オートフォーカス	シャッターを半押しにすると自動的にピントを合わせます。
MF	マニュアルフォーカス	マニュアルでピントを調整します。

オートフォーカスを利用する

オートフォーカスには、シャッターボタンを半押しにしてピントが合うとその位置に固定する**AF.S**（シングルモード）と、半押しにしている間、被写体に合わせて常にピントを調整する**AF.C**（コンティニュアスモード）があります。工場出荷時の設定は**AF.S**になっています。

1 フォーカスモードレバーを AF.S または AF.C の位置に合わせる

AF.S	シングルモード	シャッターボタンを半押しにしてピントが合うと、その位置にピントを固定します。
AF.C	コンティニュアスモード	シャッターボタンを半押しにしている間、被写体に合わせて常にピントを調整します。

2 ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク ⬣ が点灯します。（点滅すると、ピントは合っていません。）

☞ オートフォーカスが苦手なもの（p.66）

合焦マーク

- **AF** ボタンを押してもシャッター半押しと同様のピント合わせができます。
- **AF.S**（シングルモード）では、⬣ が点灯している間は、ピントが固定（フォーカスロック）されます。別のものにピントを合わせるときは、いったんシャッターボタンから指を離してください。
- **AF.C**（コンティニュアスモード）に設定しているとき（p.130）は、合焦後もピントが固定されず、シャッターボタン半押し中は被写体のピントを追い続けます。
- **AF.S**（シングルモード）に設定しているとき（p.130）は、ピントが合わないかぎりシャッターをきれません。被写体に近づき過ぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスの苦手なもの（p.66）の場合は、マニュアルでピントを調整してください。（p.136）
- **AF.S**（シングルモード）では、被写体が暗い場合に、内蔵ストロボが発光可能な状態であれば、シャッターボタンを半押しすると、自動的に内蔵ストロボがマルチ発光され、オートフォーカスでのピントが合いやすくなります。
- **AF.C** では、シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが自動的に駆動し、常にピント合わせをし続けます。

ピント合わせ位置（測距点）を選択する

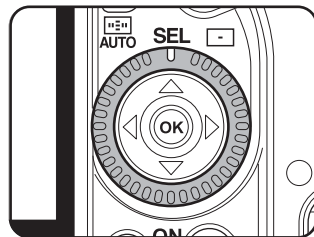
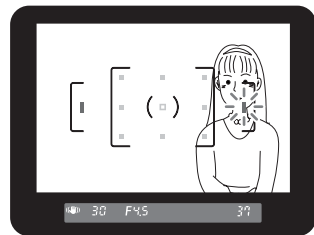
ファインダー内のどの位置にピントを合わせるかを設定できます。工場出荷時は、AUTO（オート）に設定されています。
選択された測距点は、ファインダー内に赤色光で表示されます。（スーパーインポーズ）

AUTO	オート	被写体が中央になくても、自動的にファインダー内の最適な位置にピントを合わせます。
SEL	セレクト	AFフレーム内の11の測距エリアの中の任意のエリアにピントを合わせます。
[-]	中央	ファインダー内の中央にピントを合わせます。

測距点切替ダイヤルで設定します。（p.18）

- 「 **C** カスタム」メニューの「スーパーインポーズ」で「 オフ」を選択すると、ファインダー内に測距点を表示しません。（p.33）
- DA・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外では、設定にかかわらず測距点は中央に固定されます。

ファインダー内の任意の位置にピントを合わせる

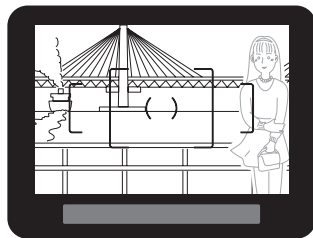
1 「測距点切替ダイヤル」で SEL（セレクト）を選ぶ

2 ファインダーをのぞきながら、被写体の位置を確認する

3 十字キー（▲▼◀▶）で、ピントを合わせたい位置に測距点を設定する

ファインダー内の測距点表示が赤く点灯（スーパーインポーズ）し、どの位置に設定したかを確認できます。

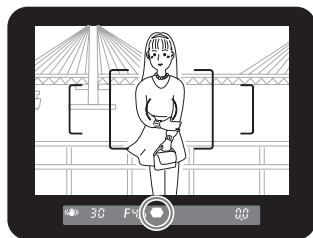
ピントを固定する（フォーカスロック）

オートフォーカスでピントを調整するときに、ピントを合わせたいものがAFエリアの範囲外にあるときは、被写体にピントを合わせることができません。そのような場合は、いったんAFエリアの範囲内で被写体にピントを合わせて固定し（フォーカスロック）、画像の構図を変えて撮影してください。

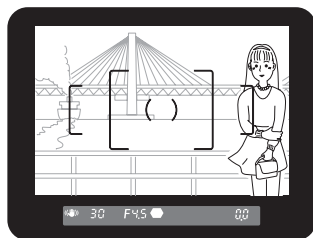
1 撮りたい画像の構図をファインダーで確認する

ピントを合わせたいものがAFエリアの範囲内に入っていないときにフォーカスロック機能を使います。

（例）人物にピントが合わずに背景にピントが合ってしまう。

2 ピントを合わせたい被写体をファインダーの中心にして、シャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。（点滅しているときは、ピントは合っていません。）

3 フォーカスロックする

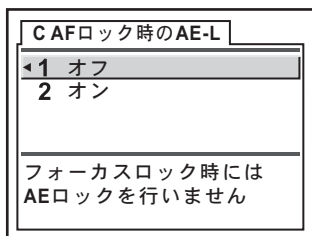
シャッターボタンを半押しにしたままにすると、そのままフォーカスロックされます。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい画像の構図に戻る

- 合焦マーク ⬣ が点灯している間は、ピントが固定（フォーカスロック）されます。
- フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。
- 電子音が鳴らないように設定できます。（p.189）

フォーカスロック時に露出値も固定する

「**C** カスタム」メニューの「AFロック時のAE-L」（p.33）を使ってフォーカスロック時に露出値を固定できます。初期設定では、フォーカスロック時には露出値は固定されません。

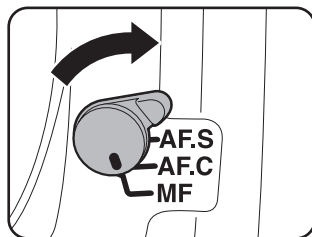
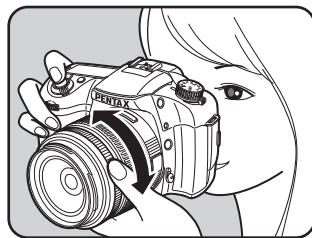
1	オフ	フォーカスロック時に露出値を固定しません。
2	オン	フォーカスロック時に露出値を固定します。

C AFロック時のAE-L
◂1 オフ
2 オン
フォーカスロック時には
AEロックを行いません

マニュアルでピントを調整する（マニュアルフォーカス）

マニュアルでピントを調整するには、ファインダー内の合焦マークを利用する方法と、ファインダー内のマット面を利用する方法があります。

合焦マークを利用する

ファインダーの合焦マーク⬣を利用して、手動でピントを調整します。

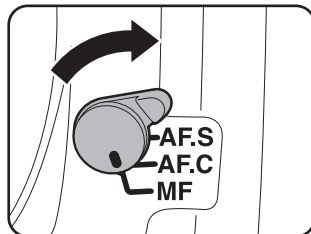
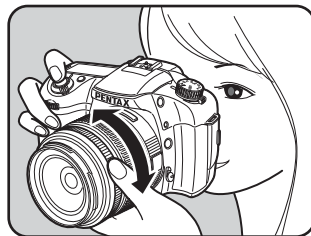
1 **フォーカスモードレバーをMFの位置に合わせる**

2 **ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しにし、レンズの距離リングを回す**

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

合焦マーク

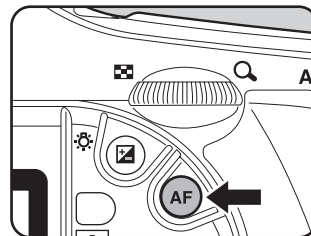
- 被写体がオートフォーカスの苦手なもの（p.66）に該当し、合焦マークが点灯しないときは、ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカスをしてください。
- 合焦時に電子音が鳴らないように設定できます。（p.189）

マット面を利用する

ファインダーのマット面を利用して、手動でピントを調整します。

1　フォーカスモードレバーをMFの位置に合わせる

2　ファインダーをのぞきながらファインダー内の像が最もはっきり見えるように、レンズの距離リングを回す

AFボタンについて

AFボタンは、シャッターボタンの半押しと同様にオートフォーカスを作動させることができます（撮影はシャッターボタンで行います）。
AF.S（シングルモード）の場合、**AF**ボタンを押してピントが合うと、ボタンを押し続けている間フォーカスロックが働きます。
AF.C（コンティニアスモード）の場合は、**AF**ボタンを押している間ピントを合わせ続けます（オートフォーカスが作動し続けます）。

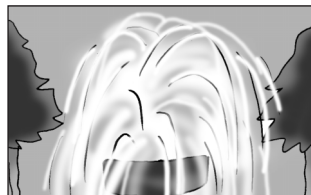
露出を設定する

絞りとシャッター速度の効果について

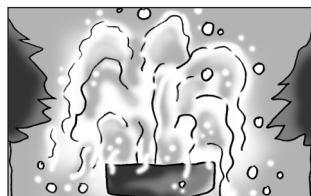
撮りたいもの（被写体）の適正露出は、シャッター速度と絞り値の組み合わせで決まります。ただし、被写体の適正露出を決めるときのシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選択することで、画像の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度を変えると、光がCCDにあたる時間が長くなったり、短くなったりして、CCDにあたる光の量を調整できます。

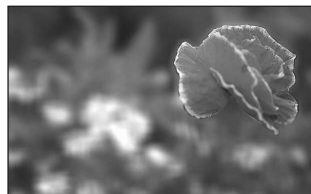
● シャッター速度を遅くする

シャッターが開いている時間が長くなるため、被写体が動いていれば、ブレとして画像に記録されます。
川や滝、波などの動きを意図的に遅いシャッター速度で撮ることで、動感のある画像になります。

● シャッター速度を速くする

動きのあるものでも動きを止めて撮影することができます。
また、シャッターをきるときにカメラが動いてしまうカメラぶれを起きにくくする効果があります。

絞りの効果

絞りを変えることでレンズを通る光の量を多くしたり、少なくしたりしてCCDにあたる光の量を調整できます。

● 絞りを開く（絞り値を小さくする）

ピントを合わせたものに比べて、その前後のもののボケが大きくなります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景のぼけを大きくし、花だけが浮き上がる効果があります。

● 絞りを絞る（絞り値を大きくする）

ピントが合って見える範囲が前後に広がります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景までピントが合っているように見えます。

被写界深度

被写体のある部分にピントを合わせると、その前後のものにもピントが合って見える範囲があります。このピントが合って見える範囲を被写界深度といいます。

- レンズによる違いはありますが、K10Dに35ミリカメラ用のレンズを使用した場合は、35ミリカメラに使用したときと比べて約1絞り程度、被写界深度が浅く（ピントが合って見える範囲が狭く）なります。
- 広角レンズほど、また被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。（ズームレンズなど、機構上被写界深度の目盛が付いていないレンズもあります。）

被写界深度	浅い	←→	深い
ピントが合って見える範囲	狭い	←→	広い
絞り	絞りを開く（絞り値を小さく）	←→	絞りを絞る（絞り値を大きく）
レンズの焦点距離	長くする（望遠）	←→	短くする（広角）
被写体までの距離	近い	←→	遠い

ISO感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、ISO感度を設定します。
ISO感度は、「AUTO（自動調整）」か、ISO 100～1600相当の間で設定できます。初期設定は、「AUTO」です。
Fnメニューの「ISO感度」で設定します。（p.36）

- 露出モードが**Sv**（感度優先）のときは、Fnメニューの「ISO感度」は選べません。
- 露出モードが**TAv**（シャッター＆絞り優先）のときは、「AUTO」以外のISO感度設定はできません。
- ISO感度を高感度に設定するほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。
- ISO感度設定のステップを1 Evに固定するか、露出設定ステップ（p.162）に合わせるかを「**C** カスタム」メニューの「ISO感度ステップ」で設定できます。

ISO AUTO時に自動調整する範囲を設定する

ISO感度を「AUTO」にしているときに、どの範囲でISO感度の自動調整をするかを設定する機能です。初期設定では「ISO 100-400」の範囲で自動調整します。

Fnメニューの「ISO感度」で、前または後電子ダイヤルを回して設定します。（p.33）

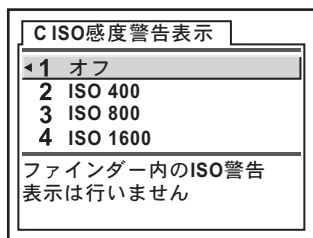
前電子ダイヤル	ISO感度の下限を設定
後電子ダイヤル	ISO感度の上限を設定

露出モードが**M**（ハイパーマニュアル）、**B**（バルブ）、**X**（ストロボ同調速度）のときは、「AUTO」を選べません。

ISO感度警告表示をする

設定したISO感度を超えたときに、ファインダーにISO感度警告を表示します。常用しないISO感度を設定しておくと、ISO感度を上げて撮影した後で、ISO感度の戻し忘れを防ぐことができます。初期設定では、ISO感度警告は表示しません。

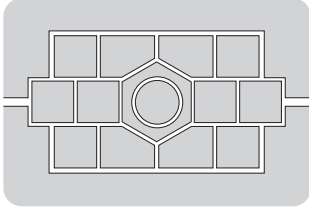
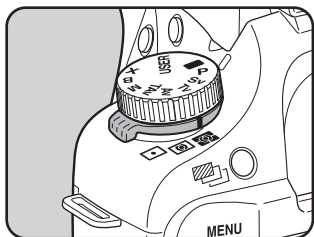
1	オフ	ISO感度警告表示はしません。
2	ISO 400	ISO 400以上のときにISO感度警告を表示します。
3	ISO 800	ISO 800以上のときにISO感度警告を表示します。
4	ISO 1600	ISO 1600のときにISO感度警告を表示します。

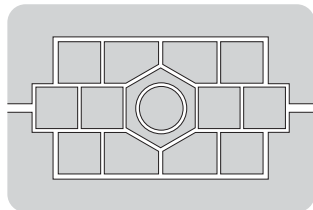
「**C** カスタム」メニューの「ISO感度警告表示」で設定します。（p.33）

ISO感度を設定値以上にすると、ファインダー内に**ISO**（ISO感度警告表示）が表示されます。

カメラがISO感度を自動調整（p.140）した場合は、設定したISO感度を超えた場合でも、ISO感度警告は表示されません。

測光方式を選択する

ファインダー内のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。測光方式には、▣（分割測光）、◙（中央重点測光）、⊡（スポット測光）が用意されています。工場出荷時は、▣（分割測光）に設定されています。

▣	分割測光	画面内を16分割して、それぞれの部分を測光し、もっとも適切と思われる露出を決めます。
◙	中央重点測光	画面の中央に重点を置きつつ、画面全体の明るさを均等に測って露出を決めます。
⊡	スポット測光	画面中央の一部分だけを測光し、露出を決めます。

測光モードレバーで設定します。（p.18）

分割測光を利用する

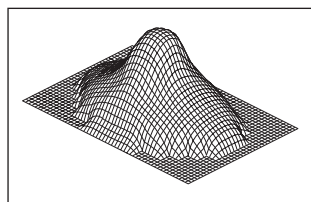
分割測光では、図のように画面内を16に分割して明るさが測定されます。逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるのかが自動的に判断され、補正されます。

DA・D FA・FA J・FA・F・A以外のレンズ、または絞りリングが**A**位置でないときには、分割測光に設定しても中央重点測光になります。（「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」（p.35）で許可を設定した場合のみ使用可能）

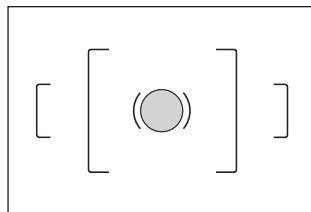
分割測光時に測距点と露出を関連付ける

「**C** カスタム」メニューの「測距点と露出の関連付」(p.33) で、分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点(ピントを合わせた位置)を関連付けることができます。初期設定は、「オフ」です。

1	オフ	露出値は、測距点の位置と関係なく設定されます。
2	オン	露出値は、測距点の位置に応じて調整されます。

中央重点測光を利用する

ファインダー中央部分に重点を置いて測光します。露出を決めるときにカメラまかせではなく、経験的に補正をして決めるときなどに利用します。中央重点測光では、図のように高さが高い部分(中央部分)ほど感度が高くなります。逆光の場合でも自動補正は行なわれません。

スポット測光を利用する

スポット測光では、図のようにファインダー中央の限られた狭い範囲の明るさだけを測光します。撮影したいものが非常に小さく、適正な露出を得るのが難しいときは、AEロック機能(p.162)と組み合わせて利用すると便利です。

測光時間を設定する

「**C** カスタム」メニューの「測光作動時間」(p.33) で、測光タイマーの作動時間を設定できます。初期設定は、「10秒」です。

1	10秒	測光タイマーの作動時間を10秒にします。
2	3秒	測光タイマーの作動時間を3秒にします。
3	30秒	測光タイマーの作動時間を30秒にします。

露出モードを切り替える

このカメラには、以下の9つの露出モードが用意されています。
露出モードは、「モードダイヤル」（p.38）を使って切り替えます。

露出モード	内容	露出補正	シャッター速度変更	絞り値変更	参照
■（グリーン）	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	×	×	×	p.146
P（ハイパープログラム）	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影することができます。前電子ダイヤルと後電子ダイヤルを使用して、適正露出のままシャッター速度と絞りの変更をすることもできます。	○	○	○	p.147
Sv（感度優先）	任意に設定したISO感度に合わせてシャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。	○	×	×	p.148
Tv（シャッター優先）	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。動きの速い被写体を止まっているように、あるいは躍動感を出して撮影できます。	○	○	×	p.150
Av（絞り優先）	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。被写体の背景をぼかしたり、くっきりさせたりできます。	○	×	○	p.152
TAv（シャッター＆絞り優先）	被写体の明るさに応じて、任意に設定したシャッター速度と絞り値で適正露出になるように、ISO感度が自動的に設定されます。	○	○	○	p.154

露出モード	内容	露出補正	シャッター速度変更	絞り値変更	参照
M（ハイパーマニュアル）	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った絵作りをしたいときに使います。	×	○	○	p.156
B（バルブ）	花火や夜景などを長時間シャッターを開いたままで撮影したいときに使います。	×	×	○	p.159
X（ストロボ同調速度）	シャッター速度を1/180秒に固定します。シャッター速度が自動的に切り替わらない外付けストロボと組み合わせる場合に使います。	×	×	○	p.160

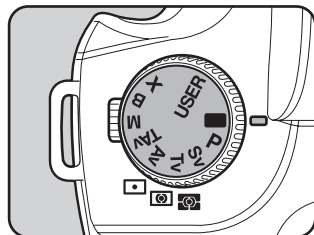
プログラムラインについて

「**C**カスタム」メニューの「プログラムライン」では、ノーマルプログラムラインの他、下記のプログラムラインを選ぶことができます。■、**P**では、設定されたプログラムラインに従って、露出が制御されます。

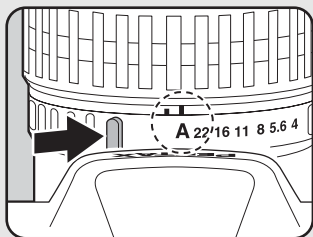
Normal（ノーマル）	ノーマルプログラムは、基本となるプログラム自動露出です。
Hi Speed（高速優先）	高速優先プログラムは、なるべく速いシャッター速度がきれるよう、高速シャッターを優先するプログラム自動露出です。
Depth（深度優先）	深度優先プログラムは、なるべく絞りを絞り込んで撮影できるように小絞りを優先したプログラム自動露出です。
MTF（MTF優先）	MTF優先プログラムは、DA、D FA、FA、FA Jレンズと組み合わせたときに有効で、使用するレンズの性能が最もよくなる絞り値を優先するプログラム自動露出です。

■（グリーン）モードを利用する

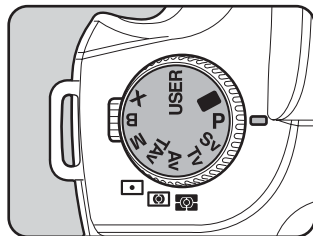
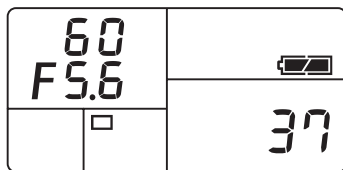
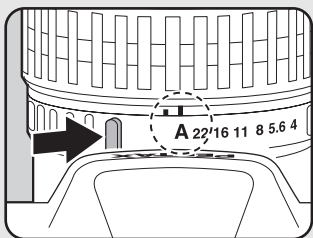
プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。

1 モードダイヤルを回して ■ の位置に合わせる

2 ファインダーと表示パネルでシャッター速度と絞り値を確認する

■（グリーン）モードではシャッター速度／絞り値の調整、AEロック、露出補正、オートブラケット、多重露出、ストロボ光量補正は設定できません。

絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。

P（ハイパープログラム）モードを利用する

プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。
前または後電子ダイヤルを使用して、適正露出のままシャッター速度と絞りの組み合わせを変更することもできます（ハイパープログラム）。

1 **モードダイアルを回して P の位置に合わせる**

2 **ファインダーと表示パネルでシャッター速度と絞り値を確認する**

- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。
- 使用するプログラムラインを変更することができます。「**C**カスタム」メニューの「プログラムライン」で設定します。
- 設定した条件では適正露出が得られない場合に適正露出を得られるよう、ISO感度を自動調整できます。Fnメニューの「ISO感度」で「AUTO」に設定します。（p.140）

ハイパープログラム

●シャッター速度を変えたい場合

P（ハイパープログラム）モードで前電子ダイヤルを回すと、シャッター優先自動露出に切り替わります。

- シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内でしか設定できません。
- 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が点滅します。
- グリーンボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

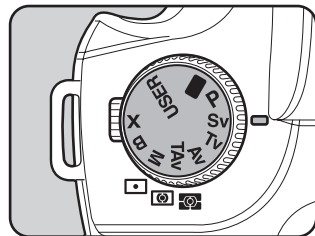
●絞りを変えたい場合

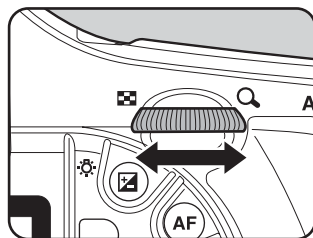
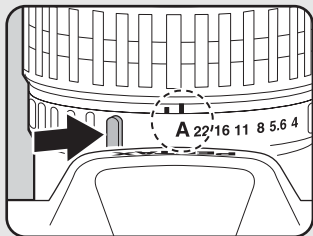
P（ハイパープログラム）モードで後電子ダイヤルを回すと、絞り優先自動露出に切り替わります。

- 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内でしか設定できません。
- 明るさが変わり、シャッター速度が連動範囲外になったときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。
- グリーンボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

Sv（感度優先）モードを利用する

ISO感度を任意に設定して、被写体の明るさに応じた撮影ができます。設定したISO感度に合わせてシャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。

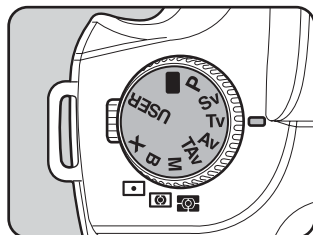
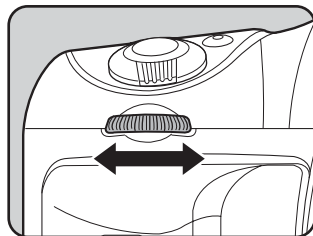
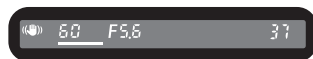
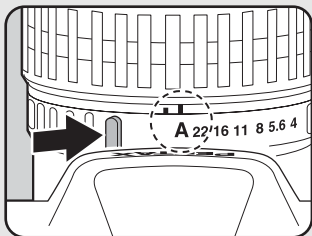
1　モードダイヤルを回してSvの位置に合わせる

2 後電子ダイヤルを回して、ISO感度を調整する

ファインダーと表示パネルにシャッター速度と絞り値、ISO感度が表示されます。

- ISO感度は、ISO 100～1600相当の間で設定できます。「AUTO（自動調整）」には設定できません。
- 露出補正値を変更するには、 ボタンを押しながら前電子ダイヤルを回します。（p.161）
- ISO感度は1/2Evごとのステップか1/3Evごとのステップで合わせることができます。「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.162）
- Fnメニューの「ISO感度」でISO感度設定はできません。
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

露出警告

撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のISO感度が点滅します。明るすぎるときはISO感度を下げ、暗すぎるときはISO感度を上げて点滅が止まれば適正露出で撮影できます。
明るすぎるときは、NDフィルターをお使いください。
暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

Tv（シャッター優先）モードを利用する

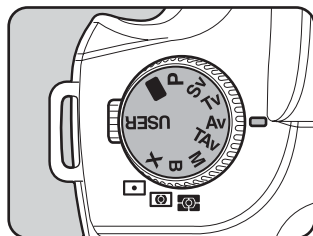
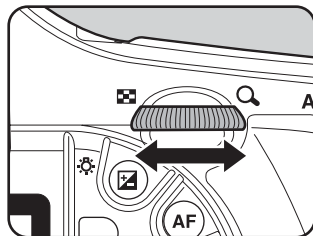
シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。シャッター速度を速くして動きの速い被写体を止まっているように撮影したり、シャッター速度を遅くして躍動感を出したりできます。
なお、絞り値は使用するシャッター速度に合わせて適正露出になるよう自動的に設定されます。
☞絞りとシャッター速度の効果について（p.138）

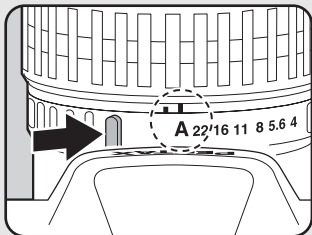
1 モードダイヤルを回して Tv の位置に合わせる

2 前電子ダイヤルを回して、シャッター速度を調整する

ファインダーと表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。

- 露出補正値を変更するには、☒ ボタンを押しながら前電子ダイヤルを回します。（p.161）
- シャッター速度は、1/2 EVまたは1/3 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.162）
- 設定した条件では適正露出を得られない場合に、適正露出を得られるようにISO感度を自動調整できます。Fnメニューの「ISO感度」で「AUTO」に設定します。（p.140）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

露出警告

撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば適正露出で撮影できます。
明るすぎるときは、NDフィルターをお使いください。
暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

Av（絞り優先）モードを利用する

絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。絞り値を大きくすると被写界深度が深くなり、ピントを合わせた被写体の前後まで鮮明に撮影することができます。また、絞り値を小さくすると被写界深度が浅くなり、ピントを合わせた被写体の前後をぼかすことができます。
なお、シャッター速度は使用する絞り値に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。
☞絞りとシャッター速度の効果について （p.138）

1 モードダイヤルを回して Av の位置に合わせる

2 後電子ダイヤルを回して、絞り値を調整する

ファインダーと表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。

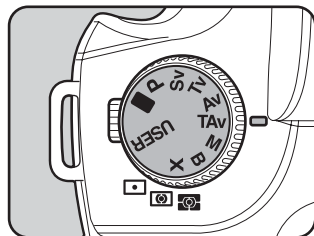
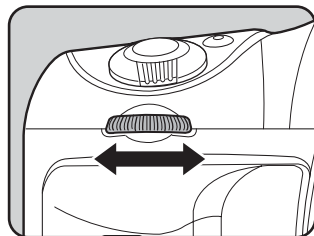
- 露出補正値を変更するには、⊠ ボタンを押しながら前電子ダイヤルを回します。（p.161）
- 絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.162）
- 設定した条件では適正露出を得られない場合に適正露出を得られるよう、ISO感度を自動調整できます。Fnメニューの「ISO感度」で「AUTO」に設定します。（p.140）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

露出警告

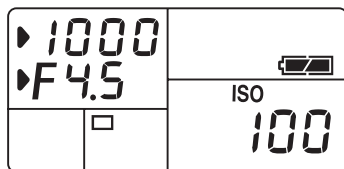
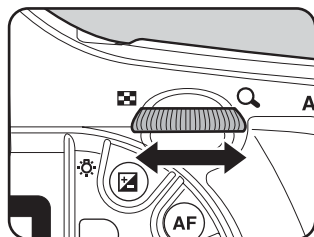
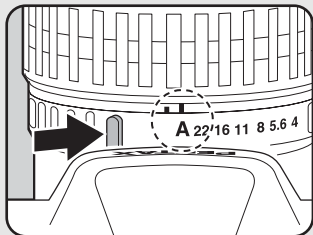
撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。

明るすぎるときは絞り値を小絞り側（数字の大きい方）に、暗すぎるときは絞り値を開放側（数字の小さい方）にして点滅が止まれば撮影できます。
明るすぎるときは、NDフィルターをお使いください。
暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

TAv（シャッター&絞り優先）モードを利用する

シャッター速度と絞り値の両方を任意に設定して、撮影します。
被写体の明るさに応じて、任意に設定したシャッター速度と絞り値で適正露出になるように、ISO感度が自動的に設定されます。

1 モードダイヤルを回して TAv の位置に合わせる

2 前電子ダイヤルを回して、シャッター速度を調整する

3 後電子ダイヤルを回して、絞り値を調整する

ファインダーと表示パネルにシャッター速度と絞り値、ISO感度が表示されます。

- 露出補正値を変更するには、⊠ ボタンを押しながら前電子ダイヤルを回します。（p.161）
- シャッター速度と絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.162）
- Fnメニューの「ISO感度」では「AUTO」以外のISO感度設定はできません。
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

露出警告

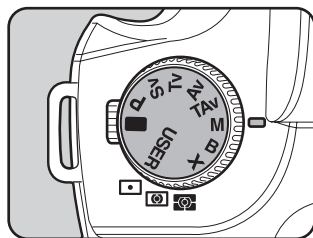
撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示と絞り値表示が点滅します。シャッター速度と絞り値を変えて点滅が止まれば適正露出で撮影できます。

明るすぎるときは、NDフィルターをお使いください。
暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

M（ハイパーマニュアル）モードを利用する

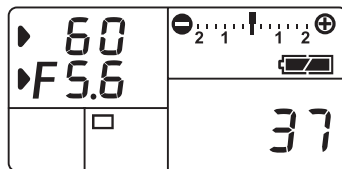
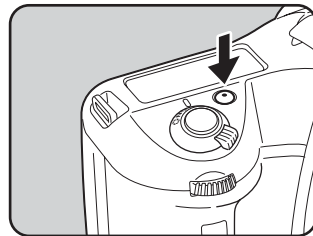
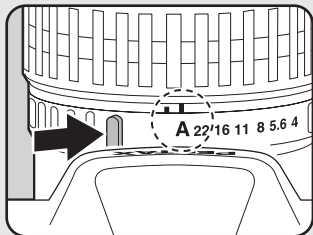
常に同じシャッター速度と絞り値の組み合わせで撮影する場合や、意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）にしたいときに使います。

☞絞りとシャッター速度の効果について （p.138）

1 **モードダイヤルを回して M の位置に合わせる**

2 **グリーンボタンを押す**

シャッター速度と絞りが自動的に切り替わり、適正露出が得られます。

この状態から、前または後電子ダイヤルで好みの露出値に変更して、撮影することもできます。

前電子ダイヤルでシャッター速度、後電子ダイヤルで絞り値を調整できます。

- ISO感度が「AUTO」の設定で露出モードを**M**（ハイパーマニュアル）モードにした場合は、「ISO AUTO時に自動調整する範囲を設定する」（p.140）で設定した下限のISO感度で作動します。
- 適正露出との差が±3.0より大きいと、点滅表示になります。
- シャッター速度と絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.162）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。

露出バーの見かた

M（ハイパーマニュアル）モードでは、表示パネルとファインダーに露出バーが表示されます。露出バーの▮が中心にあれば適正、－側に並んでいるときは露出不足、＋側に並んでいるときは露出オーバーです。露出バーの表示限界を超えた場合は、＋または－が点滅します。

露出警告

撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、露出バーの「＋」または「－」が点滅します。

AE-Lとの組み合わせ

ハイパーマニュアルでは、**AE-L**ボタン（p.162）を押して、露出値を記憶させることができます。その状態でシャッター速度あるいは絞りを変更すると、露出値を保持したまま、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。
例）シャッター速度が1／125秒で、絞りがF5.6の状態を**AE-L**ボタンで記憶した場合、前電子ダイヤルでシャッター速度を1／30秒に変えると絞り値は自動的にF11へ変わります。

グリーンボタンについて

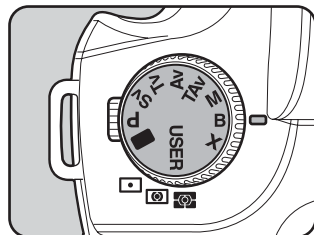
M（ハイパーマニュアル）モードでグリーンボタンを押すと、その時点での適正露出値になるよう絞り値とシャッター速度が自動的に調整されます。調整方法は、「**C** カスタム」メニューの「**M** 時のグリーンボタン」で、以下の 3 つから選択できます。

1	プログラムライン	絞り値とシャッター速度を自動的に調整します。
2	**Tv** シフト	絞り値を固定したまま、シャッター速度を自動的に調整します。
3	**Av** シフト	シャッター速度を固定したまま、絞り値を自動的に調整します。

レンズの絞りが **A** 位置以外の場合、レンズの絞りに応じて適正露出となるようにシャッタースピードが調整されます。
☞「絞りリングの使用」設定時の注意 （p.210）

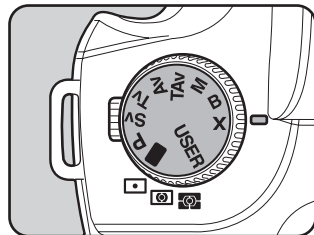
B（バルブ）モードを利用する

花火や夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。
シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

1 モードダイヤルを回して B の位置に合わせる

- 絞り値を調整するには、後電子ダイヤルを回します。
- 絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C**カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.162）
- **B**（バルブ）モードで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、ケーブルスイッチCS-205（別売）を使用してください。ケーブルスイッチはケーブルスイッチ端子（p.17）に接続してください。
- リモコン撮影（p.81）を利用すると、リモコンのシャッターを押している間、バルブ撮影をすることができます。
- シャッター速度を遅くしたときに発生するノイズ（画面のざらつきやムラ）を減らす処理をすることができます。「**C**カスタム」メニューの「ノイズリダクション」で設定します。（p.34）
- ISO感度が「AUTO」の設定で露出モードを**B**（バルブ）モードにした場合は、「ISO AUTO時に自動調整する範囲を設定する」（p.140）で設定した下限のISO感度で作動します。

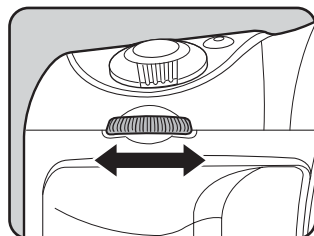
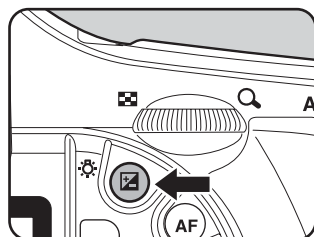
X（ストロボ同調速度）モードを利用する

シャッター速度を1/180秒に固定します。シャッター速度が自動的に切り替わらない外付けストロボと組み合わせる場合に使います。

1 **モードダイヤルを回して X の位置に合わせる**

- 絞り値を調整するには、後電子ダイヤルを回します。
- グリーンボタンを押すと、シャッター速度が1/180秒のまま絞り値を自動調整します。
- ISO感度が「AUTO」の設定で露出モードを**X**（ストロボ同調速度）モードにした場合は、「ISO AUTO時に自動調整する範囲を設定する」（p.140）で設定した下限のISO感度で作動します。

露出を補正する

意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）で撮影することができます。
設定ステップは、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で1/2 EVステップまたは1/3 EVステップのいずれかを選びます。（p.162）
1/2 EVステップを選んでいる場合は、－3～＋3（EV）の範囲で、1/3 EVステップを選んでいる場合は、－2～＋2（EV）の範囲で露出を補正できます。

1 ボタンを押しながら前電子ダイヤルで補正値を設定する

2 ファインダーで補正値を確認する

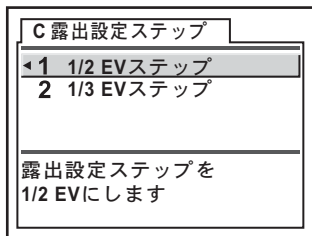
補正中はが表示されます。
ストロボ光量補正設定がされていると、が点灯します。

補正値

露出モードを■（グリーン）モード、**M**（ハイパーマニュアル）モード、**B**（バルブ）モードまたは**X**（ストロボ同調速度）モードに設定しているときは、露出補正はできません。

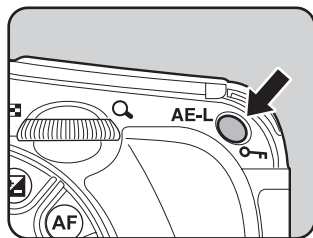
- 電源をオフにしたり、他の露出モードにしても露出補正は解除されません。
- ボタンを押しながらグリーンボタンを押すと露出補正値は 0 にリセットされます。

露出設定ステップを変更する

「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」を使って露出設定のステップを1/2 EVか1/3 EVに設定できます。

撮影前の露出を記憶させる（AEロック）

AEロックは、撮影前の露出を記憶させる機能です。撮りたいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときや、逆光撮影のときなどにお使いください。

1 AE-L ボタンを押す

その時点の露出（明るさ）をカメラが記憶します。
もう一度押すと解除できます。

- AEロック中は、ファインダー内に✱が表示されます。（p.26）
- **AE-L** ボタンから指を離しても、測光タイマーの2倍の時間は露出が記憶されています。**AE-L** ボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押ししている間は露出が記憶され続けます。
- **AE-L** ボタンを押すと、電子音が鳴ります。電子音が鳴らないようにすることもできます。（p.189）
- ■（グリーン）モード、**B**（バルブ）モードと **X**（ストロボ同調速度）モードでは、AEロックは利用できません。
- 焦点距離によって開放F値が変わるズームレンズでは、AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。ただし露光量は変わりませんので、AEロックをした時点での明るさで画像は撮影されます。
- フォーカスロック時に露出を固定できます。「**C** カスタム」メニューの「AFロック時のAE-L」で設定します。（p.135）

設定を自動で変えて撮る（オートブラケット）

露出ブラケットで撮影する

シャッターボタンを押したときに、露出が違う画像を連続して撮影できます。初期設定では、1枚目は補正なしの画像、2枚目はアンダー露出（マイナス補正）の画像、3枚目はオーバー露出（プラス補正）の画像を撮影します。（撮影枚数が3枚の場合）

標準露出

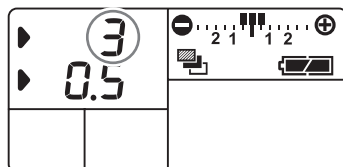
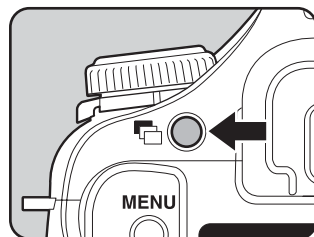
アンダー露出

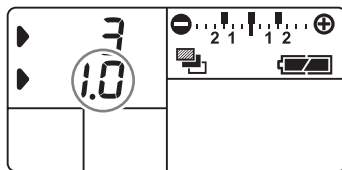
オーバー露出

撮影順は「**C**カスタム」メニューの「ブラケット撮影順」で設定できます。

ブラケット撮影順	0→－→＋、－→0→＋、＋→0→－

1 ブラケット撮影枚数を設定する

ボタンを押しながら、前電子ダイヤルを回して設定します。OFF（ブラケット撮影しない）、3枚、5枚から選べます。

2 ステップ幅を設定する

ボタンを押しながら、後電子ダイヤルを回して設定します。「**C** カスタム」メニュー（p.33）の「露出設定ステップ」の設定により、下記のステップ幅が選べます。

ステップ（ステップ幅）	1/2 EV	±0.5、±1.0、±1.5、±2.0
	1/3 EV	±0.3、±0.7、±1.0、±1.3、±1.7、±2.0

3 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

4 シャッターボタンを全押しする

連続して1枚目は補正なし、2枚目はマイナス側、3枚目はプラス側にそれぞれ補正して、3枚の画像が撮影されます。（撮影枚数が3枚の場合）

- フォーカスモードが **AF.S**（シングルモード）に設定しているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- 撮影途中でシャッターボタンから指を離しても、測光タイマー（p.143）の2倍（初期設定約20秒）は設定値が保持され、次の補正値で撮影することができます。この場合、各コマごとにピント合わせが行なわれます。測光タイマーの2倍（初期設定約20秒）を過ぎると1枚目からの撮影状態に戻ります。
- 内蔵ストロボあるいは、外付けストロボ（P-TTLオートの場合のみ）とオートブラケット撮影を併用することで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。ただし、外付けストロボでは、カメラのシャッターボタンを押したまま3コマ連続して撮影すると、充電完了前に2コマ目、3コマ目が撮影されてしまうことがありますので、必ず1コマごとに充電完了を確認してから撮影してください。
- **B**（バルブ）モードに設定しているときは、露出ブラケット撮影はできません。
- 露出ブラケットと多重露出を併用することはできません。後から設定した方が有効になります。

オーバー方向またはアンダー方向のみの画像を撮るには

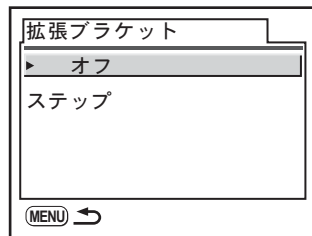
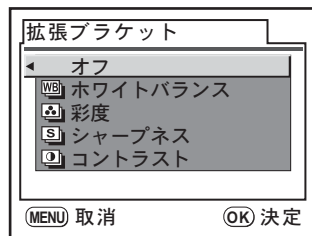
露出補正機能（p.161）と組み合わせることで、オーバー方向、またはアンダー方向のみのオートブラケット撮影を行うことができます。どちらの場合も、露出補正値を中心としたオートブラケット撮影が行なわれます。

拡張ブラケットで撮影する

ホワイトバランス／彩度／シャープネス／コントラストの任意の項目を3段階に変化させた画像を保存します。
露出ブラケットとは違い、1回の撮影で3枚保存します。
保存順は「C カスタム」メニューの「ブラケット撮影順」で設定できます。

ブラケット撮影順	0→－→＋、－→0→＋、＋→0→－

1 **「撮影」メニューで「拡張ブラケット」を選び、十字キー（▶）を押す**

拡張ブラケット画面が表示されます。

2 **十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で設定したい項目を選ぶ**

4 **OKボタンを押す**

5 **十字キー（▼）でステップを選び、十字キー（▶）を押す**

「ホワイトバランス」の場合は、ステップはBA±1／BA±2／BA±3／GM±1／GM±2／GM±3から選びます。初期設定はBA±1です。

「シャープネス」「彩度」「コントラスト」の場合は、ステップは±1／±2／±3から選びます。初期設定は±1です。

6 **OKボタンを2回押す**

7 MENUボタンを押す

撮影モードに戻ります。

8 撮影する

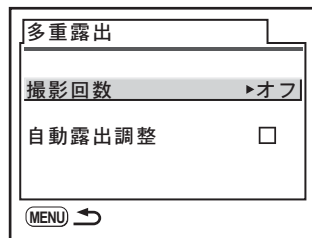
3枚の画像が保存されます。

- 露出ブラケット（p.163）が設定されている状態で、拡張ブラケットを併用することができます。
- 拡張ブラケットと多重露出を併用することはできません。後から設定した方が有効になります。
- 記録形式をRAWまたはRAW+にすると拡張ブラケットは無効になります。
- 記録形式がRAWまたはRAW+の場合に拡張ブラケットを設定すると、記録形式はJPEGになります。

多重露出で撮影する

任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影できます。

1 「📷撮影」メニューで「多重露出」を選び、十字キー（▶）を押す

多重露出設定が表示されます。

2 十字キー（▶）で撮影回数を選ぶ

撮影回数は十字キー（▲▼）で2～9回を選択できます。

3 OKボタンを押す

4 十字キー（▼）で自動露出調整を選ぶ

5 十字キー（▶）で自動露出調整の☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）にすると撮影回数に応じて自動的に露出補正を行います。

6 OK ボタンを押す

撮影モードに戻ります。

7 撮影する

シャッターボタンを1回押すごとに合成された画面がクイックビューに表示されます。クイックビュー表示中に 🗑 ボタンを押すと、それまでに撮影した画像を破棄して、1回目から撮影をやり直すことができます。
設定された回数の撮影が終了すると画像が保存されます。

- 撮影の途中でも RAW ボタンや MENU ボタンを押すか、露出ブラケットを設定すると、それまで撮影した画像が保存されて多重露出を終了します。
- 多重露出と露出ブラケットまたは拡張ブラケットを併用することはできません。後から設定した方が有効になります。

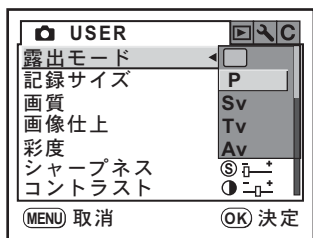
USER設定を登録する

現在のカメラの設定を登録し、モードダイヤルを USER に合わせるだけで簡単に呼び出すことができます。
登録できる設定は以下の通りです。

露出モード	ホワイトバランス
ストロボモード	記録形式
露出補正値	JPEG記録サイズ
露出ブラケットステップ＆枚数	JPEG画質
ドライブモード	画像仕上
ストロボ光量補正値	彩度
拡張ブラケットステップ＆種類	シャープネス
ISO感度値	コントラスト
ISO感度自動補正範囲値	

「🔧詳細設定」メニューの「USER」で登録します。

USERモードで設定を変更する

モードダイヤルをUSERに合わせている場合も、任意に設定を変更できます。
露出モードを変更するには、撮影モードで MENU ボタンを押し、「USER」メニューの「露出モード」で設定します。

USERモードで変更した設定も、「詳細設定」メニューの「USER」で登録しないとカメラに保存されません。

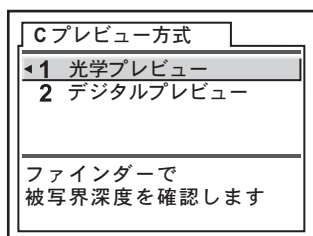
撮影前に構図、露出、ピントを確認する

プレビュー機能を利用すると、撮影するときにピントが合って見える範囲（被写界深度）や構図、露出、ピントなどを撮影前に確認することができます。プレビュー方式には、以下の2通りがあります。

光学プレビュー	被写界深度をファインダーで確認します。
デジタルプレビュー	構図、露出、ピントなどを液晶モニターで確認します。

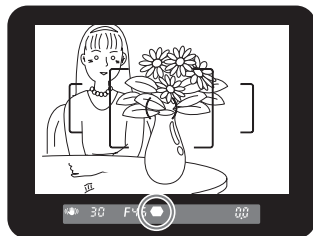
プレビュー方式を設定する

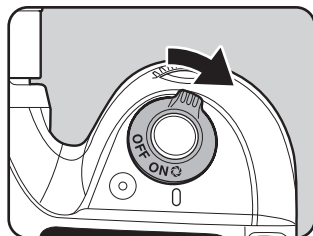
電源レバーをプレビュー位置（◎）に合わせたときに、デジタルプレビューを行うか光学プレビューを行うかを設定します。初期設定では光学プレビューを行います。
「**C**カスタム」メニューの「プレビュー方式」で設定します。（p.34）

C プレビュー方式
◂1 光学プレビュー
2 デジタルプレビュー
ファインダーで
被写界深度を確認します

プレビューを表示する

光学プレビューまたはデジタルプレビューを表示します。

光学プレビューを表示する

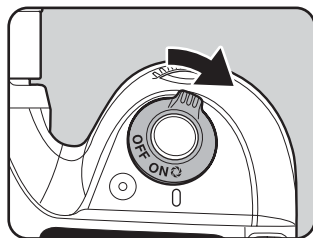
1　撮りたいものを AF フレームの中に入れてシャッターボタンを半押しする

2　ファインダーをのぞきながら、電源レバーを◎に合わせる

レバーを合わせている間、ファインダー内で被写界深度を確認できます。

- 電源レバーをプレビュー位置（◎）に合わせている間、ファインダー内の撮影情報の表示は消え、シャッターはきれなくなります。
- 被写界深度はすべての露出モードで確認できます。

デジタルプレビューを表示する

1 撮りたいものにピントを合わせてから、ファインダーで構図を決めて電源レバーを⦿に合わせる

液晶モニターにプレビュー中を示すアイコン（⦿）が表示され、構図、露出、ピントを確認できます。

シャッターボタンを半押しするとデジタルプレビューが終了し、カメラが合焦動作に入ります。デジタルプレビューで表示した画像は記録されません。

- デジタルプレビューで白とび黒つぶれ警告またはヒストグラムを表示することができます。「▶再生」メニューの「デジタルプレビュー」（p.198）で設定します。
- デジタルプレビューの表示時間は最長60秒です。
- デジタルプレビュー中に、後電子ダイヤルで拡大表示できます。（p.89）

内蔵ストロボを使いこなす

ストロボの光量を補正する

ストロボの光量を–2.0～＋1.0の範囲で変えることができます。設定ステップが、1/2 EVの場合と1/3 EVの場合とで、光量補正値は以下のようになります。

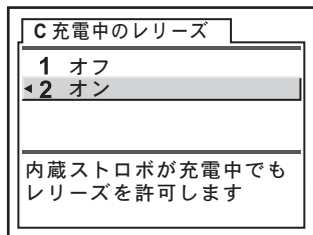
ステップ幅	ストロボ補正値
1/2 EV	–2.0、–1.5、–1.0、–0.5、0.0、+0.5、+1.0
1/3 EV	–2.0、–1.7、–1.3、–1.0、–0.7、–0.3、0.0、+0.3、+0.7、+1.0

※ ステップの幅は、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.162）

Fnメニュー（p.36）の「ストロボモード」画面で後電子ダイヤルを回して設定します。

- グリーンモードではストロボ光量補正は設定できません。
- ストロボ光量補正中は、表示パネルとファインダー内に が点灯します。（p.26）
- ＋側に補正しても、ストロボの最大発光量以上になると効果はありません。
- 被写体に近すぎる場合、絞り値が小さい場合、ISO感度を高く設定している場合などは、－側に補正をしても効果がないことがあります。
- このストロボ光量補正は、P-TTL対応の外付けストロボでも有効です。

ストロボ充電中に撮影できるようにする

内蔵ストロボが充電中でも撮影できるようにすることができます。
「C カスタム」メニューの「充電中のレリーズ」(p.34)で「オン」を選択します。初期設定では、ストロボ充電中は撮影できません。

露出モードによるストロボ撮影の特徴

Tv(シャッター優先)モードでストロボを使う

- 動きのあるものを撮影するときに、ぶれの効果を変えてストロボ撮影をすることができます。
- 1/180秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影をすることができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化します。
- DA・D FA・FA J・FA・F・Aレンズ以外のレンズを使用した場合は、シャッター速度は1/180秒固定になります。

Av(絞り優先)モードでストロボを使う

- ピントが合って見える範囲(被写界深度)を変えて撮影したいときや、より遠くのものを写したいときなどに、絞りを自由に変えてストロボ撮影をすることができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化します。
- シャッター速度は1/180秒から低速側はカメラぶれをしにくいシャッター速度(p.62)まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。
- DA・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用した場合は、シャッター速度は1/180秒固定になります。

低速シンクロを利用する

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに撮影できます。

- 低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれを防ぐため、手ぶれ補正機能を使用するか、手ぶれ補正機能をオフにして、カメラを三脚などに固定してください。また、撮影される側が動いても、写真はぶれてしまいますので、ご注意ください。
- 低速シンクロは、外付けストロボでも同様に行うことができます。

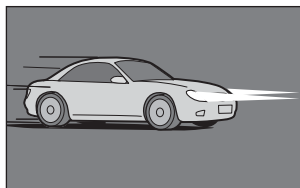
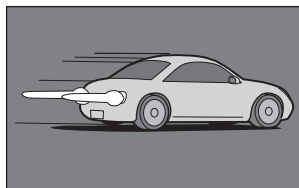
● P/Sv/Avモードを使う場合

1 モードダイヤルを**P**/**Sv**/**Av**に合わせる
2 **⚡UP**ボタンを押す
3 **Fn**ボタンを押し、十字キー（▼）を押す
4 SLOW⚡または SLOW◎⚡を選び、**OK**ボタンを2回押す
　背景も適正露出になるようにシャッター速度が遅く設定されます。
5 撮影する

● Tv/TAv/Mモードを使う場合

1 モードダイヤルを**Tv**/**TAv**/**M**に合わせる
2 **Fn**ボタンを押し、十字キー（▼）を押す
3 ⚡または⚡◎を選び、**OK**ボタンを2回押す
4 シャッター速度（**Tv**）またはシャッター速度と絞り値（**TAv**/**M**）を設定する
　1/180秒以下で適正露出になるように設定します。
5 **⚡UP**ボタンを押す
6 撮影する

後幕シンクロを利用する

後幕シンクロではシャッター幕が閉じる直前にストロボが発光します。動いている被写体などを低速で撮影する場合、ストロボの発光タイミングの違いにより、スローシンクロとは違う効果の写真になります。
例えば、後幕シンクロで走っている車を撮影すると、シャッターが開いている間にライトの光跡などが露光され、ストロボ発光によって最後に車の姿を露光します。そのため、光跡が流れるような写真を撮影できます。

スローシンクロ

後幕シンクロ

1 モードダイヤルを■、**X**以外に合わせる
2 **Fn**ボタンを押し、十字キー（▼）を押す
3 SLOW を選び、**OK**ボタンを2回押す
4 **UP**ボタンを押す
5 撮影する

後幕シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれ補正機能をオフにして、カメラを三脚などに固定してください。

内蔵ストロボ撮影時の距離と絞り

ストロボを使って撮影する場合、ストロボのガイドナンバーとカメラの絞り値、撮影の距離の間には、一定の条件が必要です。
計算してみて、光量が不足する場合、撮影条件を見直してください。

内蔵ストロボのガイドナンバー

ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー
ISO 100	11
ISO 200	15.6
ISO 400	22
ISO 800	31
ISO 1600	44

使用絞りから撮影距離を算出する方法

使用絞りが決まった場合、ストロボをどの距離まで使用できるかは、次の式で計算できます。

遠距離側の目安　　距離L1＝ ガイドナンバー÷使用絞り
近距離側の目安　　距離L2＝ 遠距離側目安÷5*

* 上記の「5」という数値は、このカメラの内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。

計算例

ISO感度が「ISO 100」の場合、絞り値F2.8で使用すると、
L1＝11÷2.8＝約3.9（m）
L2＝ 3.9÷5＝約0.8（m）
すなわち、約0.8mから3.9mの範囲でストロボが使えます。
ただし、このカメラの内蔵ストロボは、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出オーバーの原因となります。

撮影距離から使用絞りを算出する方法

撮影距離が決まっている場合は、次の式で絞り値を算出します。

使用絞り値 F＝ガイドナンバー÷撮影距離

例）ISO感度が「ISO 100」の場合、撮影距離5mで計算すると、

F＝11÷5＝2.2

上記のように計算で出た数字が「2.2」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方で近い値、この例では「2」に設定します。

DA・D FA・FA J・FA・Fレンズの内蔵ストロボ適合表

K10DでDA・D FA・FA J・FA・Fレンズをフードなしで使用する場合、内蔵ストロボとの適合条件は次に示すとおりです。
○：使用可
△：条件付きで使用可
×：ケラレが発生するので使用不可
いずれもフードなしでの評価です。

レンズ名	適　合
DAフィッシュアイ 10-17mm F3.5-4.5ED (IF)	×
Fフィッシュアイ 17-28mm F3.5-4.5	△ 焦点距離20mm未満ではケラレが発生することがあります。
DA12-24mm F4ED AL	×
DA16-45mm F4ED AL	△ 焦点距離が28mm未満のとき、および、焦点距離が28mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生することがあります。
FA J18-35mm F4-5.6AL	○
DA18-55mm F3.5-5.6AL	○
FA20-35mm F4AL	○
FA24-90mm F3.5-4.5AL (IF)	○
FA28-70mm F4AL	○
FA★28-70mm F2.8AL	△ 焦点距離が28mmで撮影距離が1m未満では、ケラレが発生することがあります。
FA J28-80mm F3.5-5.6	○
FA28-80mm F3.5-5.6	○
FA28-90mm F3.5-5.6	○
FA28-105mm F4-5.6	○
FA28-105mm F4-5.6 (IF)	○
FA28-105mm F3.2-4.5AL (IF)	○
FA28-200mm F3.8-5.6AL (IF)	○
FA35-80mm F4-5.6	○
DA50-200mm F4-5.6ED	○
FA70-200mm F4-5.6	○
FA J75-300mm F4.5-5.8AL	○
FA★80-200mm F2.8ED (IF)	○

レンズ名	適　合
FA80-320mm F4.5-5.6	○
FA80-200mm F4.7-5.6	○
FA100-300mm F4.7-5.8	○
FA★250-600mm F5.6ED (IF)	×
DA14mm F2.8ED (IF)	×
FA20mm F2.8	○
DA21mm F3.2AL Limited	○
FA★24mm F2AL (IF)	○
FA28mm F2.8AL	○
FA31mm F1.8AL Limited	○
FA35mm F2AL	○
DA40mm F2.8 Limited	○
FA43mm F1.9 Limited	○
FA50mm F1.4	○
FA50mm F1.7	○
DA70mm F2.4 Limited	○
FA77mm F1.8 Limited	○
FA★85mm F1.4 (IF)	○
FA135mm F2.8 (IF)	○
FA★200mm F2.8ED (IF)	○
FA★300mm F2.8ED (IF)	×
FA★300mm F4.5ED (IF)	○
FA★400mm F5.6ED (IF)	○
FA★600mm F4ED (IF)	×
D FAマクロ50mm F2.8	○
D FAマクロ100mm F2.8	○
FAマクロ50mm F2.8	○
FAマクロ100mm F2.8	○
FAマクロ100mm F3.5	○
FA★マクロ200mm F4ED (IF)	○
FAソフト28mm F2.8	△　内蔵ストロボは常にフル発光になります。
FAソフト85mm F2.8	△　内蔵ストロボは常にフル発光になります。

外付けストロボ（別売品）を使って撮影する

外付けストロボAF540FGZやAF360FGZ（別売品）を使用すると、P-TTLオートストロボ撮影、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影などの多彩なストロボ撮影を行うことができます。下表を参考にしてご使用ください。
（○：使用可能　△：条件付使用可能　×：使用不可能）

カメラの機能 ＼ ストロボ	内蔵ストロボ	AF540FGZ AF360FGZ
赤目軽減機能が使用できる	○	○
ストロボ自動発光ができる	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる	○	○
P（ハイパープログラム）モード、**Tv**（シャッター優先）モードで絞りが自動セットされる	○	○
ファインダー内でオートチェックできる	×	×
P-TTLオートストロボ撮影ができる（連動感度：ISO 100～1600）	○*1	○*1
低速シンクロ撮影ができる	○	○
ストロボ光量補正ができる	○	○
AF補助光が使用できる	○	○
後幕シンクロ撮影ができる*2	○	○
光量比制御モードで撮影ができる	△*3	○
スレーブ機能が働く	×	○
マルチストロボが働く	×	×
ハイスピードシンクロで撮影ができる	×	○
ワイヤレスで撮影ができる*4	×	○

*1 DA・D FA・FA J・FA・F・Aレンズを使用した場合のみ可能。
*2 シャッター速度は、1/90秒以下に限定。
*3 AF540FGZまたはAF360FGZと組み合わせたとき、内蔵ストロボ1/3、外付けストロボ2/3の光量配分で可能。
*4 AF540FGZまたはAF360FGZが2台以上必要。

AF360FGZのLCDパネル表示について

AF360FGZの場合、FORMATサイズを「DIGITAL」に設定する機能はありませんが、使用レンズの焦点距離による35ミリ判とK10Dとの画角差を自動で換算します。（DA・D FA・FA J・FA・Fレンズ使用時）
換算表示はK10Dの測光タイマーがオンの間のみ行われ、FORMATサイズ表示は消灯となります。（測光タイマーがオフになると、35ミリ判表示に戻ります）

使用レンズの焦点距離		85mm	77mm	50mm	35mm	28mm	24mm	20mm	18mm
AF360FGZ LCDパネル	測光タイマーオフ	85mm		70mm	50mm	35mm		28mm	24mm※
	測光タイマーオン	58mm		48mm	34mm	24mm		19mm	16mm※

※ワイドパネル使用

P-TTLオートで使う

AF540FGZまたはAF360FGZと組み合わせた場合、発光モードを「P-TTLオート」に設定すると、撮影直前にストロボをプリ発光させ、16分割で測光するため、より正確な制御が可能です。AF540FGZまたはAF360FGZを2台以上使用すれば、ワイヤレスでもP-TTLオートが可能です。

1 カメラのホットシューに付いているカバーを取り外し、外付けストロボ（AF540FGZまたはAF360FGZ）を取り付ける
2 カメラと外付けストロボの電源を入れる
3 外付けストロボの発光モードをP-TTLオートに設定する
4 外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する

- P-TTLオートはAF540FGZまたはAF360FGZとの組み合わせでのみ有効です。
- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の⚡も点灯します。
- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの説明書をご覧ください。
- ストロボモードが⚡Aおよび⚡◎の場合は、撮りたいものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。
- 外付けストロボを取り付けた状態で、ストロボボタンを押さないでください。内蔵ストロボが外付けストロボに接触します。内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用する場合は、p.183の方法で接続してください。

ハイスピードシンクロモードで使う

AF540FGZ・AF360FGZを使用すると、1/180秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影することができます。ハイスピードシンクロは、ストロボをカメラに取り付けても、ワイヤレスでも使用できます。

AF540FGZまたはAF360FGZをカメラに取り付けて撮影する場合

1 カメラのホットシューに付いているカバーを取り外し、外付けストロボ（AF540FGZまたはAF360FGZ）を取り付ける
2 カメラのモードダイヤルを回して、露出モードを**Tv**または**M**モードに設定する
3 カメラと外付けストロボの電源を入れる
4 外付けストロボのシンクロモードをHS⚡（ハイスピードシンクロ）に設定する
5 外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する

- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の⚡も点灯します。
- シャッター速度が 1/180 秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。
- 露出モードが**B**（バルブ）の場合、ハイスピードシンクロはできません。

ワイヤレスモードで使う

AF540FGZまたはAF360FGZの2台を使用することで、カメラとストロボをコードで接続しないでストロボ撮影することができます。ハイスピードシンクロの機能は、ワイヤレスでも使用できます。

2台のAF540FGZまたはAF360FGZは、必ず同じチャンネルに合わせてください。詳しくは、AF540FGZまたはAF360FGZの説明書をご覧ください。

● **ワイヤレスモードで使用する**

1 外付けストロボ（AF540FGZまたはAF360FGZ）を発光させたい位置に固定する
2 1で固定した外付けストロボの電源スイッチを「WIRELESS」に合わせる
3 1で固定した外付けストロボのワイヤレスモードをS（スレーブ）に設定する
4 カメラの電源をオンにして、モードダイヤルを回し、露出モードを■、**P**、**Sv**、**Tv**、**Av**、**TAv**または**M**モードに設定する
5 カメラ側の外付けストロボの電源スイッチを「WIRELESS」に合わせる
6 カメラ側の外付けストロボのワイヤレスモードを**M**（マスター）または**C**（コントロール）に設定する

- カメラの内蔵ストロボではワイヤレスモードは使用できません。
- 外付けストロボのワイヤレススレーブモードは SLAVE1 に設定してください。
- ワイヤレスモード時は、手ぶれ補正機能ははたらきません。

ワイヤレスストロボ制御について（P-TTL撮影）

外付けストロボ（AF540FGZまたはAF360FGZ）をワイヤレスで使用するときには、ストロボが発光されるまでに2台の外付けストロボ間で以下のような情報伝達が行なわれています。

シャッターボタンを全押しする

1 カメラ側のストロボが小光量発光（カメラ側の発光モードを伝達）
2 外付けストロボが小光量発光（被写体の状態を確認）
3 カメラ側のストロボが小光量発光（発光量を外付けストロボに伝達）
※ HS⚡（ハイスピードシンクロ）が設定されている場合は、発光時間を伝達するためにこの後カメラ側のストロボがもう一度小発光します。
4 外付けストロボが本発光

外付けストロボのワイヤレススレーブモードはSLAVE1に設定してください。

赤目軽減機能について

内蔵ストロボ同様、外付けストロボでも赤目軽減機能がお使いいただけます。ストロボの種類によってご使用いただけない場合や使用条件がありますので、p.179の一覧表をご覧ください。

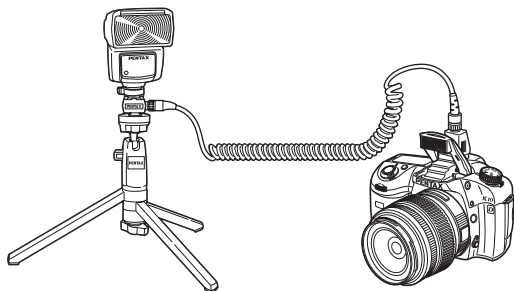
- 外付けストロボのみを使用しているときも、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が働きます。（p.74）
- 内蔵ストロボの赤目軽減機能と外付けストロボのスレーブ機能やワイヤレス機能を組み合わせると、1度目の小発光で外付けストロボが発光してしまいます。スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。

後幕シンクロについて

内蔵ストロボと外付けストロボ（AF540FGZまたはAF360FGZ）を組み合わせて同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターをきってください。

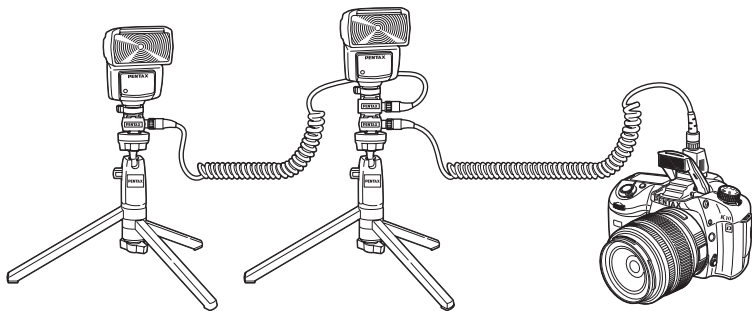
内蔵ストロボと外付けストロボの同時使用方法

下の図のようにカメラのホットシュー部分にホットシューアダプター F_G（別売品）を、外付けストロボの下にオフカメラシューアダプター F（別売品）を付け、延長コードF5P（別売品）で接続します。オフカメラシューアダプター Fの下には三脚取り付け用のねじがありますので、三脚に固定することができます。
なお、内蔵ストロボと組み合わせて使用できるのは、P-TTLオート対応ストロボのみです。

内蔵ストロボと組み合わせて使用する場合

ストロボの多灯撮影

外付けストロボ（AF540FGZまたはAF360FGZ）を複数台組み合わせるか、外付けストロボ複数台と内蔵ストロボを組み合わせて、使用できます。AF540FGZをつなぐ場合は、ストロボ本体の延長コード接続用端子が使用できます。AF360FGZをつなぐ場合は下の図のように、外付けストロボとホットシューアダプターF（別売品）にオフカメラシューアダプターF（別売品）を付け、もう一方の外付けストロボに付けたオフカメラシューアダプターFと、延長コードF5P（別売品）で接続します。
接続方法については、ストロボの説明書もご覧ください。

- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。AF540FGZまたはAF360FGZの使用をお勧めします。

2台以上の外付けストロボを組み合わせて使用する場合

AF540FGZ・AF360FGZを複数台、またはAF540FGZ・AF360FGZと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

光量比制御シンクロ撮影

外付けストロボ（AF540FGZまたはAF360FGZ）を複数台組み合わせるか、外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせることで、複数のストロボの光量の違いを利用した増灯撮影（光量比制御シンクロ撮影）をすることができます。

- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス製オートストロボの使用をお勧めします。

1 外付けストロボをカメラから離して接続する。（p.183）
2 外付けストロボのシンクロモードを光量比制御モードに設定する。
3 カメラのモードダイヤルを回して、露出モードを**P**、**Tv**、**Av**または**M**モードに設定する。
4 外付けストロボと内蔵ストロボのストロボの充電完了を確認してから撮影する。

- 光量の比率は、外付けストロボ同士の場合、光量比制御に設定しているストロボが2に対して、それ以外のストロボが1、外付けストロボと内蔵ストロボの場合は、外付けストロボが2に対して内蔵ストロボが1になります。
- 外付けストロボを複数台、または外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。
- 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限は1/180秒になります。

再生時の条件を設定する

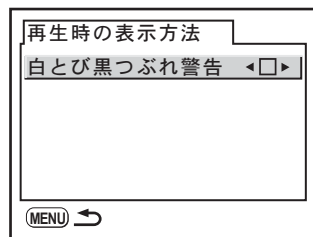
再生時の表示方法を切り替える

再生画面で**INFO**ボタンを押すと、表示情報が切り替わります。

標準	撮影画像と操作ガイドを表示します。
ヒストグラム	画像とヒストグラム（輝度／RGB）を表示します。
詳細情報	画像を左上に小さく表示し、残りの部分に撮影情報を表示します。
情報表示なし	撮影画像のみを表示します。

- それぞれの表示情報の詳細は、p.24をご覧ください。
- 再生時に最初に表示される情報は前回最後の表示画面です。「撮影」メニューの「モードメモリ」（p.199）で常に標準から表示させることもできます。

1 「▶再生」メニューの「再生時の表示方法」を選ぶ

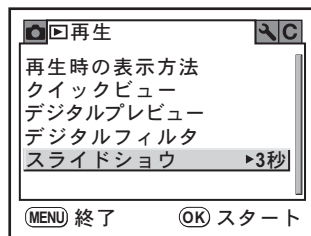
2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

4 MENUボタンを2回押す

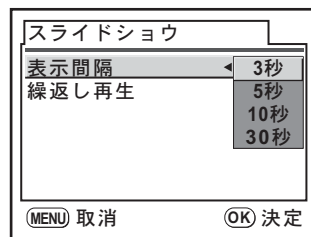
撮影できる状態になります。

スライドショウの表示間隔を設定する

スライドショウでは、SDメモリーカードに保存された画像を連続して再生します。（p.92）
画像の表示間隔を「3秒」「5秒」「10秒」「30秒」の4種類から選択できます。初期設定は、「3秒」です。
繰り返し再生をするか否かを設定できます。初期設定は「オフ」です。

1 **「▶再生」メニューの「スライドショウ」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で画像の表示間隔を選ぶ**

OKボタンを押します。

4 **十字キー（▼）で「繰返し再生」を選ぶ**

5 **十字キー（◀▶）で、☑（オン）／□（オフ）を切り替える**

6 **MENUボタンを押す**

「▶再生」メニューに戻ります。
OKボタンを押すとスライドショウが始まります。

カメラの設定をする

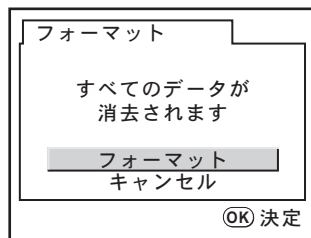
SDメモリーカードをフォーマットする

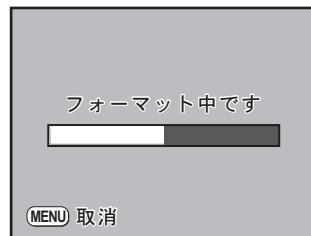
未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットすると、SDメモリーカードに保存されているすべてのデータが消去されます。

注意
- SDメモリーカードのフォーマット中は、絶対にカードカバーを開けないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行なうと、プロテクトされた画像も消去されます。ご注意ください。

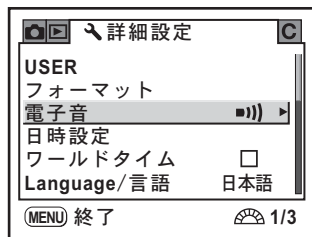
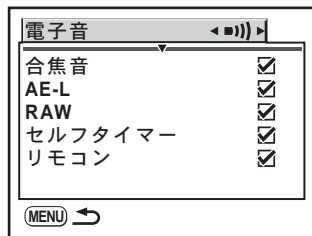
1 「詳細設定」メニューの「フォーマット」(p.32)を選ぶ

2 十字キー（▶）で、フォーマット画面を表示させる

3 十字キー（▲）で、「フォーマット」を選ぶ

4 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。フォーマットが終わると液晶画面の表示が消え、撮影できる状態になります。

電子音をオン／オフする

カメラ操作時の電子音のオン／オフを設定できます。初期設定は、すべて☑（オン）です。
設定できる項目はAF合焦音／AEロック／RAWボタン操作／セルフタイマー／リモコンの5種類です。

1 **「🔧詳細設定」の「電子音」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

3 **項目を選んで、十字キー（◀▶）でON／OFFを切り替える**

電子音を選んで十字キー（▶）を押すと、すべての項目で電子音を鳴らさない設定にできます。

日時とその表示スタイルを変更する

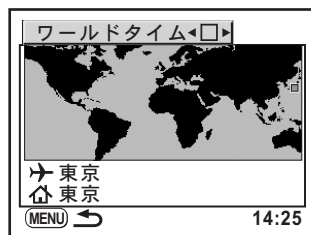
初期設定で設定した日付と時刻を変更します。また、日付と時刻の表示形式を設定します。日付の表示形式は、「年/月/日」「月/日/年」「日/月/年」から選べます。時刻の表示形式は、「12h（12時間制）」「24h（24時間制）」から選べます。
「🔧詳細設定」メニューの「日時設定」で設定します。（p.32）
☞日時を設定する （p.56）

ワールドタイムを設定する

「初期設定をする」（p.53）で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。
「ワールドタイム」を設定しておくと、海外で使用する際、液晶モニターに、目的地の都市の日時を表示できます。

1 「詳細設定」メニューの「ワールドタイム」（p.32）を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ワールドタイム設定画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑	✈（目的地）で設定した都市の時刻を適用
□	⌂（現在地）で設定した都市の時刻を適用

4 十字キー（▼）を押す

選択枠が✈に移動します。

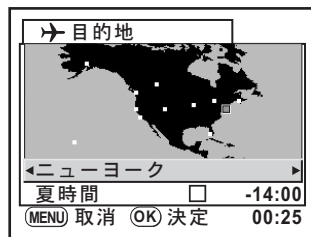
5 十字キー（▶）を押す

目的地設定の拡大画面が表示されます。
十字キー（◀▶）を押すと、拡大表示する地域が切り替わります。

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が都市に移動します。

7 十字キー（◀▶）で、目的地都市名を選ぶ

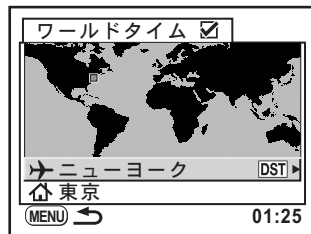
選択した都市の現在時刻、位置、時差が表示されます。

8 十字キー（▼）で「夏時間」を選ぶ

9 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

行き先が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

10 OK ボタンを押す

ワールドタイムの設定が保存されます。

設定を続ける場合は、**OK** ボタンを押してワールドタイム設定画面に戻ります。

11 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

- 目的地として指定できる都市については、「都市名一覧」（p.193）をご覧ください。
- 手順4で⌂を選択すると現在地の都市や夏時間を設定できます。
- ワールドタイムが☑（オン）になっていると、ガイド表示画面に✈が表示されます。（p.22）

都市名一覧

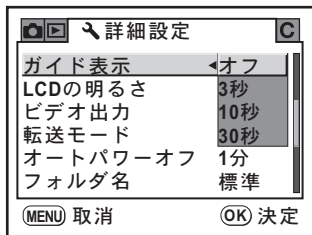
地域	都市名
北米	ホノルル
	アンカレジ
	バンクーバー
	サンフランシスコ
	ロサンゼルス
	カルガリー
	デンバー
	シカゴ
	マイアミ
	トロント
	ニューヨーク
	ハリファックス
中南米	メキシコシティ
	リマ
	サンティアゴ
	カラカス
	ブエノスアイレス
	サンパウロ
	リオデジャネイロ
ヨーロッパ	リスボン
	マドリード
	ロンドン
	パリ
	アムステルダム
	ミラノ
	ローマ
	ベルリン
	ストックホルム
	アテネ
	ヘルシンキ
	モスクワ
アフリカ・西アジア	ダカール
	アルジェ
	ヨハネスブルグ
	イスタンブール
	カイロ

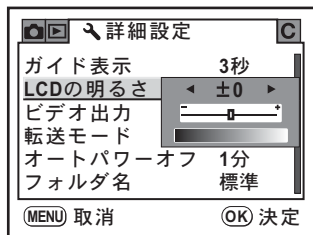
地域	都市名
アフリカ・西アジア	エルサレム
	ナイロビ
	ジッダ
	テヘラン
	ドバイ
	カラチ
	カブール
	マーレ
	デリー
	コロンボ
	カトマンズ
	ダッカ
東アジア	ヤンゴン
	バンコク
	クアラルンプール
	ビエンチャン
	シンガポール
	プノンペン
	ホーチミン
	ジャカルタ
	香港
	北京
	上海
	マニラ
	台北
	ソウル
	東京
	グアム
オセアニア	パース
	アデレード
	シドニー
	ヌーメア
	ウェリントン
	オークランド
	パゴパゴ

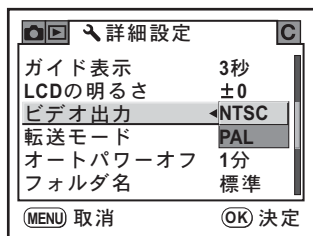
表示言語を設定する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
「🔧詳細設定」メニューの「Language/言語」で設定します。（p.32）
英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／スウェーデン語／オランダ語／ロシア語／韓国語／中国語（繁体字／簡体字）／日本語の12言語に対応しています。
☞言語を設定する （p.53）

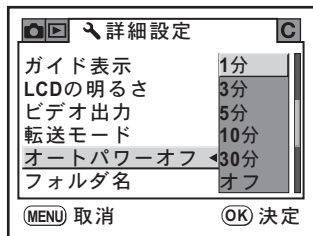
ガイド表示時間を設定する

メインスイッチをオンにしたときや、露出モードを変更したときに、液晶モニターにガイドを表示する時間を設定します。（p.22）
オフ／3秒／10秒／30秒から選択します。初期設定は3秒です。
「🔧詳細設定」メニューの「ガイド表示」で設定します。（p.32）

液晶モニターの明るさを設定する

液晶モニターの明るさを設定できます。屋外などで液晶モニターの表示が見えにくいときなどに設定してください。
「🔧詳細設定」メニューの「LCDの明るさ」で設定します。（p.32）

ビデオ出力方式を選択する

テレビなどのAV機器をモニタにして再生するときの出力形式を、NTSC方式とPAL方式から選択します。
「🔧詳細設定」メニューの「ビデオ出力」で設定します。（p.32）
☞AV機器と接続する （p.94）

ビデオ出力方式は地域によって異なります。日本国内では、NTSC方式です。

オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源がオフになるように設定できます。電源がオフになるまでの時間は、「1分」「3分」「5分」「10分」「30分」「オフ」から選択できます。初期設定は、「1分」です。
「🔧詳細設定」メニューの「オートパワーオフ」で設定します。(p.32)

スライドショウで再生しているとき、USB接続しているとき、リモコン撮影時およびメニュー、Fnメニュー表示中はオートパワーオフは働きません。

フォルダ名の付け方を選択する

画像が保存されるフォルダ名の付け方について設定します。初期設定は「標準」です。

標準	「xxxPENTX」の形式でフォルダ名が付けられます。「xxx」は100から999までの連番です。 (例) 101PENTX
日付	「xxx_MMDD」の形式で、画像を撮影した「月」と「日」が2桁表示でフォルダ名に付けられます。 (例) 101_0125：1月25日に撮影した画像が保存されるフォルダ

「🔧詳細設定」メニューの「フォルダ名」で設定します。(p.32)

クイックビューとデジタルプレビューの表示を設定する

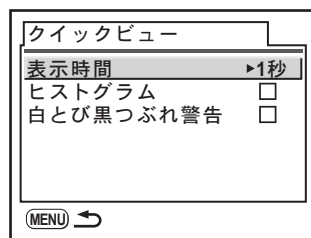
クイックビューとデジタルプレビューに関する設定を行います。

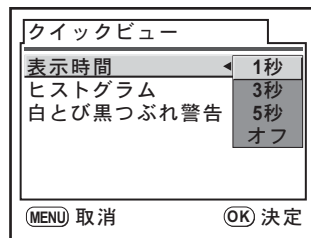
クイックビューを設定する

クイックビューの表示時間およびヒストグラムと白とび黒つぶれ警告を表示するか否かを設定できます。初期設定では表示時間1秒、ヒストグラムと白とび黒つぶれ警告は表示されません。

1 「▶再生」メニューの「クイックビュー」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

クイックビュー設定画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で、クイックビューの表示時間を「1秒」「3秒」「5秒」「オフ」から選ぶ

OK ボタンを押します。

4 十字キー（▼）で「ヒストグラム」を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で「ヒストグラム」の☑（オン）／□（オフ）を切り替える

6 十字キー（▼）で「白とび黒つぶれ警告」を選ぶ

7 **十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える**

8 **MENUボタンを2回押す**

撮影できる状態になります。

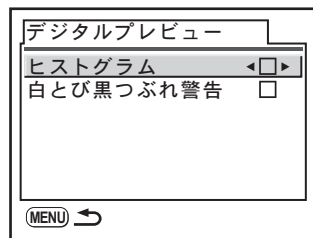
デジタルプレビューを設定する

デジタルプレビューのヒストグラムと白とび黒つぶれ警告を表示するか否かを設定できます。初期設定ではヒストグラムと白とび黒つぶれ警告は表示されません。

1 **「▶再生」メニューの「デジタルプレビュー」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

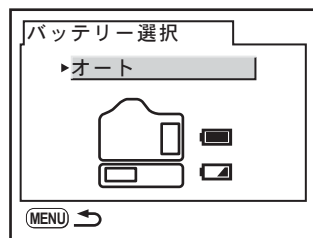
デジタルプレビュー設定画面が表示されます。

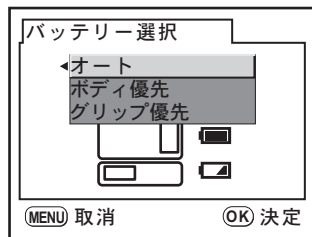
以下の操作はクイックビュー設定の手順4以降と同様です。

バッテリーを選択する

バッテリーグリップ（p.214）装着時に本体とバッテリーグリップどちらを優先させるか設定できます。初期設定は「オート」です。

1 **「🔧詳細設定」の「バッテリー選択」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

バッテリー選択画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

「オート」「ボディ優先」「グリップ優先」から十字キー（▲▼）で項目を選びます。

4 OKボタンを押す

5 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

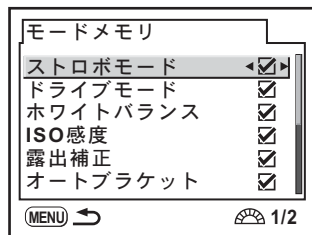
ボディとグリップの両方に電池を入れたときは、残量チェックのため、優先に指定していない方の電池もわずかに消費されます。

カメラに保存する撮影モードの設定を選択する

カメラの電源をオフにしたときに、どの設定を記憶させるかを選択します。
設定できる内容は、ストロボモード／ドライブモード／ホワイトバランス／ISO感度／露出補正／オートブラケット／再生情報表示／ファイルNo.です。初期設定は全てオンです。

1 「撮影」メニューの「モードメモリ」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

モードメモリ画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

4 十字キー（◀▶）で、☑（オン）／□（オフ）を切り替える

5 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

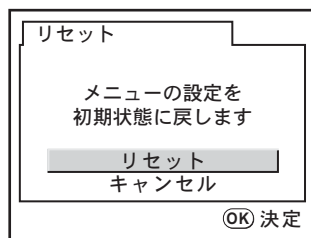
- 「ファイルNo.」を☑（オン）にすると、最後に撮影した画像のファイルNo.が記憶され、新しいSDカードを入れても続きのファイルNo.になります。
- 「ファイルNo.」を□（オフ）にすると、新しいSDカードを入れるたびに画像のファイルNo.が一番小さな番号に戻ります。画像が記録されたSDカードを入れたときは、続きの番号で保存されます。
- 撮影可能枚数が500枚を超える場合、撮影画像は500枚毎にフォルダが分かれて保存されます。ただし、オートブラケットは、500枚を超えても撮影が終了するまで同じフォルダに保存されます。

設定をリセットする

撮影／再生／詳細設定メニューのリセット

「撮影」メニュー、「再生」メニュー、「詳細設定」メニューの設定内容を初期状態に戻します。
ただし、日時設定､言語、ビデオ出力、ワールドタイムは、リセットされません。

1 **「詳細設定」メニューの「リセット」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）で、リセット画面を表示させる**

3 **十字キー（▲）で､「リセット」を選ぶ**

4 **OK ボタンを押す**

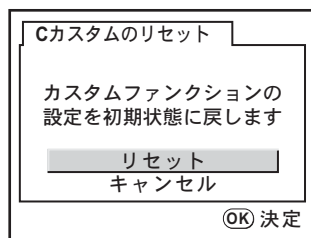
撮影または再生できる状態になります。

カスタムファンクションメニューのリセット

「Cカスタム」メニューの設定内容をすべて初期状態に戻します。
「撮影」メニュー、「再生」メニュー、「詳細設定」メニューの内容はリセットされません。

1 「Cカスタム」メニューの「リセット」を選ぶ

2 十字キー（▶）で、リセット画面を表示させる

3 十字キー（▲）で、「リセット」を選ぶ

4 OKボタンを押す

撮影または再生できる状態になります。

5 付録

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
表示内容の意味は、以下のとおりです。
カメラの電源をオフにしても現在の設定（ラストメモリー）は保存されます。

リセット設定
する　：リセット（p.201）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される

「撮影」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
露出モード※		P（ハイパープログラム）	する	p.168
JPEG記録サイズ		10M（3872×2592）	する	p.118
JPEG画質		★★★（S.ファイン）	する	p.119
画像仕上		（ナチュラル）	する	p.120
彩度		（0）	する	p.121
シャープネス		（0）	する	p.121
コントラスト		（0）	する	p.121
記録形式		JPEG	する	p.122
RAWファイル形式		PEF	する	p.122
拡張ブラケット	種類	オフ	する	p.165
	ホワイトバランス	BA±1	する	
	彩度／シャープネス／コントラスト	±1	する	
多重露出	撮影回数	オフ	する	p.166
	自動露出調整	□（オフ）	する	
モードメモリ		全て☑（オン）	する	p.199
手ぶれ補正		35（レンズ焦点距離）	する	p.69

※モードダイヤルをUSER（USER）に合わせたときのみ表示されます。

「再生」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
再生時の表示方法	白とび黒つぶれ警告表示	□（オフ）	する	p.186

項目		初期設定	リセット設定	参照
クイックビュー	表示時間	1秒	する	p.197
	ヒストグラム	□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告	□（オフ）	する	
デジタルプレビュー	ヒストグラム	□（オフ）	する	p.198
	白とび黒つぶれ警告	□（オフ）	する	
デジタルフィルタ※		白黒	する	p.95
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	p.187
	繰返し再生	OFF	する	

※スリムフィルタのスリム度、ソフトフィルタのソフト度、明るさフィルタの明るさ度、カラーフィルタの色の設定が保存／リセット可能です。

「詳細設定」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
USER		—	する※	p.167
フォーマット		—	—	p.188
電子音		全て☑（オン）	する	p.189
日時設定		初期設定による	しない	p.190
ワールドタイム	ワールドタイム設定	□（オフ）	する	p.191
	現在地（都市）	初期設定による	しない	
	現在地（夏時間）	初期設定による	しない	
	目的地（都市）	現在地と同じ	しない	
	目的地（夏時間）	現在地と同じ	しない	
Language/言語		初期設定による	しない	p.194
ガイド表示		3秒	する	p.194
LCDの明るさ		0	する	p.195
ビデオ出力		NTSC	しない	p.195
転送モード		PC	する	p.110
オートパワーオフ		1分	する	p.196
フォルダ名		標準	する	p.196
バッテリー選択		オート	する	p.198
ダストリムーバル	ダストリムーバル	—	—	p.211
	起動時の動作	□（オフ）	する	
CCDクリーニング		—	—	p.211

項目	初期設定	リセット設定	参照
リセット	—	—	p.201

※モードダイヤルをUSER（USER）に合わせたときのリセットでのみ初期化されます。

「Cカスタム」メニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
設定	□（オフ）	する	p.33
プログラムライン	Normal	する	—
露出設定ステップ	1/2 EVステップ	する	p.162
ISO感度ステップ	1 EVステップ	する	p.140
ISO感度警告表示	オフ	する	p.141
測光作動時間	10秒	する	p.143
AFロック時のAE-L	オフ	する	p.135
測距点と露出の関連付	オフ	する	p.143
ブラケット撮影順	0 - +	する	p.163
連動外の自動補正	オフ	する	—
ストロボ発光時のWB	変更しない	する	—
AWB時の微調整	禁止	する	p.124
AFボタンの機能	AF作動	する	—
シャッター半押しのAF	オン	する	—
スーパーインポーズ	オン	する	p.132
リモコン時のAF	オフ	する	p.34
ノイズリダクション	オン	する	p.159
色空間	sRGB	する	p.129
色温度ステップ	ケルビン	する	p.127
P時の電子ダイヤル	前：Tv　後：Av	する	—
Sv時の電子ダイヤル	前：—　後：ISO	する	—
Tv時の電子ダイヤル	前：Tv　後：—	する	—
Av時の電子ダイヤル	前：—　後：Av	する	—
M時のグリーンボタン	プログラムライン	する	p.158
ワンタッチRAW+	1回	する	p.122
表示パネルの照明	オン	する	p.28

項目	初期設定	リセット設定	参照
充電中のレリーズ	オフ	する	p.173
プレビュー方式	光学プレビュー	する	p.169
撮影可能枚数表示	撮影可能枚数	する	p.34
拡大再生の開始倍率	1.2倍	する	p.34
画像の自動回転	オン	する	—
回転情報の記録	オン	する	—
絞りリングの使用	禁止	する	p.210
カスタムのリセット※	—	—	p.202

※「**C** カスタム」メニューの設定リセットを行います。

Fnメニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
ドライブモード	□（1コマ撮影）	する	p.75、p.77、p.81
ストロボモード	ϟ（強制発光）*1	する	p.71
ホワイトバランス	**AWB**（オート）	する	p.123
ISO感度	AUTO	する	p.140
DPOF設定	—	しない	p.106
デジタルフィルタ*2	白黒	する	p.95
スライドショウ	3秒	する	p.92
RAW展開	記録サイズ：10M 画質：★★★ 増減感：±0	する	p.98

*1 グリーンモード時は自動発光になります。
*2 スリムフィルタのスリム度、ソフトフィルタのソフト度、明るさフィルタの明るさ度、カラーフィルタの色の設定が保存／リセット可能です。

各種レンズを組み合わせたときの機能

各種レンズの使用について

このカメラで使用できるレンズは、DAおよびFA Jレンズまたは絞りリングに**A**位置のあるD FA・FA・F・Aレンズのみです。これ以外のレンズあるいは、D FA・FA・F・Aレンズで絞りを**A**位置から外した場合は、「絞りリングの使用」設定時の注意（p.210）をご覧ください。

機能 ＼ レンズ［マウント名］	DA・D FA・FA J・FAレンズ［KAF、KAF2］*3	Fレンズ［KAF］*3	Aレンズ［KA］
オートフォーカス（レンズ単体使用）	○	○	–
（AFアダプター 1.7× 使用）*1	–	–	○*5
マニュアルフォーカス（フォーカスインジケーター表示の利用）*2	○	○	○
（マット面の利用）	○	○	○
11点測距	○	○	×*5
パワーズーム	○*6	–	–
絞り優先自動露出	○	○	○
シャッター優先自動露出	○	○	○
マニュアル露出	○	○	○
P-TTLオートストロボ *4	○	○	○
分割測光（16分割）	○	○	○
手ぶれ補正機能使用時のレンズ焦点距離の自動取得	○	○	×

○：絞りが**A**位置であれば、その他は制限なく使用可能
×：使用不可能

*1 レンズの開放F値がF2.8、およびそれより明るいレンズのみ。**A**位置でのみ使用可。
*2 レンズの開放F値がF5.6、およびそれより明るいレンズのみ使用可。
*3 F・FAソフト85mmF2.8、およびFAソフト28mmF2.8では「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」（p.33）で「許可」を設定した上で手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。
*4 内蔵ストロボおよびAF540FGZまたはAF360FGZ使用時。
*5 測距点は▪（中央）となります。
*6 KAF2マウントのFAレンズのみ使用可。

レンズ名称とマウント名称について
FAの単焦点レンズ（ズームでないレンズ）とDA・D FA・FA J ・FレンズのマウントはすべてK_{AF}マウントです。FAズームレンズのうち、パワーズームが可能なレンズはK_{AF2}マウント、パワーズームのできないレンズはK_{AF}マウントです。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

使用できないレンズ・アクセサリーについて
絞り**A**（オート）ポジションのあるレンズを絞り**A**（オート）以外で使用したり、**A**（オート）ポジションのないレンズやオート接写リング、オートベローズなどのアクセサリーを取り付けた場合、「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」（p.35）で「許可」を設定しないかぎり、カメラは作動しません。「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」で「許可」を設定した場合は機能制限がありますので、「絞りリングの使用」設定時の注意 （p.210）をご覧ください。
DA・FA Jレンズまたは絞り**A**（オート）のポジションのあるレンズを絞り**A**（オート）で使用すると、カメラの露出モードをすべて利用できます。

使用レンズと内蔵ストロボについて
Aレンズ以前のレンズおよびソフトレンズを使用した場合、内蔵ストロボは光量制御ができずに、常にフル発光となります。
オートストロボとしては使用できませんので、ご注意ください。

「絞りリングの使用」設定時の注意

「絞りリングの使用」設定時の注意

「**C** カスタム」メニューの「絞りリングの使用」（p.35）で「許可」を選択すると、D FA・FA・F・Aレンズの絞りを **A** ポジション以外にしたり、**A** ポジションのないレンズを取り付けても、シャッターがきれるようになります。ただし、下表のような制約を受けますので、ご使用の際はご注意ください。

> メモ　絞りを **A** 以外にセットした場合、モードダイヤルが ■、**P**、**Sv**、**Tv**、**TAv** になっていても、**Av**（絞り優先）モードで作動します。

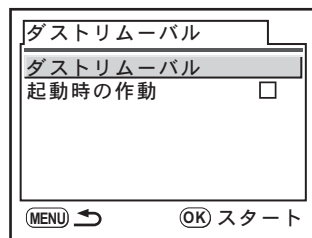
使用レンズ	露出モード	制約内容
D FA・FA・F・A・M（レンズ単体、オート接写リングKなどの自動絞り機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**（絞り優先）モード	絞りリングを操作しても、絞りは開放のままで絞られません。レンズの開放絞りに連動してシャッター速度は変化しますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。
D FA・FA・F・A・M・S（接写リングKなどの絞り込み機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**（絞り優先）モード	設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。
レフレックスレンズなどの手動絞りのレンズ（レンズ単体）	**Av**（絞り優先）モード	
FA・Fソフト85mm　FAソフト28mm（レンズ単体）	**Av**（絞り優先）モード	手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。なお、被写界深度確認操作（光学プレビュー）を行うと測光スイッチが入り、露出の確認ができます。
すべてのレンズ	**M**（ハイパーマニュアル）モード	設定した絞り値とシャッター速度で撮影されます。ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。なお、被写界深度確認操作（光学プレビュー）を行うと測光スイッチが入り、露出の確認ができます。

CCDのクリーニングについて

CCDに汚れやほこりが付着していると、背景が白いものなど撮影の条件によっては画像に影が写り込むことがあります。そのような場合には、CCDのクリーニングが必要になります。

CCDを振動させてほこりを落とす

ダストリムーバル機能でCCDを振動させて付着したゴミを落とします。

1 **「🔧 詳細設定」メニューで「ダストリムーバル」を選び、十字キー（▶）を押す**

2 **OK ボタンを押す**

CCDが駆動し、ダストリムーバル機能が作動します。

電源をONにする度にダストリムーバルを作動させたい場合は､「起動時の作動」を選び、十字キー（◀▶）で☑（オン）にします。

ブロアーでほこりを落とす

ブロアーでクリーニングするためにミラーアップし、シャッターを開けます。CCDは精密部品ですので、できるだけ当社の修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。有料にて清掃を請け賜っております。
クリーニングには、イメージセンサー・クリーニングキットO-ICK1（別売）もご使用いただけます。

- スプレー式のブロアーは使用しないでください。
- 露出モードの**B**（バルブ）を使ってのCCDクリーニングは行わないでください。
- カメラにレンズを装着しないときは必ずレンズマウント部にキャップを取り付け、CCDに汚れやほこりが付着しないようにしてください。
- 電池容量が少ない場合、「電池容量がたりないためクリーニングをおこなえません」と液晶モニターに表示されます。
- AC アダプター D-AC50 を使用しない場合は、容量が十分に残っているバッテリーを使用してください。クリーニングの途中で電池容量が少なくなると液晶モニターにメッセージが表示され、警告音が鳴りますので、すみやかにクリーニング作業を中止してください。
- クリーニングをするときは、ブロアーの先端をレンズマウント面より中に入れないでください。万一電源が切れた場合、シャッター機構部やCCDセンサー部、ミラー部を破損する恐れがあります。

- クリーニングをするときは、AC アダプター D-AC50（別売）のご使用をお勧めします。
- CCDクリーニング中はセルフタイマーランプが点滅し、表示パネルに「Cln」と表示されます。
- このカメラは手ぶれ補正機能に対応したCCDを使用していますので、CCDクリーニング中にCCDの作動音がしますが、故障ではありません。

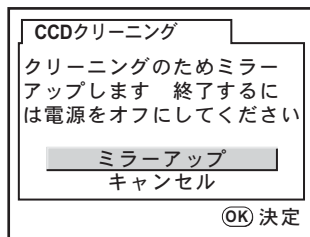
1 カメラの電源をオフにして、レンズを取り外す

2 カメラの電源をオンにする

3 「詳細設定」メニューの「CCDクリーニング」を選ぶ

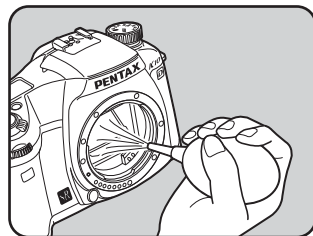
4 十字キー（▶）を押す

CCDクリーニング画面が表示されます。

5 十字キー（▲）で「ミラーアップ」を選ぶ

6 OKボタンを押す

ミラーがアップした状態に固定されます。

7 CCDをクリーニングする

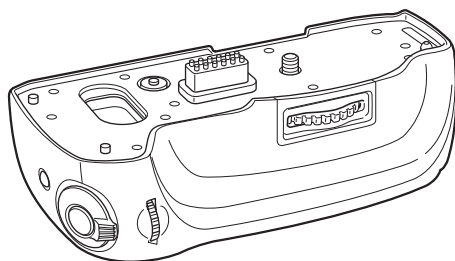
CCDに付着している汚れやほこりは、ブラシが付いていないブロアーで落としてください。ブラシ付きのブロアーを使用すると、CCDがブラシで傷つくことがあります。また、絶対にCCDを布で拭かないでください。

8 カメラの電源をオフにする

9 ミラーが元に戻ったことを確認後、レンズを取り付ける

別売アクセサリー

このカメラには、次のような各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にお問い合わせください。
（※）の製品は同梱品と同じものです。

バッテリーグリップ D-BG2

操作性を重視し、縦位置撮影のためのシャッターボタン／前電子ダイヤル／後電子ダイヤル／**AE-L**ボタンなどを配備したバッテリーグリップ。

電源関連

ACアダプターキットK-AC50J
（ACアダプター D-AC50、ACコードD-CO2Jのセット）
家庭用電源からカメラへ電源を供給します。

バッテリー充電器キットK-BC50J（※）
（ACアダプター D-BC50、ACコードD-CO2Jのセット）

充電式リチウムイオンバッテリー D-LI50（※）

ACアダプター、およびバッテリー充電器は、セットでのみ販売しております。

ケーブルスイッチ CS-205

レリーズコードです。コードの長さは0.5mです。

リモートコントロールF

カメラ前面または背面5m以内からのリモコン撮影に使用します。

イメージセンサークリーニングキット O-ICK1

カメラのCCDや、レンズなどの光学製品の清掃に使用します。

ストロボ関連

オートストロボAF540FGZ
オートストロボAF360FGZ
AF540FGZはガイドナンバーの最大値が54（ISO100・m）、AF360FGZはガイドナンバーの最大値が36（ISO100・m）のP-TTL対応のオートストロボです。スレーブ機能や光量比制御モード、外光オート、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、スローシンクロ撮影、後幕シンクロ撮影などが可能です。

オフカメラシュークリップCL－10
AF540FGZまたはAF360FGZなどをカメラから離して使用するときのセッティング用クリップ。

ホットシューアダプター FG

延長コードF5P

オフカメラシューアダプター F
外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コード。

ファインダー関連

拡大アイカップO-ME53
ファインダー倍率を約1.18倍に拡大して見ることができ、ピント合わせが容易になります。

マグニファイヤー FB
ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。

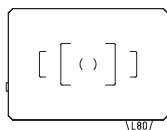
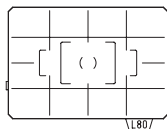
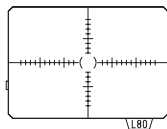
レフコンバーター A
ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができるアクセサリー。倍率は1倍と2倍に切り替えることができます。

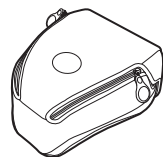
視度調整レンズアダプター M
視度を調整するためのアクセサリーです。ファインダーの接眼部に取り付けて使用します。
視度調整レンズアダプター Mは、－5～＋3m⁻¹（毎メートル）までの8種類ございますので、ご自分の視力に合った視度調整レンズアダプターをお使いください。

MEファインダーキャップ（※）

アイカップFP（※）

交換フォーカシングスクリーン

LF-80：AFフレームマット（標準品）

LL-80：AF分割マット

LI-80 ：AFスケールマット

カメラケース・ストラップ

カメラケースO-CC55

カメラストラップO-ST53（※）

その他

ホットシューカバー FK（※）

USBケーブルI-USB17（※）

ビデオケーブルI-VC28（※）

エラーメッセージ

エラーメッセージ	内容
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.48、p.100） 記録形式をJPEGに変更するか、JPEG記録サイズまたはJPEG画質を変えると保存できる可能性があります。（p.118、p.119）
画像がありません	SDメモリーカードに再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません	このカメラでは再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
カードが入っていません	カメラにSDメモリーカードがセットされていません。（p.48）
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合もありますが、カメラでは使用できません。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。カメラでフォーマットしてからお使いください。（p.188）
カードが ロックされています	ロックされたSDメモリーカードがセットされています。SDメモリーカードのロックを外してください。（p.49）
カードが ロックされています 回転情報を保存できません	
電子的にロックされています	SDメモリーカードのセキュリティ機能によって保護されています。
この画像を拡大表示できません	拡大不可能な画像を拡大表示しようとしています。
この画像は プロテクトされています 回転情報は保存できません	回転させようとしている画像がプロテクトされています。画像のプロテクトを外してください。（p.104）
このカードは利用できません	カメラで使用できないSDメモリーカードが入っています。カメラで使用可能なSDメモリーカードを入れてください。
電池容量がなくなりました	電池残量がありません。新しいバッテリーと交換してください。（p.43）

エラーメッセージ	内容
電池容量がたりないためクリーニングをおこなえません	CCDクリーニング時に電池容量が足りない場合に表示されます。バッテリーを交換するか、ACアダプター D-AC50（別売）を使用してください。（p.47）
フォルダが作成できません	最大のフォルダNo.（999）およびファイルNo.（9999）が使用されているため、画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。（p.188）
画像を保存できませんでした	SDメモリーカードの異常で撮影した画像が保存できませんでした。
設定を正しく保存できませんでした	SDメモリーカードが容量いっぱいまで使用されていて、DPOF設定または回転させた画像が保存できません。不要な画像を消去して、再度DPOF設定または回転をしてください。（p.100）
RAW画像は設定できません	RAW画像に対してDPOF設定はできません。
RAW画像には対応していません	RAW画像にデジタルフィルタは使用できません。
フィルタ処理できる画像がありません	「▶再生」メニューからデジタルフィルタを起動した場合に、保存されている画像がすべてRAWあるいは、他のカメラで撮影された画像である場合に表示します。
この画像をフィルタ処理できません	他のカメラで撮影した画像に対して、Fn メニューからデジタルフィルタを実行した場合に表示します。
DPOFファイルがありません	DPOF設定されたファイルがありません。DPOF設定をしてから、DPOF指定印刷をしてください。（p.106）
プリンタエラーです	プリンターにエラーが発生したため、印刷できません。プリンターのエラーを解消してから、印刷してください。
用紙がありません	プリンターに用紙がありません。プリンターに用紙をセットしてから、印刷してください。
インクが少なくなりました	プリンタのインクが少なくなり、プリンタ側から信号を受けた時点で表示されます。2秒表示した後、動作を続行します。
インクがありません	プリンターのインクが切れています。プリンターのインクを交換してから、印刷してください。
用紙が詰まりました	印刷中に用紙が詰まりました。詰まった用紙を取り除いてから、印刷してください。
データエラーです	印刷中にデータエラーが発生しました。

困ったときは

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの残量がない	容量のあるバッテリーに交換するか、ACアダプター D-AC50を使用してください。（p.47）
シャッターがきれない	レンズの絞りが**A**位置以外になっている	絞りを**A**位置にするか（p.147）、「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」で「許可」を選択してください（p.210）。
	内蔵ストロボが充電中	充電が終わるまで待ってください。
	SDメモリーカードに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.48、p.100）
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの（青空や白壁など）、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。あるいはマニュアルフォーカスを使用してください。（p.136）
	AFエリアに被写体が入っていない	ファインダー中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、 AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影してください。
	フォーカスモードレバーが **MF** になっている	フォーカスモードレバーを **AF.S**（シングルモード）にしてください。（p.130）
	フォーカスモードが**AF.C**（コンティニュアスモード）になっている	フォーカスモードを**AF.C**に設定しているときは、合焦後もピントが固定（フォーカスロック）されず、シャッターボタン半押し中は被写体のピントを追い続けます。ピントを合わせたいものが決まっている場合は、フォーカスモードレバーを**AF.S**にし、フォーカスロックを用いて撮影してください。

現象	原因	対処方法
AEロックが働かない	■(グリーン)モード、B(バルブ)モード、X(ストロボ同調速度)モードでは、AEロックできない	■（グリーン）モード、B（バルブ）モード、X（ストロボ同調速度）モード以外にしてください。
内蔵ストロボが発光しない	撮影モードが■（グリーン）モードになっている	撮影モードが■の場合は、ストロボモードが⚡A（自動発光）または⚡A◎（自動発光+赤目軽減）のみの選択となります。これらのストロボモードになっているときは、被写体が明るいとストロボは発光しません。■以外の撮影モードでは、ストロボが充電完了すると常に発光するストロボモードのみの選択となりますので、撮影モードを変更してみてください。
パソコンとのUSB接続がうまくいかない※	転送モードが「PictBridge」になっている	転送モードを「PC」に切り替えてください。
	USBデータ転送でエラーが発生している	転送モードを「PC-F」に切り替えてください。
プリンターとのUSB接続がうまくいかない	転送モードが「PC」あるいは「PC-F」になっている	転送モードを「PictBridge」に切り替えてください。（p.110）
手ぶれ補正が効かない	手ぶれ補正機能がオフになっている	手ぶれ補正スイッチをオンにしてください。
	手ぶれ補正機能が設定されていない	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合は、「手ぶれ補正」画面で「レンズ焦点距離」を設定してください。（p.69）
	流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件で、手ぶれ補正機能の補正範囲を超えている	手ぶれ補正機能の補正範囲を超える場合は、手ぶれ補正機能をオフにして、三脚などを使用してください。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影するか、手ぶれ補正機能をオフにして、三脚などを使用するかしてください。

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリーを入れ直してみてください。また、ミラーが上がったままになった場合には、バッテリーを入れ直してから電源をオンにするとミラーが下がります。これらを行ないカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

※ パソコンとの接続については、別冊の「PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3使用説明書」のp.11をご覧ください。

主な仕様

型　式	P-TTLストロボ内蔵、TTL自動露出オートフォーカス一眼レフデジタルカメラ
有効画素数	1020万画素
撮像素子	総画素数1075万画素、原色フィルター／インターラインインターレーススキャンCCD
記録画素数	10M（RAW／JPEG：3872×2592ピクセル）、6M（3008×2000ピクセル）、2M（1824×1216ピクセル）
ISO感度	オート、マニュアル（ISO 100～1600（1 EVステップ、1/2 EVステップまたは1/3 EVステップの選択可））
記録方式	RAW（PEF／DNG）、JPEG（Exif2.21）、DCF準拠、DPOF対応、Print Image Matching III対応、RAW+JPEG同時記録可能
JPEG画質	★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード

撮影枚数

記録サイズ	記録形式／JPEG画質	容量					
		4GB	2GB	1GB	512MB	256MB	128MB
10M 3872×2592	RAW（PEF）	約237枚	約120枚	約59枚	約29枚	約15枚	約7枚
	RAW（DNG）	約237枚	約120枚	約59枚	約29枚	約15枚	約7枚
10M 3872×2592	★★★	約804枚	約409枚	約202枚	約101枚	約50枚	約26枚
	★★	約1371枚	約698枚	約345枚	約172枚	約87枚	約44枚
	★	約2366枚	約1205枚	約592枚	約296枚	約149枚	約76枚
6M 3008×2000	★★★	約1340枚	約682枚	約337枚	約168枚	約85枚	約43枚
	★★	約2277枚	約1159枚	約575枚	約287枚	約145枚	約74枚
	★	約3893枚	約1982枚	約990枚	約495枚	約249枚	約128枚
2M 1824×1216	★★★	約3657枚	約1862枚	約915枚	約457枚	約230枚	約118枚
	★★	約6034枚	約3073枚	約1549枚	約774枚	約390枚	約200枚
	★	約10057枚	約5121枚	約2627枚	約1313枚	約662枚	約339枚

JPEG画質（圧縮比）：★★★（S.ファイン）＝1/3、★★（ファイン）＝1/6、★（エコノミー）＝1/12

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、曇天、蛍光灯（D：昼光色、N：昼白色、W：白色）、白熱灯、ストロボ、マニュアル、色温度（3種類）
液晶モニター	2.5型約21万画素低温ポリシリコンTFTカラーLCD広視野角タイプ、明るさ調整機能付
再生機能	1コマ、4画面、9画面、16画面、拡大（最大20倍まで、スクロール可）、回転表示、フォルダ表示、スライドショウ、ヒストグラム、白とび黒つぶれ表示

デジタルフィルタ	白黒、セピア、カラー、ソフト、スリム、明るさ（撮影後処理のみ）
露出モード	**USER**、グリーン、**P** ハイパープログラム、**Sv** 感度優先、**Tv** シャッター優先、**Av** 絞り優先、**TAv** シャッター＆絞り優先、**M** ハイパーマニュアル、**B** バルブ、**X** ストロボ同調速度
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター、オートシャッター＝1/4000秒～30秒（無段階）、マニュアルシャッター＝1/4000秒～30秒（1/2 EVステップまたは1/3 EVステップの選択可）、バルブ、電磁レリーズ、電源オフでシャッターロック
マウント	ペンタックスバヨネットKAF2マウント（AFカプラー、レンズ情報接点、電源接点付Kマウント）
使用レンズ	KAF2マウントレンズ、KAFマウントレンズ、KAマウントレンズ
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式（SAFOX Ⅷ）、オートフォーカス作動輝度範囲EV –1～18（ISO 100相当）（F1.4レンズ付き）、フォーカスロック可能、フォーカスモード＝**AF.S**（シングル）／**AF.C**（コンティニュアス）／**MF**、測距点切り替え可能
ファインダー	ペンタプリズムファインダー、ナチュラルブライトマットⅡ交換式フォーカシングスクリーン、視野率95％、倍率0.95倍（1.4／50mm・∞）、視度＝$-2.5m^{-1}$～$+1.5m^{-1}$（毎メートル）
ファインダー内表示	フォーカス表示●合焦＝点灯／非合焦＝点滅、⚡点灯＝内蔵ストロボ充電完了、点滅＝ストロボお勧めまたは不適合レンズ警告、シャッター速度、ISO感度確認、絞り値、電子ダイヤル有効表示、✱＝AEロック、撮影可能枚数、☑＝露出補正、⚡±＝ストロボ補正表示、**MF**＝マニュアルフォーカス表示、**ISO**＝ISO感度警告表示、手ぶれ補正表示、露出バー
LCDパネル表示	⚡点灯＝内蔵ストロボ充電完了、点滅＝ストロボお勧めまたは不適合レンズ警告、Ⓐ＝自動発光、◉＝赤目軽減、**SLOW**＝スローシンクロ、□＝1コマ撮影、⧉＝連続撮影、⏲＝セルフタイマー、▯＝リモコン撮影、▭＝電池消耗警告、⧉＝オートブラケット（露出設定ステップは、1/2 EVまたは1/3 EVから選択可）、⚡±＝ストロボ光量補正、ISO感度警告表示、シャッター速度、絞り値、ホワイトバランス、撮影可能枚数、☑＝露出補正値、USB接続時に**PC**（マスストレージ）／**Pb**（PictBridge）を表示、露出バー、**RAW**、**RAW**＋
プレビュー機能	光学プレビュー：被写界深度確認（電子式、全露出モードで使用可能） デジタルプレビュー：構図、露出、ピント、ホワイトバランス確認
連続撮影	約3コマ／秒、JPEG：SDメモリーカード空き容量まで継続可　RAW：9コマまで継続可
セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒／2秒（ミラーアップ機能あり）、電子音の有無設定可能、作動後解除可能
リモコン	ペンタックスリモートコントロールF（別売）受信後即レリーズ、または3秒後にレリーズの切換え可
ミラー	クイックリターンミラー、ミラーアップ機能（2秒セルフ時可能）
露出ブラケット	適正・アンダー・オーバーの3／5コマ連続段階露出が可能（露出設定ステップは、1/2 EVまたは1/3 EVから選択可）

拡張ブラケット	ホワイトバランス・彩度・シャープネス・コントラストの3コマ連続段階画像が保存可能
多重露出	撮影回数は2～9回を選択可能（撮影回数に応じて自動露出調整可）
露出計・測光範囲	TTL開放分割測光（16分割）、測光範囲EV 0～21（50mm F1.4 ISO 100）、中央重点・スポット測光可能
露出補正	±3EV（1/2EVステップ）、±2EV（1/3EVステップ）、露出設定ステップ選択可能
AEロック	ボタン式（タイマー式：カスタムファンクションで設定した測光作動時間の2倍）シャッターボタン半押しで継続
内蔵ストロボ	直列制御P-TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー11（ISO 100）、18mmレンズの画角をカバー、同調速度1/180秒以下、日中シンクロ低速シンクロ可能、ISO連動範囲＝P-TTL：100～1600
外付けストロボ同調	ホットシュー（X接点専用ストロボ接点付き）専用ストロボ連動ISO連動範囲＝P-TTL: 100～1600、自動発光可能、赤目軽減機能可能、専用ストロボ使用でハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ
カスタムファンクション	32項目設定可能
時計機能	ワールドタイム設定、世界71都市に対応（28タイムゾーン）
ダストリムーバル	SPコーティングおよびCCD駆動によるほこり除去が可能、起動時の作動設定可
電源	充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 50
バッテリー寿命（23℃）	撮影可能枚数：約500枚（ストロボ発光無し）*1／約480枚（ストロボ50%発光）*2、再生時間：約330分*1 *1 撮影枚数（ストロボ発光無し）、再生時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。 *2 撮影枚数（ストロボ50%発光）はCIPA規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
電池消耗警告	バッテリーマーク点灯（点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯）
入出力ポート	USB／VIDEO端子（USB2.0（ハイスピード対応））、DC入力端子、ケーブルスイッチ端子
ビデオ出力方式	NTSC／PAL
PictBridge	対応プリンター　PictBridge対応のプリンター 印刷モード　1画像印刷、全画像印刷、DPOF印刷
大きさ・質量（重さ）	141.5mm（幅）× 101mm（高）× 70mm（厚）（突起部を除く）710g（ボディーのみ）、790g（バッテリー、SDカード込み）
付属品	ホットシューカバー FK、アイカップFP、MEファインダーキャップ、ボディーマウントカバー、USBケーブルI-USB17、ビデオケーブルI-VC28、ソフトウェア（CD-ROM）S-SW55、ストラップO-ST53、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 50、充電器D-BC50、ACコードD-CO2J、使用説明書（本書）、PENTAX PHOTO Browser 3／PENTAX PHOTO Laboratory 3使用説明書、保証書
対応言語	日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、スウェーデン語、オランダ語、ロシア語、韓国語、中国語（繁体字／簡体字）

用語解説

AdobeRGB

Adobe Systems社が商業印刷原稿作成用に推奨している色空間。sRGBよりも広い色再現域をもち、印刷での色再現域をほぼカバーできるため、パソコン上での画像編集段階において、印刷でしか再現できない色域情報を失うことがありません。なお、対応しないソフトで開くと色が薄く見えてしまいます。

CCD（Charge Coupled Devices）

レンズを通して入ってきた光を電気信号に変換する撮像素子。

DCF（Design rule for Camera File system）

電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、デジタルカメラ用のファイルシステムに関する規格。

DNG RAWファイル

DNG（Digital Negative の略）は、Adobe Systems 社が提唱する汎用のRAWファイルフォーマット。標準仕様のないRAW形式をDNG形式に変換することで、画像の可搬性が向上します。

DPOF（Digital Print Order Format）

画像を記録したカードに、プリントするコマや枚数などの情報を書き込むためのルール。DPOF対応のプリント取り扱い店に持っていくと、簡単にプリントすることができます。

EV（Exposure Value）

露出値。絞り値とシャッター速度の組み合わせで決まります。

Exif（Exchangeable image file format for digital still camera）

電子情報技術産業協会（JEITA）によって標準化された、デジタルカメラ用のファイルフォーマットに関する規格。

ISO感度

光の明るさを感じる度合い。ISO感度が高いほど、暗いところでも速いシャッター速度で撮影できるため、カメラぶれしにくくなります。しかし、ISO感度が上がるほど、画像のノイズが多くなります。

JPEG
画像の圧縮方式で、このカメラでは画質を★★★（S. ファイン）／★★（ファイン）／★（エコノミー）から選べます。JPEG形式で記録した画像は、パソコンで閲覧したり、電子メールに添付するのに適しています。

NDフィルター
色調には影響を与えずに、明るさだけを調整するフィルターで、いろいろな濃度のものがあります。

NTSC／PAL
ビデオ出力方式のことで、主に日本、北米、韓国ではNTSCが用いられ、主にヨーロッパ諸国や中国ではPALが用いられています。

RAWデータ
CCDからの生出力を記録した画像データ。RAWデータはカメラ内部で画像処理される前の生データなので、RAW以外では撮影前にしておかなければならない設定（ホワイトバランス・コントラスト・彩度・シャープネスなど）を、撮影された後に1コマ1コマ個別に設定できます。またRAWデータはJPEGおよびTIFFの8bitデータに対し、16倍の情報量を持った12bitデータなので、大変豊かな階調表現が可能です。パソコンに転送し、付属のソフトウェアを使用することで、JPEGやTIFFなど設定の異なる画像データを作成することができます。

sRGB（standard RGB）
IEC（International Electrotechnical Commission、国際電気標準会議）が定める色空間の国際規格。一般的なパソコン用モニタの標準値から定義された色空間で、Exifの標準色空間としても使用されています。

色温度
被写体を照らしている光源の色を数値で表したもの。絶対温度で表され、単位はケルビン（K）を使用します。色温度が高くなるにつれて光の色は青味を帯び、色温度が低くなるにつれ光の色は赤味を帯びていきます。

色空間
色スペクトルのうちで使用する範囲を定義したもの。デジタルカメラでは、Exifの定義により「sRGB」が標準として使われています。このカメラでは、sRGBより多くの色を表現できる「AdobeRGB」も色空間として使用できます。

オートブラケット
設定を自動で変えて撮る機能。補正なしの画像、マイナス補正した画像、プラス補正した画像を連続して撮影できます。露出を変えて撮る露出ブラケット、ホワイトバランス／彩度／シャープネス／コントラストの任意の項目を変えて撮る拡張ブラケットを搭載しています。

画質
画像の圧縮率。圧縮率が低くなるにつれて画像はきめ細かく、圧縮率が高くなるにつれて画像は粗くなります。

カメラぶれ（手ぶれ）
シャッターが開いている間にカメラが動いてしまったために、被写体全体が流れたように写ってしまう現象。シャッター速度が遅いときに発生しがちです。
ISO感度を高めたり、ストロボを使ったりしてシャッター速度を速くする、また、三脚などを使ってカメラを固定することで防止できます。また、カメラぶれは、シャッターを押す動作で発生しがちなので、手ぶれ補正機能、セルフタイマーやリモコン、ケーブルスイッチを使うのも有効です。

記録サイズ
画像の大きさを点（ピクセル）の数で表したもの。画像を構成する点（ピクセル）の数が多くなるほど、画像の大きさは大きくなります。

黒つぶれ
画像の暗い部分の階調が失われ、真っ黒になってしまうこと。

ケラレ
撮影した写真の周辺部がフードやフィルターなどでさえぎられて黒くなったり、レンズでストロボ光の一部がさえぎられて影になる現象。

絞り
光がレンズを通るときの光束（光の太さ）を広くしたり、狭めたりしてCCDにあたる光の量を調整する機構のこと。

シャッター速度
シャッターを開き、光をCCDに当てている時間。シャッター速度を速くしたり、遅くしたりすることで、CCDにあたる光の量を調整します。

白とび
画像の明るい部分の階調が失われ、真っ白になってしまうこと。

測距点
ファインダー内でピントを合わせる位置。このカメラでは、「オート」「セレクト」「中央」から選べます。

測光方式
露出を決めるために、被写体の明るさを計測する方式。このカメラでは、「分割測光」「中央重点測光」「スポット測光」から選べます。

ノイズリダクション
シャッター速度を遅くしたときに発生するノイズ（画面のざらつきやムラ）を減らす処理。

被写界深度
ピントが合って見える範囲。絞り値、レンズの焦点距離、被写体までの距離によって変わります。例えば、絞り値を大きくすると深くなり、小さくすると浅くなります。

ヒストグラム
画像の最も暗い部分から最も明るい部分までの階調の分布をグラフ化したもの。横軸が明るさ、縦軸が画素数を表しています。画像の露光状態を知りたいときに便利です。

ホワイトバランス
撮影時の光源に合わせて色温度を調整し、被写体を見た目どおりの色合いに補正する機能。

ミレッド
単位あたりの色の変化が一定ではない色温度に対して、色の変化を一定にするように定められた尺度。色温度の逆数を100万倍して求められます。

露出補正
シャッター速度と絞りを変えて、画像の明るさを調整すること。

索引

記号

数字

A

B

C

D

F

I

J

M

N

O

P

5
付録

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックス ピックアップリペアサービス

全国（一部の離島を除く）どこからでも均一料金で修理品梱包資材のお届け・修理品のお引取りから、修理完成品のお届けまでを一括して提供する便利なサービスです。

電話受付
TEL 0120-737-919（フリーダイヤル）
TEL 03-3975-4314（携帯・PHS用）
（受付時間：土・日・祝日・年末年始および弊社休業日を除く9：00～17：00）

インターネット受付
URL：https://www.pentax.co.jp/japan/support/

FAX受付
FAX 03-3975-4318
インターネット受付のURLアドレスからFAX申込書をダウンロードしてお使いください。

[宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ]
ペンタックスサービス（株）東日本修理センター
TEL 03-3975-4341（代）
〒175-0082 東京都板橋区高島平6-6-2 ペンタックス（株）流通センター内
営業時間午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス（株）西日本修理センター
TEL 06-6271-7996（代）
〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス　**http://www.pentax.co.jp/**

[弊社製品に関するお問い合わせ]
お客様相談センター　**ナビダイヤル　0570-001313**
（市内通話料金でご利用いただけます。）

携帯電話、PHS、IP電話の方は、右記の電話番号をご利用ください。　**☎03-3960-3200（代）**

〒174-8639　東京都板橋区前野町2-36-9

営業時間　午前9：00～午後6：00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

[ショールーム・写真展・修理受付]
ペンタックスフォーラム　**☎03-3348-2941（代）**

〒163-0690　東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB（中地下1階）

営業時間　午前10：30～午後6：30

休業日　毎週火曜日、年末年始およびビル点検日

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属しています CD-ROM と弊社ホームページから登録が可能です。
同梱の「PENTAX PHOTO Browser 3 ／ PENTAX PHOTO Laboratory 3 使用説明書」（Windows をお使いの方：p.9、Mac OS をお使いの方：p.10）をご参照ください。

for your
precious moments

ペンタックス株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

57775
02N-200704
Printed in Philippines